

令和3年度厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業）
分担 研究報告書

自立訓練のプログラムおよび支援内容に関する調査研究

研究分担者	鈴木 智敦	名古屋市総合リハビリテーションセンター	副センター長
	渡邊 崇子	横浜市総合リハビリテーションセンター	障害者支援施設施設長
研究協力者	田中 雅之	名古屋市総合リハビリテーションセンター	自立支援部長
	松尾 稔	名古屋市総合リハビリテーションセンター	生活支援課長

研究要旨

障害福祉サービスにおける自立訓練（機能訓練・生活訓練）では、障害状況やニーズに応じて多様なプログラムおよび支援内容（以下 支援プログラム等）が提供されているが、その障害種別ごとの全国的な実態を調査した研究はない。また、サービスの質の担保や、効果的な支援を実施するためには、標準的に実施されるべき支援プログラム等（以下 標準的支援プログラム等）やその実施方法をある程度均一化すること（以下 標準的プログラムマニュアル）が必要であると考え。そこで、全国の自立訓練事業所を対象に、実際に提供されている支援プログラム等についての調査を実施し、障害種別ごとの傾向や特徴の分析を行った。

その結果、どの障害においても、共通して実施されている支援プログラム等とは多くはなかったが、職員・利用者ともに効果を実感しているプログラムは多くあり、利用者の障害状況や目標に応じて支援プログラム等は個別に組み合わせられて実施されている状況がうかがえた。また、自立訓練の行っている社会リハビリテーションの中心であるIADL/社会生活力訓練と地域移行・社会生活に向けた支援は、どの障害においても職員・利用者の効果の実感率が高く、身体機能の維持・向上やADL訓練、地域貢献活動は障害種別や障害状況によって特徴的に提供されていた。

考察において、令和2年度に本研究で開発された社会リハビリテーション支援プログラムに関する評価指標「SIM(Social Independence Measure)」と今回の調査結果である支援プログラム等の実施率や効果を実感している割合（以下、効果実感率とする）の関連性をもとに、標準的支援プログラム等の構成要素を提案した。標準的プログラム等や標準的プログラムマニュアルの作成とSIMによる効果検証は今後の課題として引き継いでいきたい。

A. 研究目的

自立訓練（機能訓練・生活訓練）においては、障害者の自立や地域生活移行、社会参加を支援するための役割を意識した支援プログラム等を提供している。サービス対象となる障害は多岐にわたり、かつゴールとなる「自立」「社会参加」のあり方も、利用者個々のニーズに応じて幅広いため、同じ機能訓練・生活訓練であっても、提供している支援プログラム等の内容は多

岐にわたっていることが「自立訓練（機能訓練、生活訓練）の実態把握に関する調査研究」（厚生労働省平成30年度障害者総合福祉推進事業）（以下H30推進事業）で示された。

提供している支援プログラム等はニーズやゴールに応じて個別性が高くならざるを得ない場合もあるが、各地域で提供されるサービスの質の担保のため、また利用者の目標達成を効果的・効率的に実現するために

は、各事業において提供すべき標準的な支援プログラム等が必要である。現状ではそれが明らかになっていない。また、H30 推進事業では、機能訓練と生活訓練に分けて支援プログラム等の分析を行ったが、障害別の支援プログラム等の分析はなされていない。

そこで、本研究では、全国の自立訓練事業所を対象に、提供されている支援プログラム等についての調査を行い、その障害種別ごとの傾向や特徴の分析、利用者・職員の効果実感率を含め、自立訓練事業としての標準的な支援プログラム等の枠組みを整理することを目的とする。

B. 研究方法

1. 対象

全国の自立訓練事業所及びその利用者。

事例は令和3年1月～9月までに利用終了した方のうち、目標達成した事例を1事業所につき最大3事例まで提出してもらった。

2. 調査内容

調査票（総括報告書 資料2）に従い、自立訓練事業所の利用者に対し、実際に提供した支援プログラム等、実施形式、実施頻度、各支援プログラム等における評価指標の有無、職員・利用者が目標達成に対して、その支援プログラム等に効果を実感できたかを回答してもらった。「利用者が効果を実感できたか」以外の設問は職員が回答した。

3. 調査方法

調査票を自立訓練事業所に郵送で発送し、事業所の職員・利用者に回答を入力した印刷物を返送、またはメールの添付ファイルでデータを返信してもらい、集まったデータを統計処理し、障害種別ごとに分析を行った。

4. 支援プログラム等の分類

支援プログラム等の内容は、H30 推進事業の分類をもとに、R3 年度に実施した本研究の予備調査の結果を踏まえて、最終的に、1)機能維持・向上訓練(8 項

目)、2)ADL 訓練(14 項目)、3)IADL・社会生活力訓練(32 項目)、4)一般就労に向けた訓練(6 項目)、5)その他の訓練(10 項目)、6)地域移行・社会生活に向けた支援(18 項目)、7)家族支援(5 項目)、8)地域貢献活動(5 項目)の8分類に整理した。

5. 調査期間

令和3年9月15日～10月27日

6. 倫理面への配慮

調査対象となる利用者は評価指標調査と同一のため、今回送受信したデータには個人情報含まれていない。

C. 結果

1. 回答率

H30 推進事業の発送リストをもとに、機能訓練事業所159ヶ所、生活訓練事業所1292ヶ所に発送し、回答数は以下の通りであった。回答率は発送数から宛先不明等と無効回答数の和を引いた数字を母数として算出した。無効回答には、記載漏れ以外に、事業を中止している、該当する対象者がいないと回答した事業所が含まれている。また、機能訓練と生活訓練をともに実施している事業者が27事業所あった。

2. 法人調査結果

(1) 法人種別

回答のあった事業所の法人種別ごとの割合は表2のとおりであった。

社会福祉法人が49.3%と約半数を占めていた。その他には、厚労省、地方公共団体、地方独立行政法人、株式会社などがあった。

(2) 指定を受けている障害福祉サービス

1) 機能訓練事業所

機能訓練事業所が併せて提供しているサービス種別の割合は表3のとおりであった。

施設入所支援、生活訓練、生活介護の順に多くなっていた。機能訓練の定員の平均は25.2名で、施設入所支援、療養介護、生活介護、就労移行支援は定員

の平均が機能訓練よりも多くなっていた。

2) 生活訓練事業所

生活訓練事業所が併せて提供しているサービス種類の割合は表4のとおりであった。

就労継続支援B型、就労移行支援、共同生活援助の順に多くなっていた。生活訓練の定員の平均は12.8名で、機能訓練、施設入所支援、生活介護、就労移行支援、就労継続支援A型・B型、共同生活援助は、定員の平均が生活訓練よりも多くなっていた。

(3) 専門職の配置状況(常勤換算)

1) 機能訓練事業所(n=58)

機能訓練事業所で各専門職が配置されている割合とその平均人数は表5のとおりであった。

割合が最も高かったのは理学療法士で、作業療法士も5割を超えていた。機能訓練の人員配置基準にない公認心理師を17.2%、言語聴覚士を32.8%の事業所が配置していた。

平均人数で2名を超えていたのは機能訓練指導員と歩行訓練士で、理学療法士と作業療法士は1名を超えていたが、それ以外の職種は1未満となっていた。

2) 生活訓練(n=173)

生活訓練事業所で各専門職が配置されている割合とその平均人数は表6のとおりであった。

専門職を配置している事業所は、機能訓練事業所と比べ全般的に少なかった。最も割合が最も高かったのは作業療法士の15.0%で、公認心理師も10%を超えていた。

平均人数で1名を超えていたのは作業療法士と機能訓練指導員のみであった。

3. 事例の基本情報

(1) 事例の分類

回答のあった事例数は無効回答を除き321事例であった。

機能訓練利用者が94名、生活訓練利用者が227名、不明が2名であった。2名が機能訓練と生活訓練を両方利用していた。

調査項目の「主たる障害」をもとに、①肢体不自

由(脳血管障害等)(以下肢体不自由(脳血管)とする)、②肢体不自由(その他)、③視覚障害、④知的障害、⑤精神障害、⑥発達障害、⑦高次脳機能障害、⑧その他に分類した。

(2) 障害種別ごとの事例数

①肢体不自由(脳血管)が52事例、②肢体不自由(その他)が22事例、③視覚障害が15事例、④知的障害が78事例、⑤精神障害が90事例、⑥発達障害が20事例、⑦高次脳機能障害が42事例、⑧その他が2事例であった。

(3) 利用サービス名

回答事例の障害種別ごとに利用していたサービス名をまとめたものが表7である。

機能訓練(身体障害)、生活訓練(知的・精神障害)という枠組みはH30年度の報酬改定でなくなったが、概ね同じ枠組みのなかでサービス提供されていた。

(4) 性別

回答事例の障害種別ごとの男女の割合は表8のとおりであった。

全体では男性が女性の2倍強となっており、肢体不自由(脳血管)、発達障害、高次脳機能障害では、特に男性の比率が高くなっていた。

(5) 年齢

回答事例の障害種別ごとの年齢状況は表8のとおりであった。

平均年齢では、知的障害、発達障害で20代となっていたが、他の障害では40代であった。

最年少は18歳が多く、最年長では知的障害を除き60代となっていた。

(6) (主たる)障害(複数回答あり)

回答事例の障害種別ごとの(主たる)障害は、表9、表10のとおりであった。表9では該当者がいなかった障害種別は割愛してある。

(7) 重複障がい(複数回答あり)

回答事例の障害種別ごとの重複障害は、表11、表12のとおりであった。表11では該当者がいなかった障害種別は割愛してある。

(8) (主たる障害)疾患名

1) 身体

回答事例の障害種別ごとの(主たる障害)の疾患名(身体)は、表 13、表 14 のとおりであった。

いずれの表も該当者がいなかった障害種別は割愛してある。

2) 精神

回答事例の障害種別ごとの(主たる障害)の疾患名(精神)は、表 15、表 16 のとおりであった。

いずれの表も該当者がいなかった障害種別は割愛してある。

表1 事業種別ごとの発送数と回答状況

	機能訓練	生活訓練
発送数	159	1292
宛先不明等	7	91
無効回答数	8	71
有効回答数	58	173
回答率(%)	40.3	15.3

表2 法人種別の割合

法人種別	n	%
社会福祉協議会	5	2.2
社会福祉法人	110	49.3
医療法人	33	14.8
社団法人・財団法人	16	7.1
協同組合及び連合会	0	0.0
営利法人(会社)	15	6.7
特定非営利活動法人(NPO)	28	12.6
その他	10	4.5
不明	5	2.2
全体	223	100.0

表3 機能訓練事業所が提供しているサービス種別の割合(単位:名)

サービス種別	n	%	定員の平均
機能訓練	58	100.0	25.2
生活訓練	26	44.8	14.8
施設入所支援	30	51.7	67.8
短期入所	15	25.9	4.1
療養介護	1	1.7	50.0
生活介護	24	41.4	29.3
就労移行支援	21	36.2	28.7
就労継続支援 A 型	3	5.1	13.3
就労継続支援 B 型	8	13.8	31.5
共同生活援助	3	5.2	21.7
その他	3	5.2	10.0

表4 生活訓練事業所が提供しているサービス種別の割合(単位:名)

サービス種別	n	%	定員の平均
機能訓練	173	100.0	12.8
生活訓練	26	15.0	33.6
施設入所支援	36	20.8	81.6
短期入所	41	23.7	5.0
療養介護	0	0.0	0.0
生活介護	54	31.2	42.4
就労移行支援	72	41.6	14.3
就労継続支援 A 型	5	2.9	17.0
就労継続支援 B 型	84	48.6	25.8
共同生活援助	52	30.1	22.9
その他	14	8.1	14.1

表 5 機能訓練事業所が配置している専門職(単位:名)

サービス種別	配置あり		平均人数
	n	%	
理学療法士	47	81.0	1.1
作業療法士	36	62.0	1.2
機能訓練指導員	8	13.8	2.3
医師	16	27.6	0.5
公認心理師	10	17.2	0.8
言語聴覚士	19	32.8	0.6
歩行訓練士	7	12.1	2.6
手話通訳士	0	0.0	0.0
管理栄養士	13	22.4	0.8

表 6 生活訓練事業所が配置している専門職(単位:名)

サービス種別	配置あり		平均人数
	n	%	
理学療法士	8	4.6	0.7
作業療法士	26	15.0	1.2
機能訓練指導員	9	5.2	2.6
医師	9	5.2	0.2
公認心理師	19	11.0	0.9
言語聴覚士	5	2.9	0.5
歩行訓練士	0	0.0	0.0
手話通訳士	0	0.0	0.0
管理栄養士	9	5.2	0.7

表7 障害種別ごとの利用サービス(単位:名)

障害種別	機能訓練	生活訓練	不明	合計
肢体不自由(脳血管)	44	6	2	52
肢体不自由(その他)	20	2	0	22
視覚障害	14	1	0	15
知的障害	1	74	3	78
精神障害	0	90	0	90
発達障害	1	19	0	20
高次脳機能障害	10	32	0	42
その他	1	1	0	2
合計	91	225	6	321

表 8 障害種別ごとの男女割合(単位:名)

障害種別	男性	女性	合計
肢体不自由(脳血管)	43	9	52
肢体不自由(その他)	15	7	22
視覚障害	11	4	15
知的障害	48	30	78
精神障害	57	33	90
発達障害	15	5	20
高次脳機能障害	36	6	42
その他	1	1	2
合計	227	95	322

表 9 障害種別ごとの年齢状況(単位:歳)

障害種別	平均年齢	最年少	最年長
肢体不自由(脳血管)	46.3	18	63
肢体不自由(その他)	44.0	19	63
視覚障害	45.7	18	67
知的障害	27.6	18	54
精神障害	43.3	18	66
発達障害	27.9	18	63
高次脳機能障害	43.1	19	60
その他	46.0	30	62

表 9 障害種別ごとの(主たる)障害(身体障害)の状況(単位:名)

障害種別	片麻痺	四肢麻痺	その他の肢体	視覚	聴覚・言語	内部
肢体不自由(脳血管)	50	2	0	1	3	1
肢体不自由(その他)	1	5	16	0	0	1
視覚障害	0	0	1	15	0	0
高次脳機能障害	0	0	0	0	3	1
合計	51	7	17	16	6	3

表 10 障害種別ごとの(主たる)障害(知的・精神障害、その他障害)の状況(単位:名)

障害種別	知的	精神	発達	高次脳機能	難病	その他
肢体不自由(脳血管)	0	0	0	5	0	0
肢体不自由(その他)	1	0	1	0	0	0
視覚障害	0	0	1	0	0	0
知的障害	69	2	7	0	0	3
精神障害	2	74	1	0	0	3
発達障害	0	0	18	0	0	0
高次脳機能障害	0	1	0	35	0	2
その他	0	0	0	0	1	1
合計	72	77	28	40	1	9

表 11 障害種別ごとの重複障害(身体障害)の状況(単位:名)

障害種別	片麻痺	四肢麻痺	その他の肢体	視覚	聴覚・言語	内部
肢体不自由(脳血管)	6	0	0	2	10	3
肢体不自由(その他)	0	0	2	0	1	1
視覚障害	0	0	1	0	0	0
知的障害	0	0	0	4	2	1
精神障害	0	0	0	0	0	1
高次脳機能障害	6	0	2	1	4	0
合計	12	0	5	7	17	6

表 12 障害種別ごとの重複障害(知的・精神障害、その他障害)の状況(単位:名)

障害種別	知的	精神	発達	高次脳機能	難病	その他
肢体不自由(脳血管)	1	3	0	30	1	1
肢体不自由(その他)	2	1	0	2	0	0
視覚障害	2	0	1	0	0	0
知的障害	7	8	8	0	0	3
精神障害	9	6	5	3	0	2
発達障害	2	4	0	0	0	0
高次脳機能障害	0	2	0	14	0	4
その他	0	0	0	0	0	1
合計	23	24	14	49	1	11

表 13 障害種別ごとの(主たる障害)の疾患名(身体)の状況(単位:名)

障害種別	脳血管疾患	外傷性 脳損傷	脳性まひ	神経疾患	脊髄損・ 疾患	変形性股・ 膝関節
肢体不自由(脳血管)	46	1	0	0	0	0
肢体不自由(その他)	0	0	3	2	7	0
高次脳機能障害	15	14	0	0	0	0
合計	61	15	3	2	7	0

表 14 障害種別ごとの(主たる障害)の疾患名(身体)の状況(単位:名)

障害種別	関節リウマチ	切断	眼疾患	聴覚疾患	難病等	その他
肢体不自由(その他)	0	2	0	0	0	3
視覚障害	0	0	9	0	0	0
合計	0	2	9	0	0	8

表 15 障害種別ごとの(主たる障害)の疾患名(精神)の状況(単位:名)

障害種別	うつ病	統合失調症	認知症	気分障害	その他精神疾患
知的障害	2	1	0	0	3
精神障害	7	37	1	6	15
高次脳機能障害	1	0	0	0	1
合計	10	38	1	6	19

表 16 障害種別ごとの(主たる障害)の疾患名(精神)の状況(単位:名)

障害種別	LD	ADHD	ASD	生来(知的)
知的障害	0	2	2	15
精神障害	0	2	1	0
発達障害	0	2	11	0
合計	0	6	14	15

(9) 身体障害者手帳等級

回答事例の身体障害者手帳等級の状況は表 17 のとおりであった。

高次脳機能障害では身体障害者手帳未所持者(不明含む)が 6 割を超えていた。

高次脳機能障害を除くと、全体が 89 名のなか、1・2 級合わせて 75 名と重度障害が 8 割を超えていた。

(10) 精神保健福祉手帳等級

回答事例の精神保健福祉手帳等級の状況は表 18 のとおりであった。所持者の中では、2 級が最も

多くなっていた。

(11) 療育手帳等級

回答事例の療育手帳等級の状況は表 19 のとおりであった。

(12) 障害支援区分

回答事例の障害支援区分の状況は表 20 のとおりであった。区分なしが 111 名と約 35%を占めていた。

表 17 障害種別ごとの身体障害者手帳等級の状況(単位:名)

障害種別	1級	2級	3級	4級	5級	6級	7級	なし・不明
肢体不自由(脳血管)	21	22	6	1	0	0	0	2
肢体不自由(その他)	12	6	2	1	0	0	0	1
視覚障害	10	4	0	0	1	0	0	0
高次脳機能障害	3	5	4	2	0	0	1	27
合計	46	37	12	4	1	0	1	30

表 18 障害種別ごとの精神保健福祉手帳等級の状況(単位:名)

障害種別	1級	2級	3級	なし・不明
肢体不自由(脳血管)	0	4	3	45
知的障害	0	2	1	75
精神障害	7	45	13	25
発達障害	2	7	5	6
高次脳機能障害	2	11	13	16
合計	11	69	35	167

表 19 障害種別ごとの精神保健福祉手帳等級の状況(単位:名)

障害種別	A	A1	A2	B	B1	B2	その他
肢体不自由(その他)	1	0	0	0	0	1	0
知的障害	14	1	4	16	14	12	5
精神障害	0	0	0	2	1	0	0
発達障害	0	0	0	0	0	2	0
合計	15	1	4	18	15	15	5

表 20 回答事例の障害支援区分の状況(単位:名)

障害種別	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	なし	非該当	不明
肢体不自由(脳血管)	1	3	20	3	4	0	14	4	3
肢体不自由(その他)	1	1	3	5	3	0	6	1	2
視覚障害	1	3	1	6	0	0	2	0	2
知的障害	0	11	13	15	4	0	21	5	9
精神障害	0	11	16	2	0	0	40	13	8
発達障害	0	2	3	1	0	0	11	2	1
高次脳機能障害	1	7	4	1	2	0	17	6	4
その他	0	0	1	0	0	0	0	0	1
合計	4	38	61	33	13	0	111	31	30

(13) (主たる) 利用意向と (初期) 到達目標

障害種別ごとの (主たる) 利用意向と (初期) 到達目標は図 1～図 7 のとおりであった。障害種別のその他は 2 名のみであったため割愛している。

1) 肢体不自由 (脳血管)

(主たる) 利用意向・(初期) 到達目標ともに身体機能の維持・向上が最も多く約 5 割となっていた。以下就労・就学の支援、移動手段の獲得・向上の順に多くなっていた。

2) 肢体不自由 (その他)

(主たる) 利用意向、(初期) 到達目標ともに身体機能の維持・向上が最も多く、約 5 割となっていた。次点は、(主たる) 利用意向では、ADL・IADL の向上であったが、(初期) 到達目標では、就労・就学の支援となっていた。

3) 視覚障害

(主たる) 利用意向では、就労・就学の支援が最も多く、ADL・IADL の向上、ICT 技術の獲得、移動手段の獲得・向上、社会生活力の向上が 5 名以上となっていた。

(初期) 到達目標では、ADL・IADL の向上、移動手段の獲得・向上が最も多く、次いで ICT 技術の獲得となっていた。

4) 知的障害

(主たる) 利用意向では、就労・就学の支援、社会生活力の向上、生活リズムの獲得の順に多くなっていた。(初期) 到達目標では、生活リズムの獲得、社会生活力の向上、就労就学の支援となっていた。

5) 精神障害

(主たる) 利用意向では、就労・就学の支援、家庭復帰・地域生活移行への支援、生活リズムの獲得の順に多くなっていた。

(初期) 到達目標では、生活リズムの獲得、社会生活力の向上の順に多くなっていた。

6) 発達障害

(主たる) 利用意向では、就労・就学の支援、生活リズムの獲得、コミュニケーション能力の向上が 5 名以上となっていた。

(初期) 到達目標では、生活リズムの獲得が最も多く、次いで社会生活力の向上、生活スタイルの構築となっていた。

7) 高次脳機能障害

(主たる) 利用意向、(初期) 到達目標ともに就労・就学の支援が最も多くなっており、過半数を超えていた。

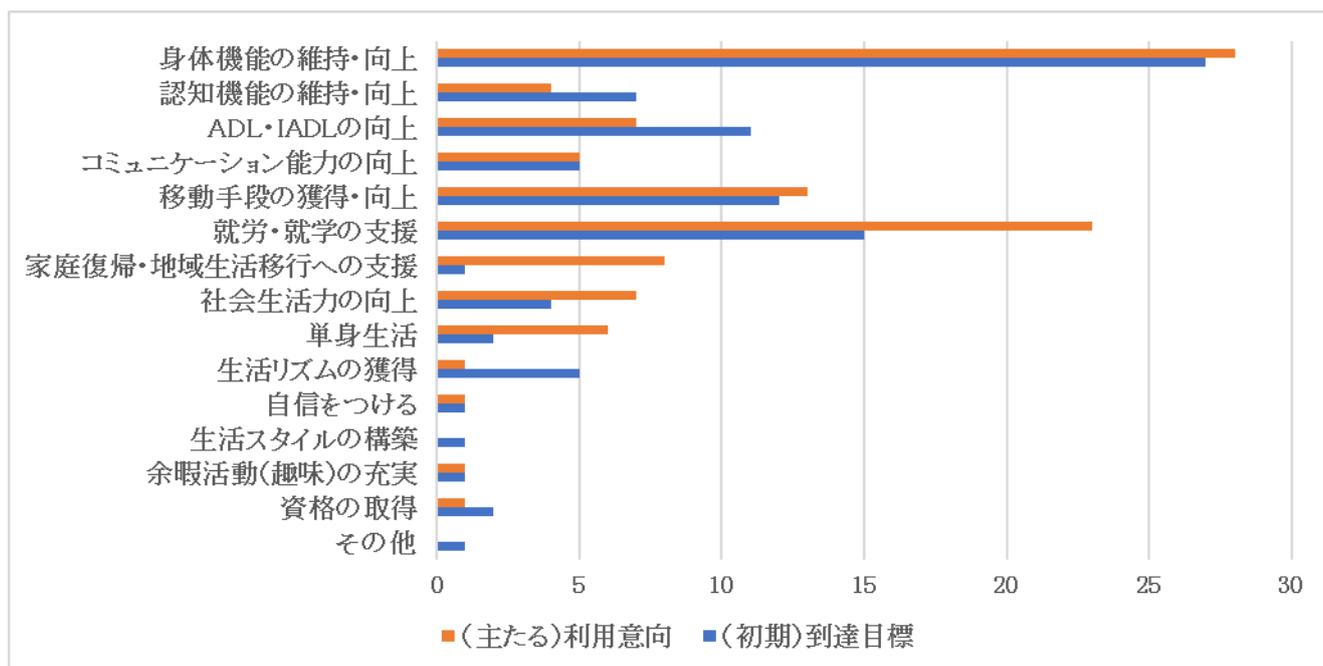


図1 肢体不自由(脳血管)の(初期)到達目標と(主たる)利用意向の回答数(単位:名)

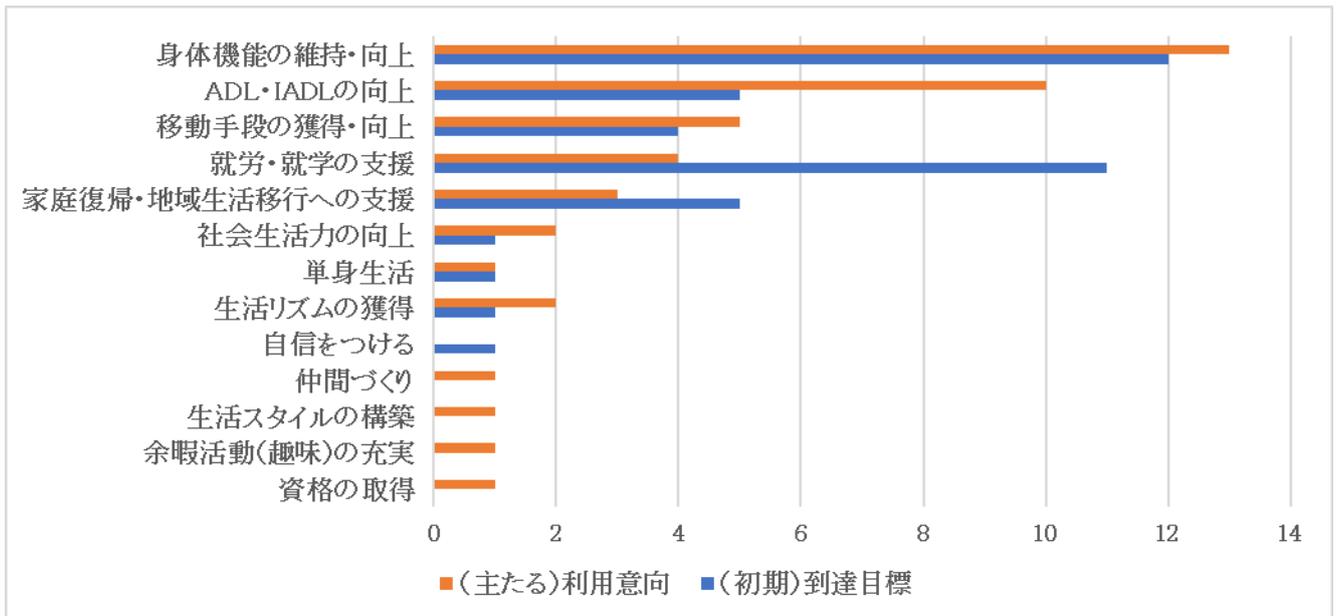


図2 肢体不自由(その他)の(初期)到達目標と(主たる)利用意向の回答数(単位:名)

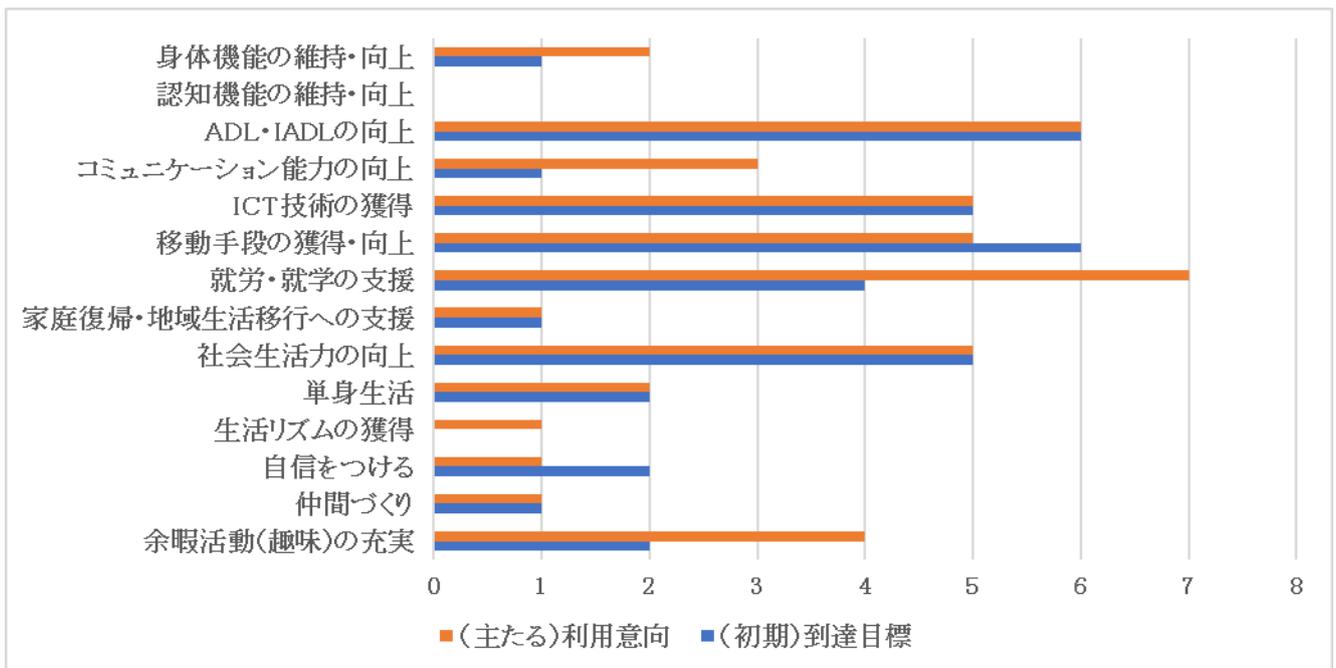


図3 視覚障害の(初期)到達目標と(主たる)利用意向の回答数(単位:名)

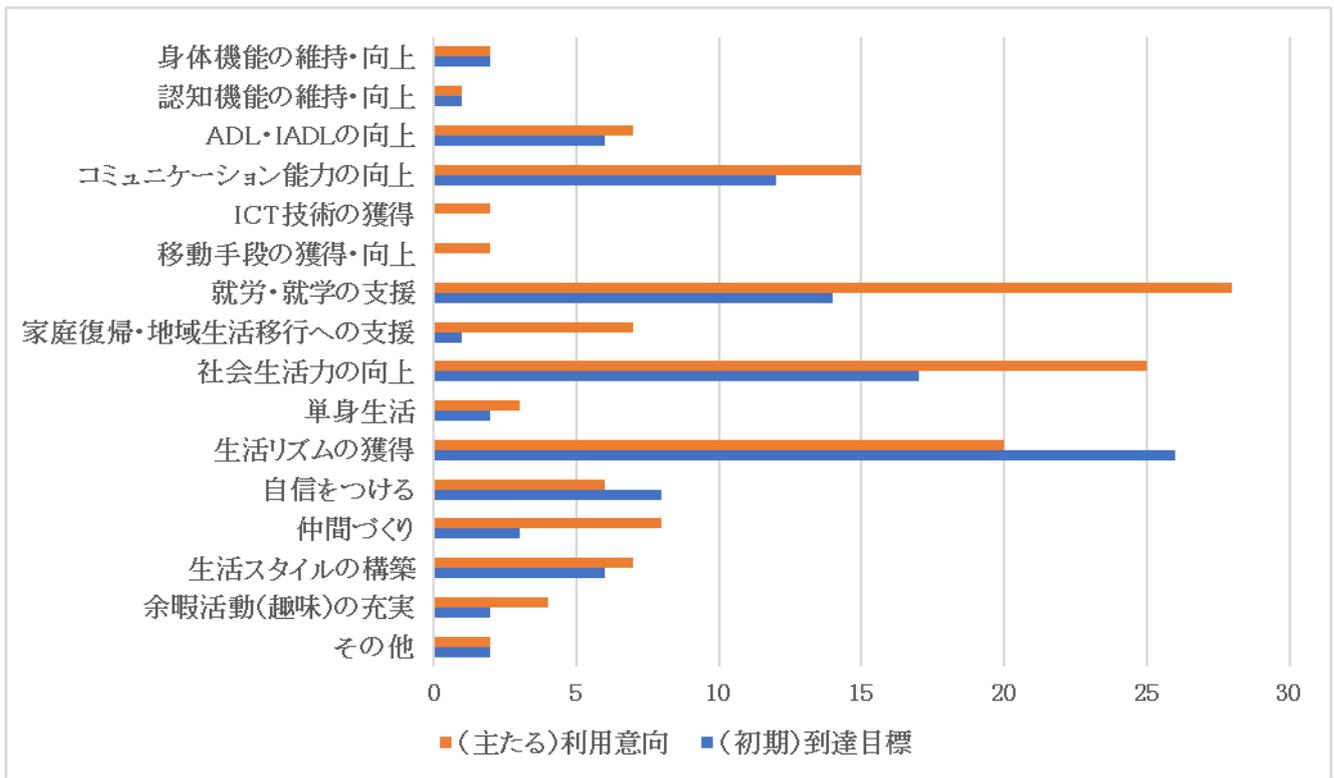


図 4 知的障害の(初期)到達目標と(主たる)利用意向の回答数(単位:名)

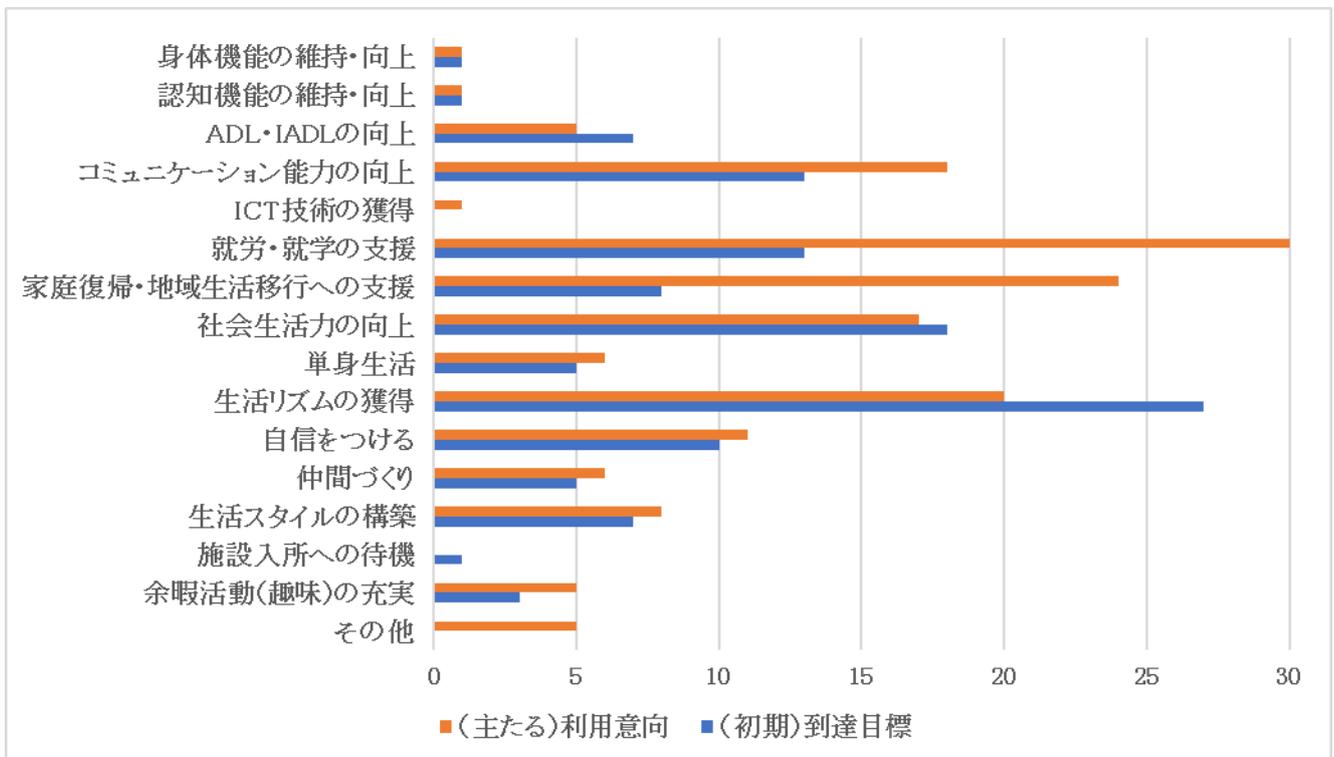


図 5 精神障害の(初期)到達目標と(主たる)利用意向の回答数(単位:名)

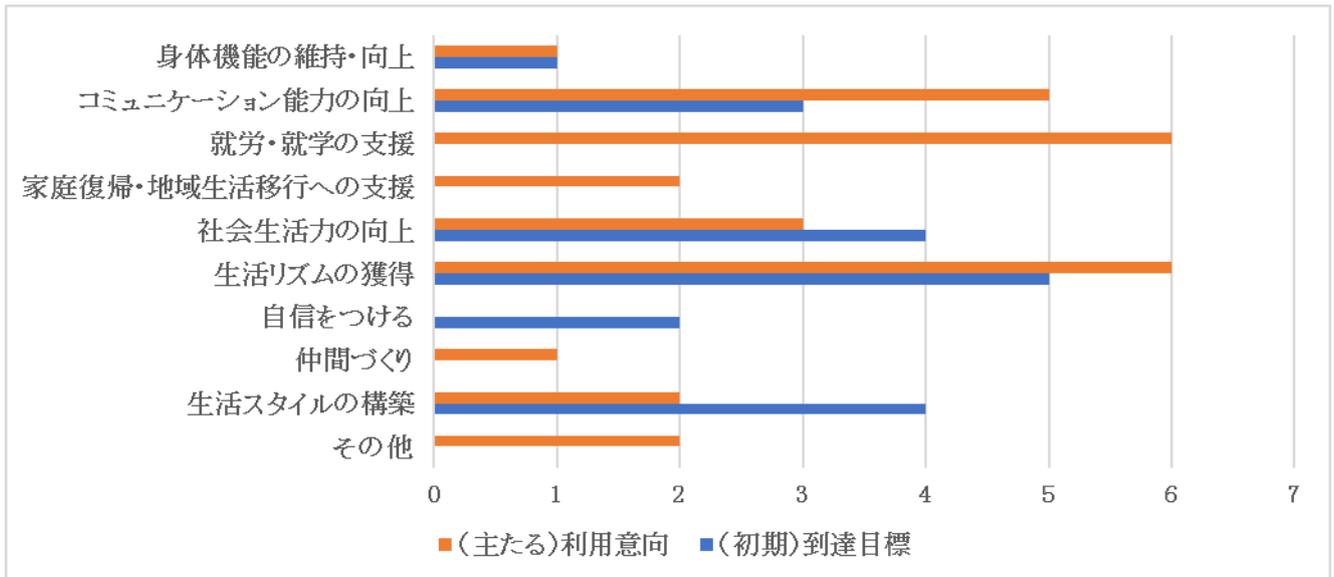


図 6 発達障害の(初期)到達目標と(主たる)利用意向の回答数(単位:名)

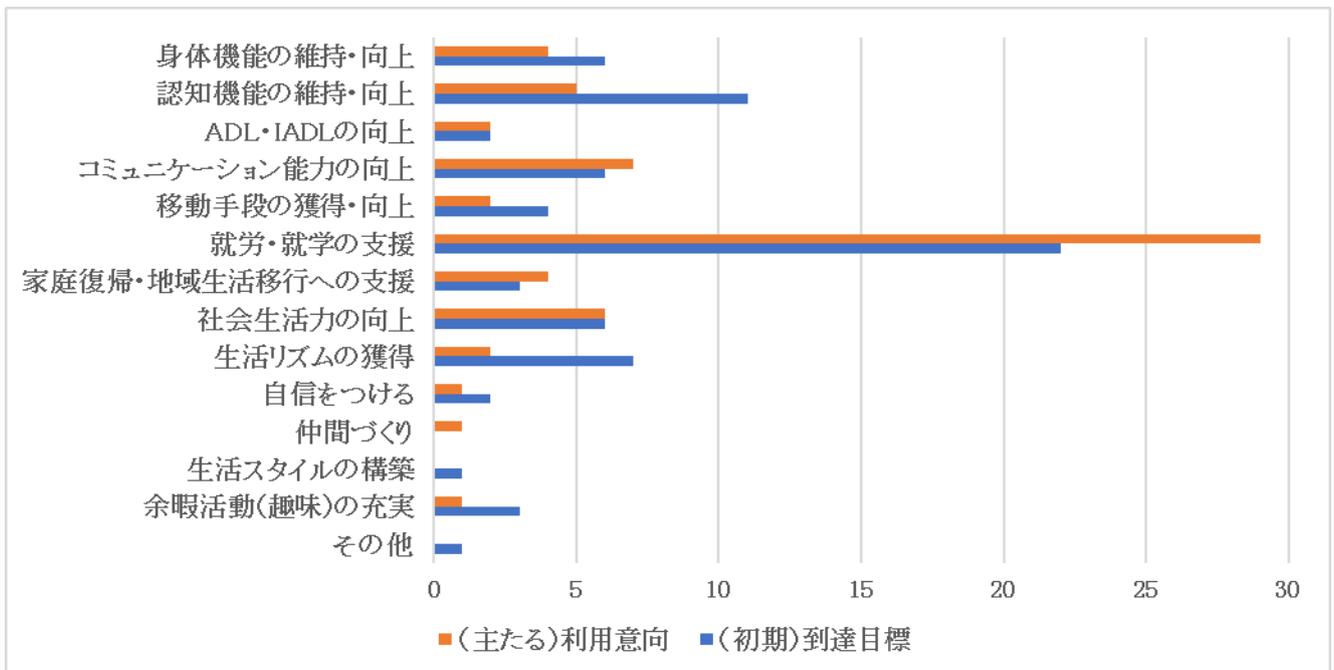


図 7 高次脳機能障害の(初期)到達目標と(主たる)利用意向の回答数(単位:名)

(14) 利用日数

回答者の障害種別ごとの利用日数の状況は表 21 のとおりであった。

平均利用日数では、365 日を超えていたのは、知的障害、精神障害であった。視覚障害が 132.9 日で最も短くなっていた。

最も利用日数が短かった事例では、知的障害、精神障害、発達障害、高次脳機能障害で 30 日を切っていた。逆に最も長かった事例では、知的障害、精

神障害が 1000 日を超えていた。

(15) 主な利用形態

障害種別ごとの利用開始時と利用終了時の利用形態は表 22 のとおりであった。

肢体不自由(その他)、知的障害、発達障害、高次脳機能障害では、利用開始から通所利用の割合が高くなっていた。肢体不自由(脳血管)では、利用終了時に入所から通所に切り替わっていた方が 10 名(19.2%)いた。

表 22 障害種別ごとの主な利用形態の状況(単位:名)(一部重複回答あり)

障害種別	平均利用日数	最小値	最大値
肢体不自由(脳血管)	283.0	48	694
肢体不自由(その他)	287.1	74	750
視覚障害	132.9	31	360
知的障害	372.3	20	1095
精神障害	451.0	12	1706
発達障害	277.5	16	528
高次脳機能障害	303.6	27	749
その他	270.0	270	270

表 22 障害種別ごとの主な利用形態の状況(単位:名)(一部重複回答あり)

障害種別		入所	通所	訪問	不明	合計
肢体不自由(脳血管)	開始時	28	24	0	0	52
	終了時	18	34	1	0	53
肢体不自由(その他)	開始時	8	14	0	0	22
	終了時	8	13	0	1	22
視覚障害	開始時	7	7	1	0	15
	終了時	7	7	1	0	15
知的障害	開始時	8	67	2	2	79
	終了時	7	59	0	12	78
精神障害	開始時	32	47	6	7	92
	終了時	23	52	7	10	92
発達障害	開始時	0	19	1	0	20
	終了時	1	17	0	3	21
高次脳機能障害	開始時	9	32	0	1	42
	終了時	8	32	1	1	42
その他	開始時	1	1	0	0	2
	終了時	1	1	0	0	2

(16) 生活拠点

1) 肢体不自由(脳血管)

肢体不自由(脳血管)の利用前後の生活拠点の状況を表したのが図 8 である。

共同生活援助に移行したケースが 3 名いたが、それ以外は元の住まいに戻っていた。

2) 肢体不自由(その他)

肢体不自由(その他)の利用前後の生活拠点の状況を表したのが図 9 である。

施設入所が 1 ケースあったが、それ以外は元の住まいに戻っていた。

3) 視覚障害

視覚障害の利用前後の生活拠点の状況を表したのが図 10 である。

施設入所移行が2名、共同生活援助移行が1名いたが、それ以外は元の住まいでの生活を継続していた。

4) 知的障害

知的障害の利用前後の生活拠点の状況を表したのが図 11 である。

利用開始時にその他だったケースが共同生活援助、施設入所等に移行していた。家族同居、単身生活の人数が減っているように見えるが、開始時の状況が家族同居のケースのうち7名、単身生活のケースのうち1名が利用終了後未回答となっており、概ね元の生活を継続していると考えられる。

5) 精神障害

精神障害の利用前後の生活拠点の状況を表したのが図 12 である。

利用開始時に入院・その他であった32名のうち、利用終了時に家族同居が1名、単身生活が9名、共同生活援助が13名となっていた。家族同居から単身生活や共同生活援助に移行したケースも6名あった。

6) 発達障害

発達障害の利用前後の生活拠点の状況を表したのが図 13 である。

施設入所や入院から地域移行したケースが2名いたが、概ね元の住まいでの生活を継続していた。

7) 高次脳機能障害

高次脳機能障害の利用前後の生活拠点の状況を表したのが図 14 である。

一部生活拠点が変わったケースがあったが、概ね元の住まいでの生活を継続していた。

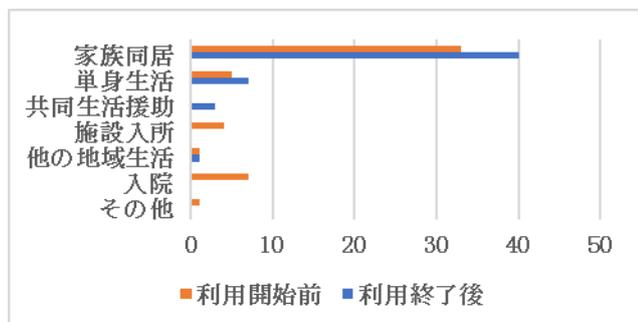


図 8 肢体不自由(脳血管)の利用前後の生活拠点の状況(単位:名)

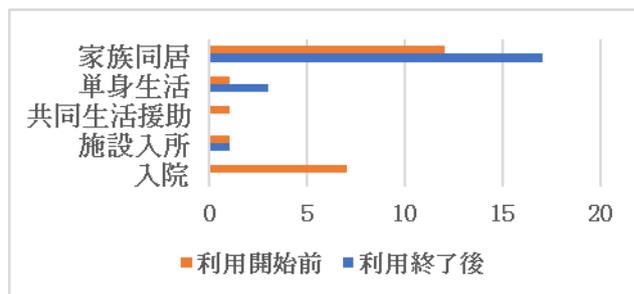


図 9 肢体不自由(その他)の利用前後の生活拠点の状況(単位:名)

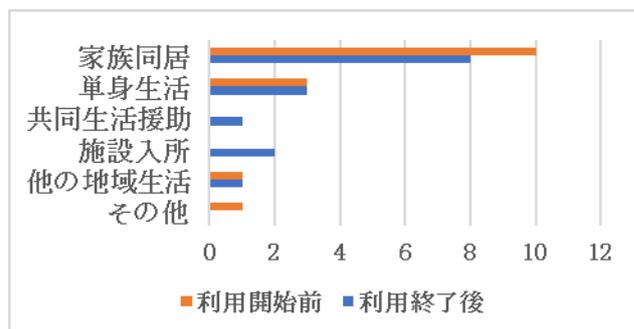


図 10 視覚障害の利用前後の生活拠点の状況(単位:名)

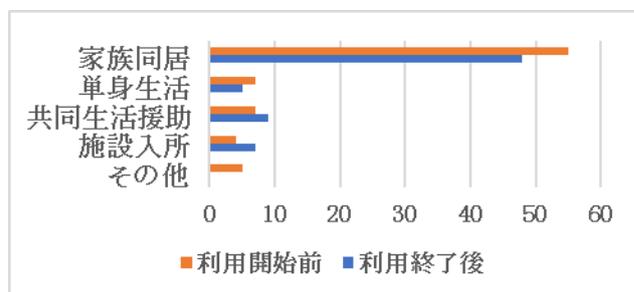


図 11 知的障害の利用前後の生活拠点の状況(単位:名)

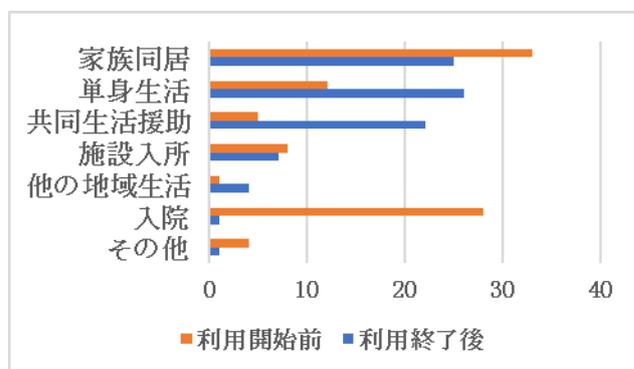


図 12 精神障害の利用前後の生活拠点の状況(単位:名)

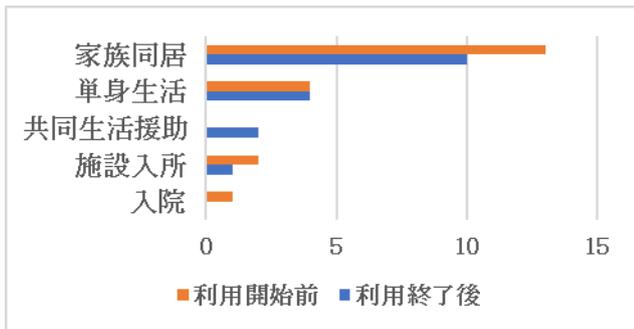


図 13 発達障害の利用前後の生活拠点の状況(単位:名)

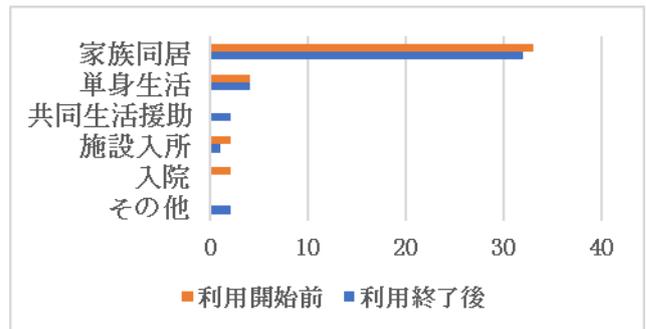


図 14 高次脳機能障害の利用前後の生活拠点の状況(単位:名)

(17) 日中活動

1) 肢体不自由(脳血管)

肢体不自由(脳血管)の利用前後の日中活動の状況を表したのが図 15 である。

利用開始前は一般就労していたケースが最も多くなっていたが、利用終了後では、就労移行・継続などの就労系の障害福祉サービスを利用される方が 23 名で最も多くなっていた。利用終了時に一般就労という方も 11 名いた。

2) 肢体不自由(その他)

肢体不自由(その他)の利用前後の日中活動の状況を表したのが図 16 である。

利用開始前は、一般就労とその他が最も多くなっていた。利用終了時は就労系の障害福祉サービスを利用された方が 6 名で最も多くなっていた。

3) 視覚障害

視覚障害の利用前後の日中活動の状況を表したのが図 17 である。

利用開始時は家事・地域生活参加とその他が 4 名で最も多くなっていた。利用終了時は就労系の障害福祉サービスを利用された方が 7 名で最も多くなっていた。

4) 知的障害

知的障害の利用前後の日中活動の状況を表したのが図 18 である。

利用開始時は、学校、就労系障害福祉サービス、

障害福祉サービス(その他)の順に多くなっていたが、利用終了時は就労系障害福祉サービスが 39 名で最も多くなっており、次いで障害福祉サービス(その他)が 21 名となっていた。

5) 精神障害

精神障害の利用前後の日中活動の状況を表したのが図 19 である。

利用開始時はその他が 34 名で最も多くなっていた。利用終了時は就労系の障害福祉サービス利用が 33 名で最も多く、次いで一般就労が 19 名となっていた。

6) 発達障害

発達障害の利用前後の日中活動の状況を表したのが図 20 である。

利用開始時は、就労系障害福祉サービス利用 9 名、障害福祉サービス(その他)利用 6 名の順に多くなっていた。利用終了時は障害福祉サービス(その他)利用とその他が 5 名で最も多くなっていた。

7) 高次脳機能障害

発達障害の利用前後の日中活動の状況を表したのが図 21 である。

利用開始時は、その他 15 名、一般就労 12 名の順に多くなっていた。利用終了時は、一般就労と就労系障害福祉サービスの利用が 17 名で最も多くなっていた。

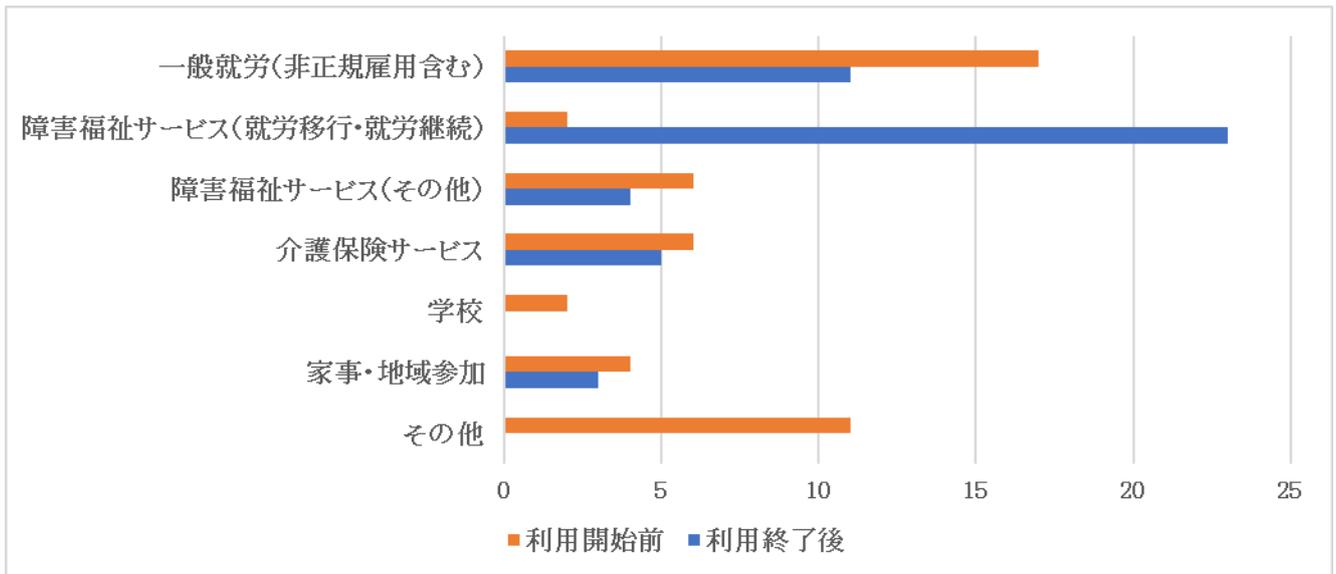


図 15 肢体不自由(脳血管)の利用前後の日中活動の状況(単位:名)

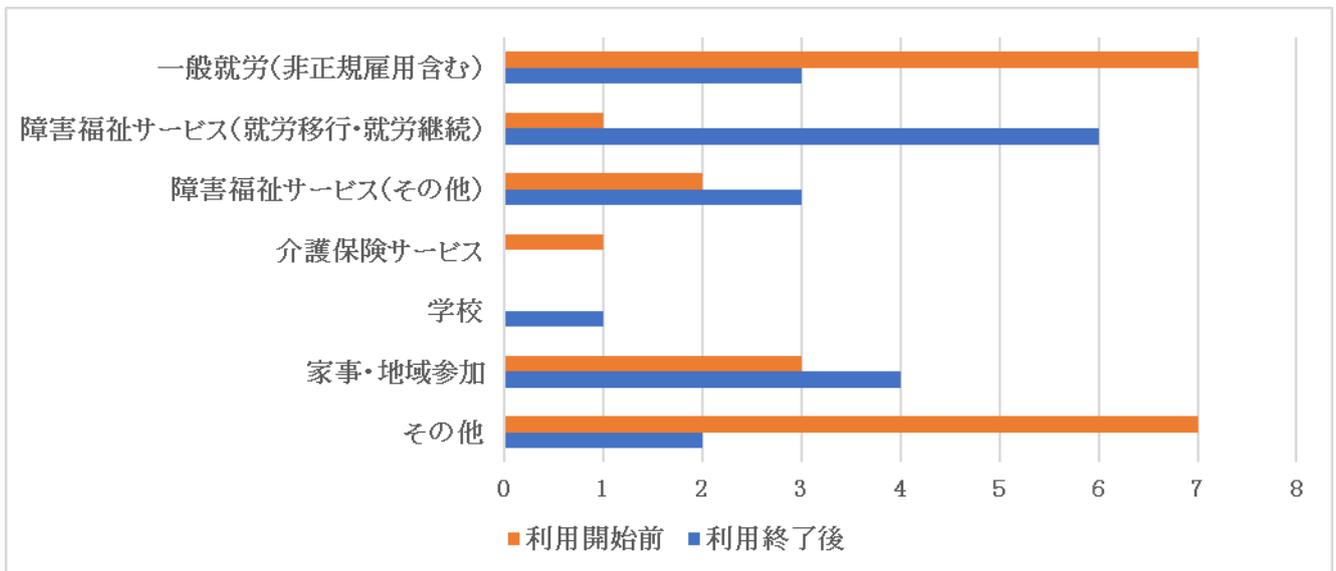


図 16 肢体不自由(その他)の利用前後の日中活動の状況(単位:名)

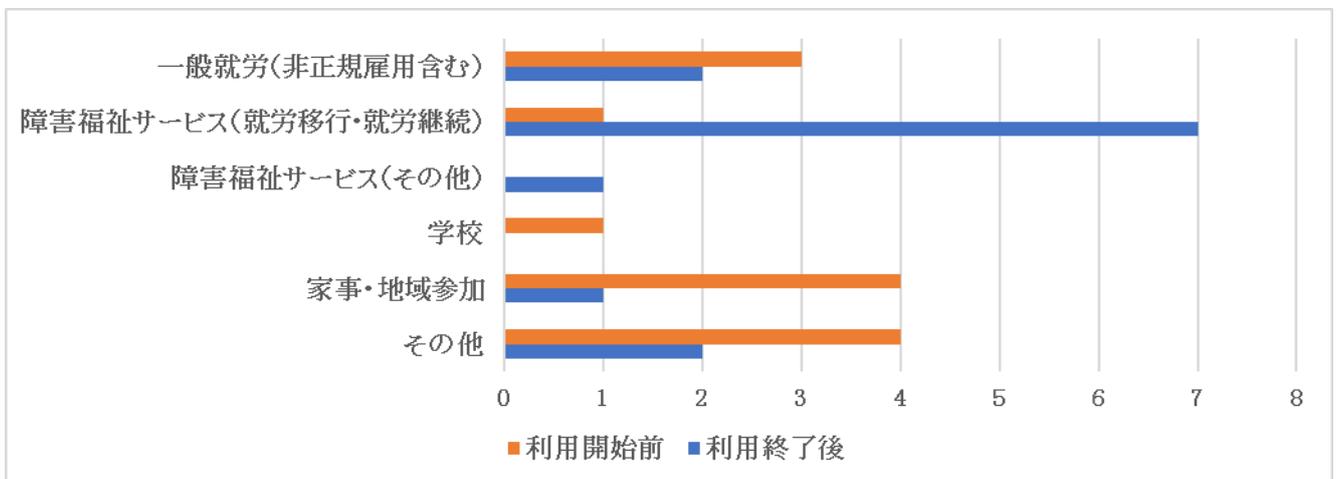


図 17 視覚障害の利用前後の日中活動の状況(単位:名)

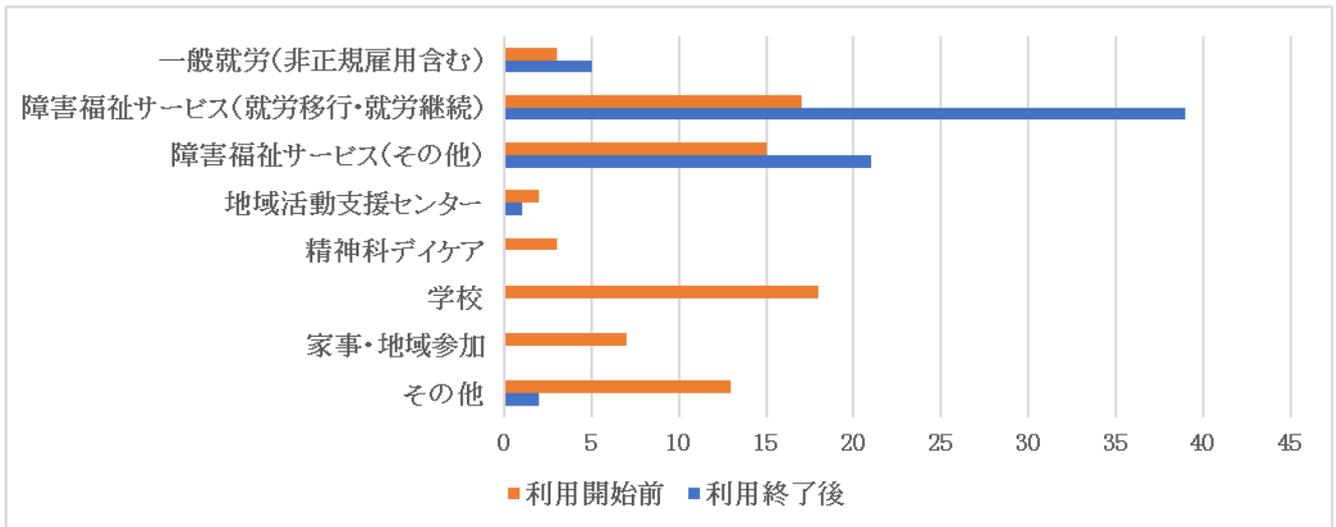


図 18 知的障害の利用前後の日中活動の状況(単位:名)

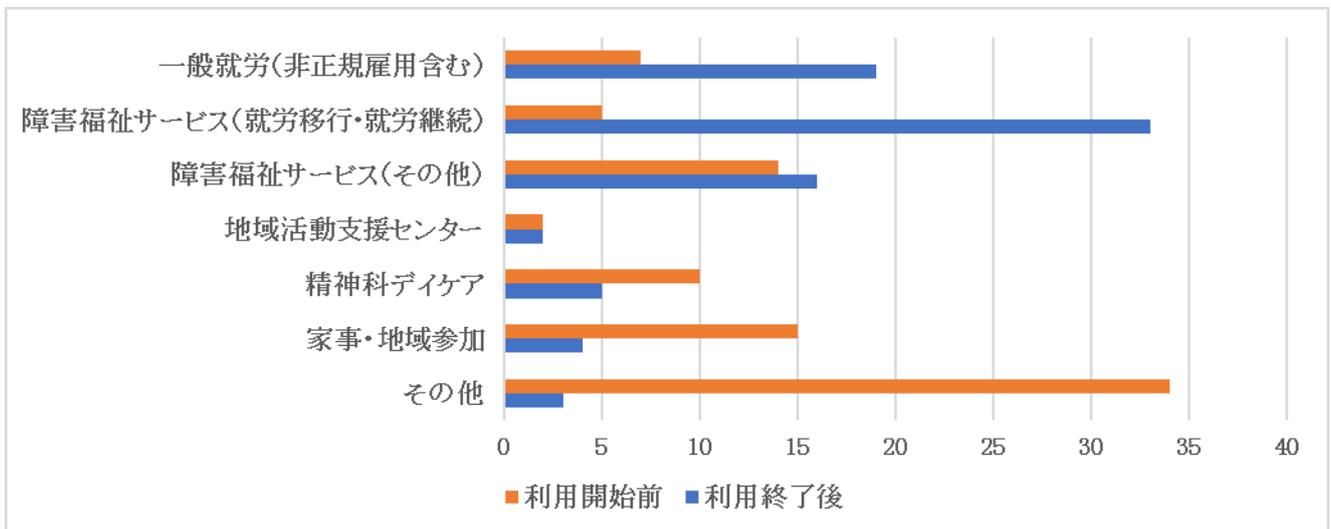


図 19 精神障害の利用前後の日中活動の状況(単位:名)

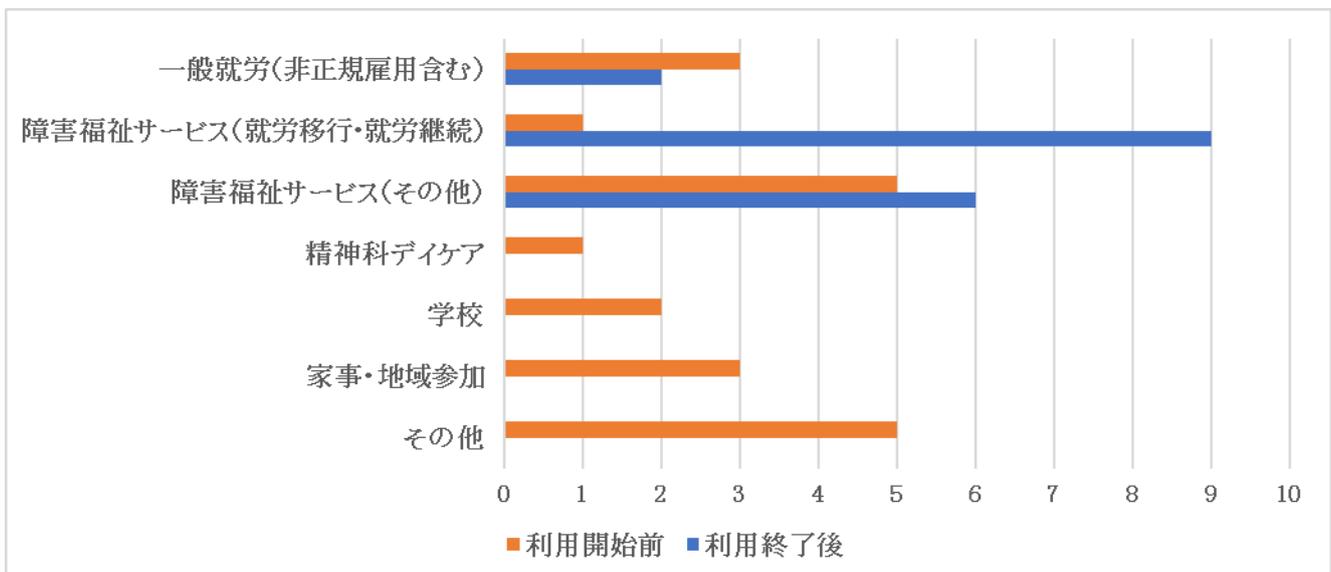


図 20 発達障害の利用前後の日中活動の状況(単位:名)

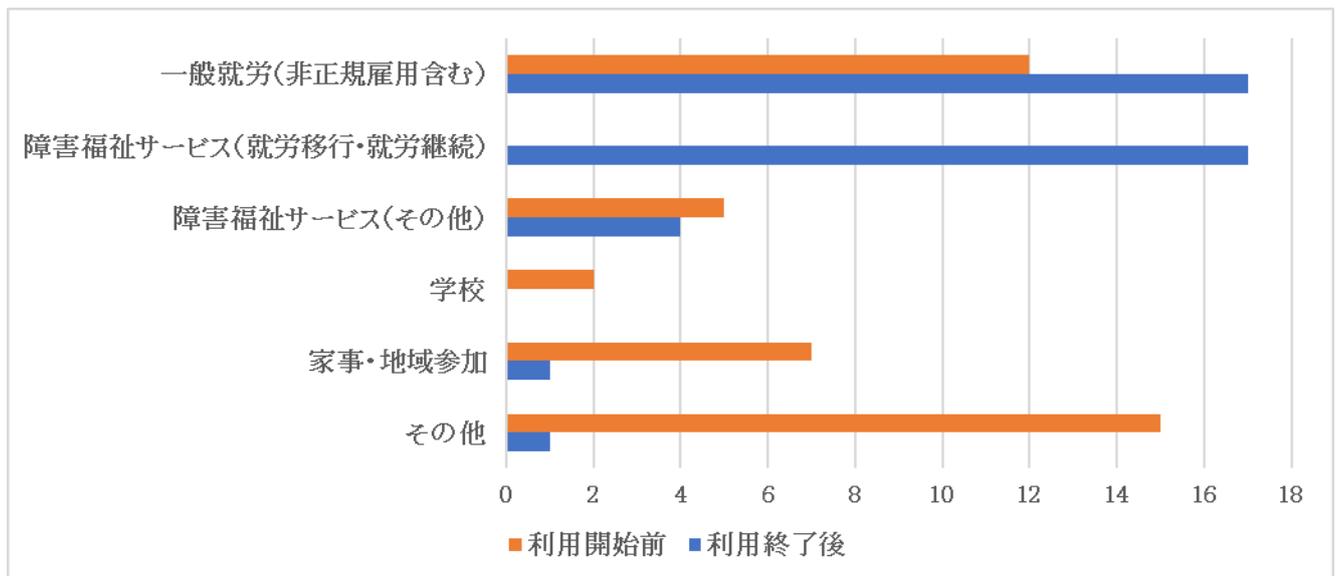


図 21 高次脳機能障害の利用前後の日中活動の状況(単位:名)

4. プログラム調査結果

以降は、肢体不自由(脳血管)、視覚障害、知的障害、精神障害、発達障害、高次脳機能障害の6つの障害について、以下の項目についての結果を示す。

・実施率:各障害種別の回答総数のうち、その支援プログラム等が実施された割合

(各障害種別において実施率が0%であった支援プログラム等は図への掲載を割愛している。)

・効果実感率:各障害種別で、実施されたと回答があった総数のうち、職員・利用者それぞれが目標達成に対して、その支援プログラム等の効果があったと回答した割合

・実施率・効果実感率で、一定の条件を満たした支援プログラム等について、最も回答率の高かった形式・総回数および評価指標の有無をまとめた。

(1) 肢体不自由(脳血管)

1) 機能維持・向上訓練

ア 実施率

肢体不自由(脳血管)者の機能維持・向上訓練の実施率の状況を表したのが図22である。

身体機能の維持・向上訓練を49名(94.2%)が実施していた。次に実施率が高かったのは高次脳機能・認知訓練36名(69.2%)で、実施率50%を超えていたのはこの2つのみであった。

イ 効果実感率(職員・利用者)

肢体不自由(脳血管)者の機能維持・向上訓練を実施した利用者・職員の効果実感率の状況を表したのが図23である。

利用者・職員ともに効果実感率が75%を超えていたのは、利き手交換訓練であった。職員の効果実感率はすべての支援プログラム等において75%を超えていた。

2) ADL 訓練

ア 実施率

肢体不自由(脳血管)者のADL訓練の実施率の状況を表したのが図24である。

実施率が70%を超えていたのは、屋内移動・屋外移動で、それ以外は50%を下回っていた。

イ 効果実感率(職員・利用者)

肢体不自由(脳血管)者のADL訓練の効果実感率の状況を表したのが図25である。

職員・利用者ともに効果実感率が75%を超えていたのは、起居訓練、屋内移動、車いす操作、食事、入浴であった。

3) IADL/社会生活力訓練

ア 実施率

肢体不自由(脳血管)者のIADL/社会生活力訓練の実施率の状況を表したのが図26である。

実施率が最も高かったのは疾病・健康管理の36名(69.2%)であった。それ以外で50%を超えていたのは、食生活・栄養管理、障害の理解、障害福祉

制度・サービスであった。

イ 効果実感率(職員・利用者)

肢体不自由(脳血管)者の IADL/社会生活力訓練の効果実感率の状況を表したのが図 27 である。

職員・利用者ともに効果実感率が 75%を超えていたのは、金銭・財産管理、住まい、掃除・整理、洗濯、買い物、調理、服薬管理、就労生活、外出・余暇活動、公共交通機関の利用、社会保障制度活用支援、支援の活用であった。

4) 一般就労に向けた訓練

ア 実施率

肢体不自由(脳血管)者の一般就労に向けた訓練の実施率の状況を表したのが図 28 である。

実施率が 50%を超えていたものはなかった。

イ 効果実感率(職員・利用者)

肢体不自由(脳血管)者の一般就労に向けた訓練の効果実感率の状況を表したのが図 29 である。

職員・利用者ともに効果実感率が 75%を超えていたのは職業前訓練、就職活動支援、職場実習支援、資格取得のための訓練であった。

5) その他の訓練

ア 実施率

肢体不自由(脳血管)者のその他の訓練の実施率の状況を表したのが図 30 である。

実施率が 50%を超えていたのはスポーツ活動、PC などの ICT 活用であった。

イ 効果実感率(職員・利用者)

肢体不自由(脳血管)者のその他の訓練の効果実感率の状況を表したのが図 31 である。

職員・利用者ともに効果実感率が 75%を超えていたのは PC など ICT 活用、模擬生活訓練、家庭学習であった。

6) 地域移行・社会生活に向けた支援

ア 実施率

肢体不自由(脳血管)者の地域移行・社会生活に

向けた支援の実施率の状況を表したのが図 32 である。サービス担当者会議・関係機関との調整が 46 名(88.5%)で最も実施率が高かった。その他で実施率が 50%を超えていたのは医療機関・事業所探し・選定支援であった。

イ 効果実感率(職員・利用者)

肢体不自由(脳血管)者の地域移行・社会生活に向けた支援の効果実感率の状況を表したのが図 33 である。職員・利用者ともに効果実感率が 75%を超えていたのは、医療機関・事業所探し・選定支援、事業所見学同行、事業所利用体験実習支援であった。

7) 家族支援

ア 実施率

肢体不自由(脳血管)者の家族支援の実施率の状況を表したのが図 34 である。最も実施率が高かったのは相談対応(利用者に対して)の 65.4%で、サービス担当者会議(開催・参加)・関係機関との調整、相談対応(家族に対して)は 50%を超えていた。

イ 効果実感率(職員・利用者)

肢体不自由(脳血管)者の家族支援の効果実感率の状況を表したのが図 35 である。

職員・利用者ともに効果実感率が 75%を超えていたのは障害理解促進であった。

8) 地域貢献活動

ア 実施率

肢体不自由(脳血管)者の地域貢献活動の実施率の状況を表したのが図 36 である。

実施率はどれも 5%未満となっていた。

イ 効果実感率(職員・利用者)

肢体不自由(脳血管)者の地域貢献活動の効果実感率の状況を表したのが図 37 である。

地域等に対するボランティア活動が職員・利用者ともに効果実感率が 100%であった。

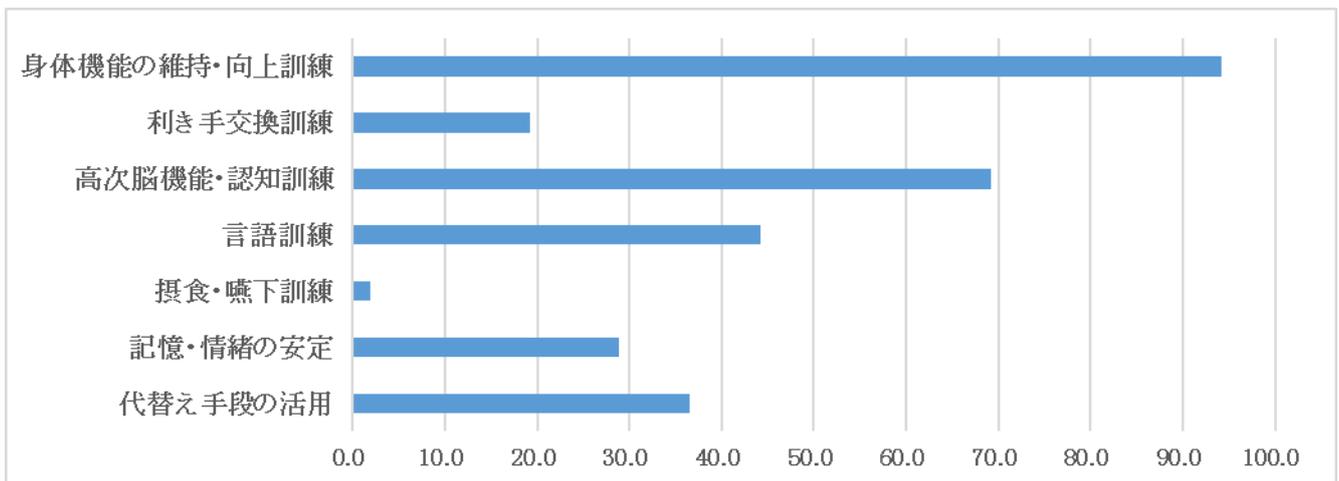


図 22 肢体不自由(脳血管)者の機能維持・向上訓練の実施率(単位:%)

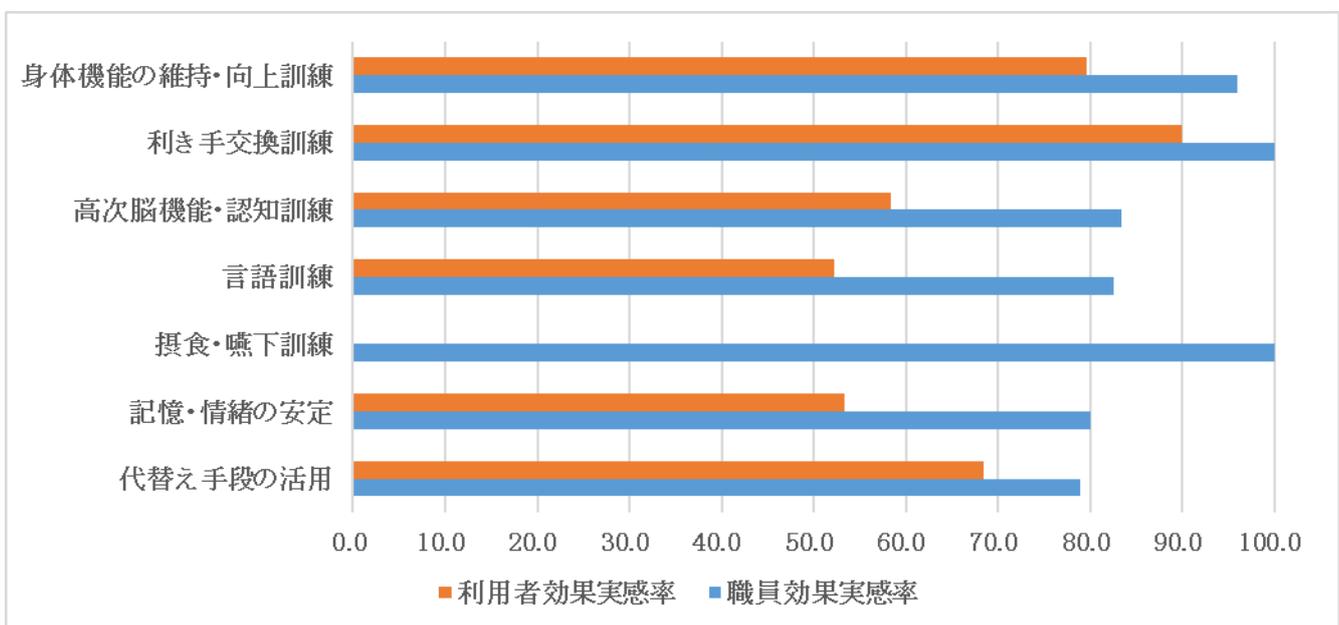


図 23 肢体不自由(脳血管)者の機能維持・向上訓練の効果実感率(単位:%)

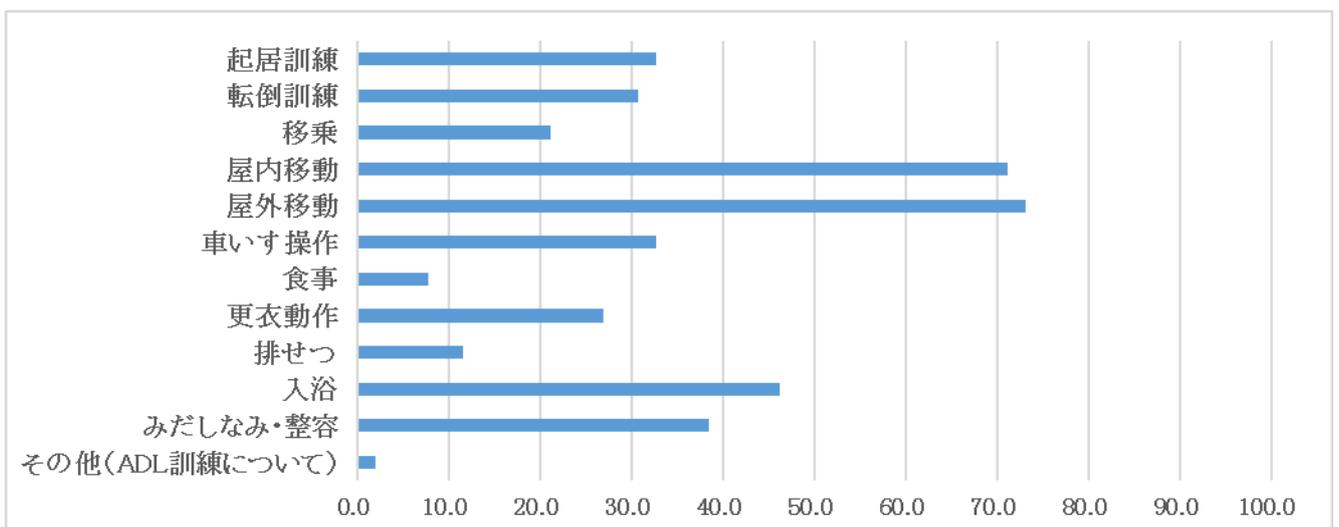


図 24 肢体不自由(脳血管)者の ADL 訓練の実施率(単位:%)

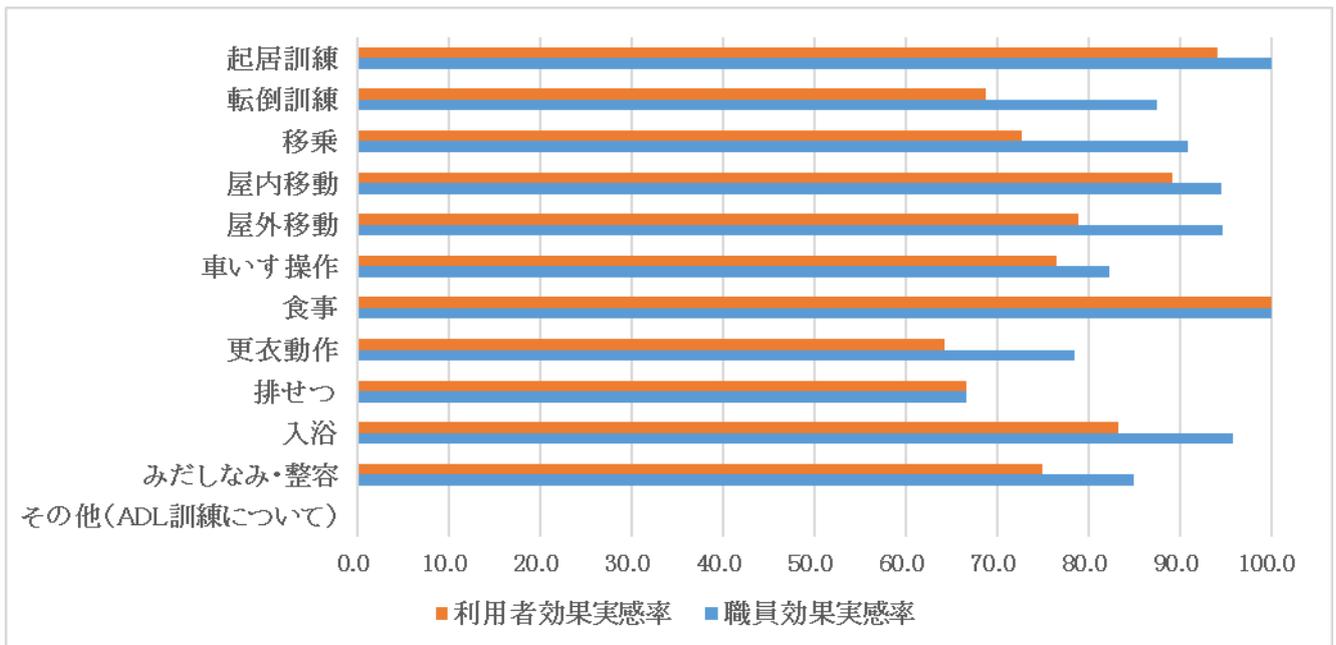


図 25 肢体不自由(脳血管)者の ADL 訓練の効果実感率(単位:%)

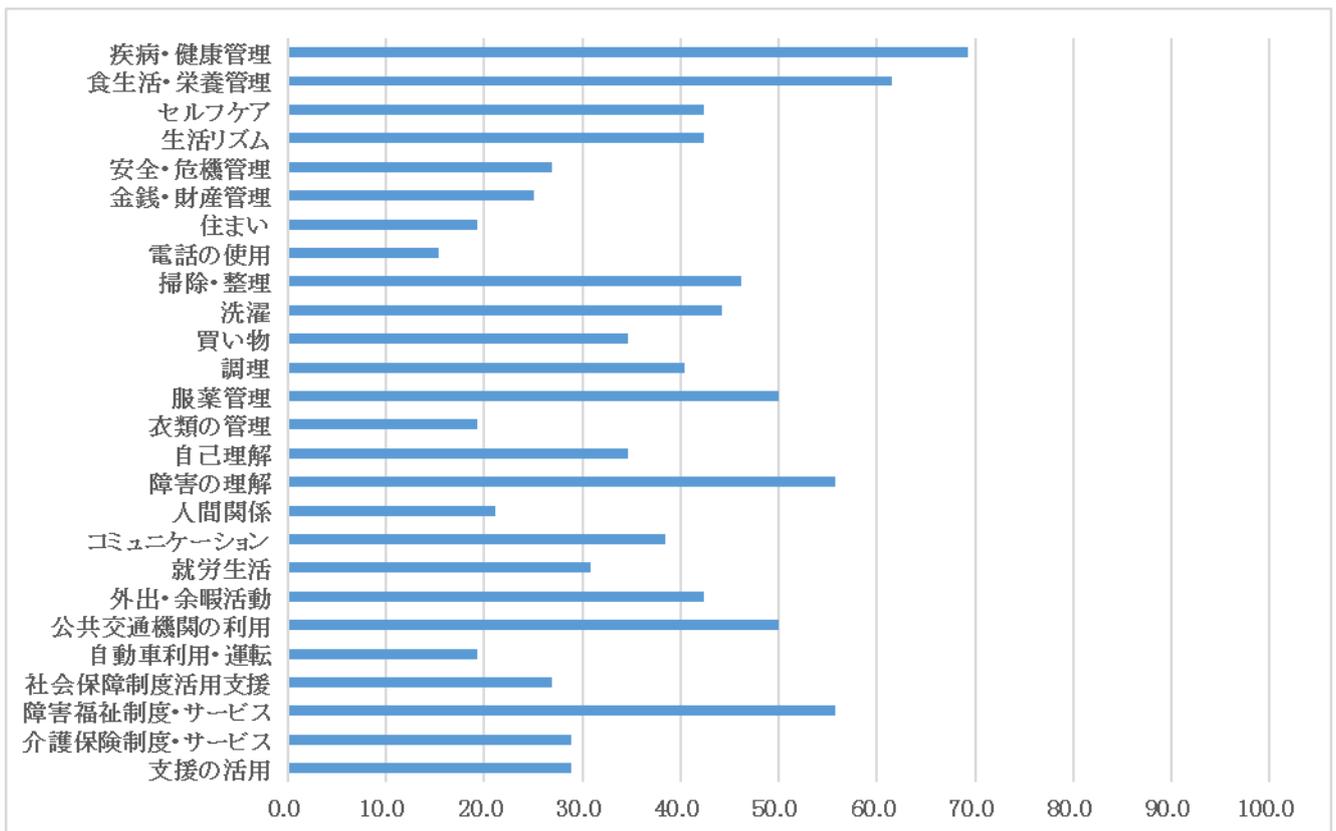


図 26 肢体不自由(脳血管)者の IADL/社会生活力訓練の実施率(単位:%)

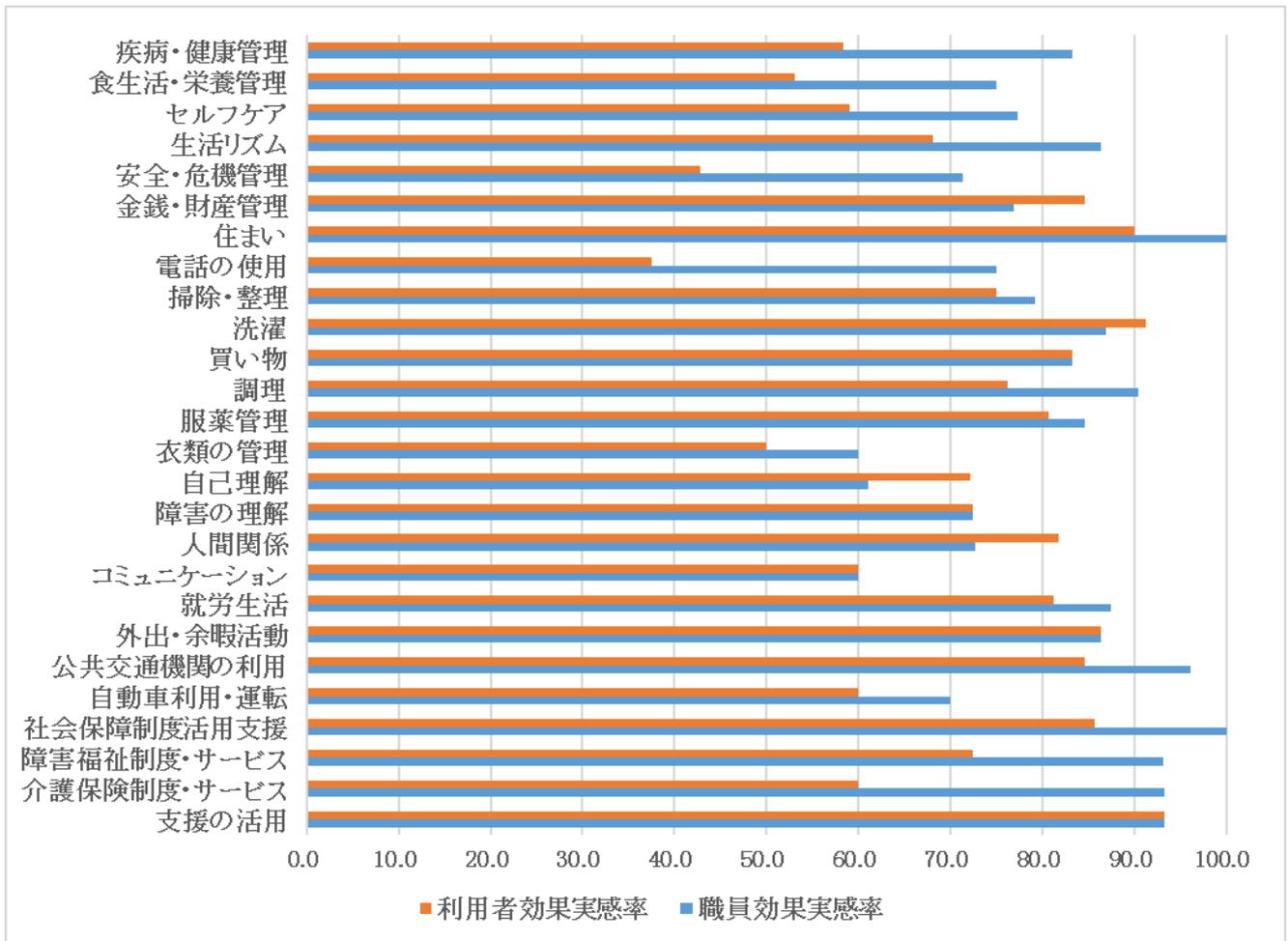


図 27 肢体不自由(脳血管)者の IADL/社会生活力訓練の効果実感率(単位:%)

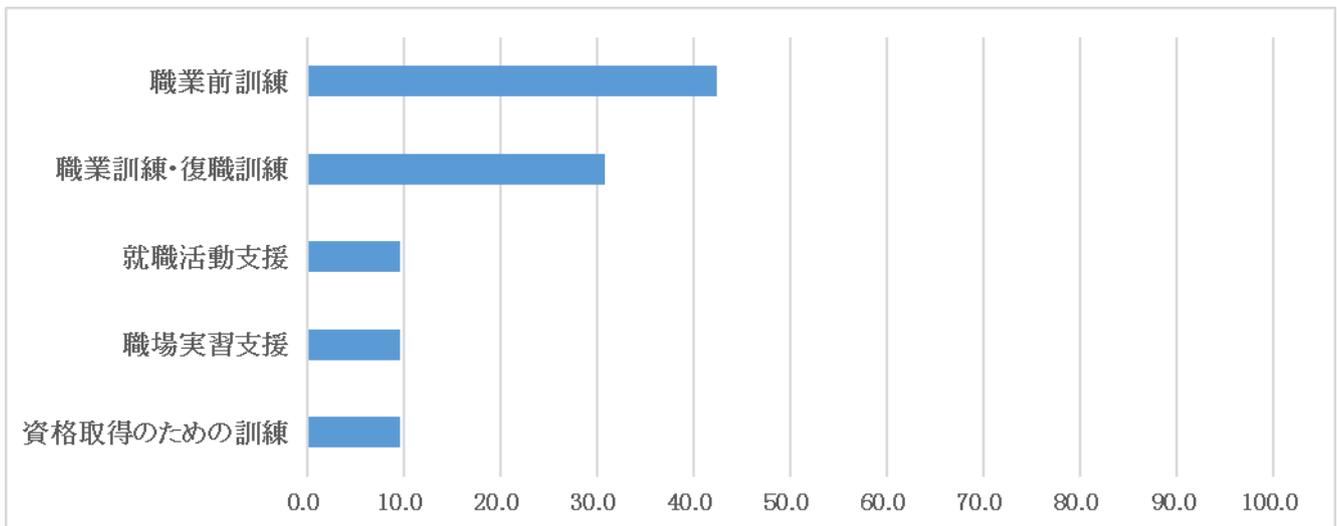


図 28 肢体不自由(脳血管)者の一般就労に向けた訓練の実施率(単位:%)

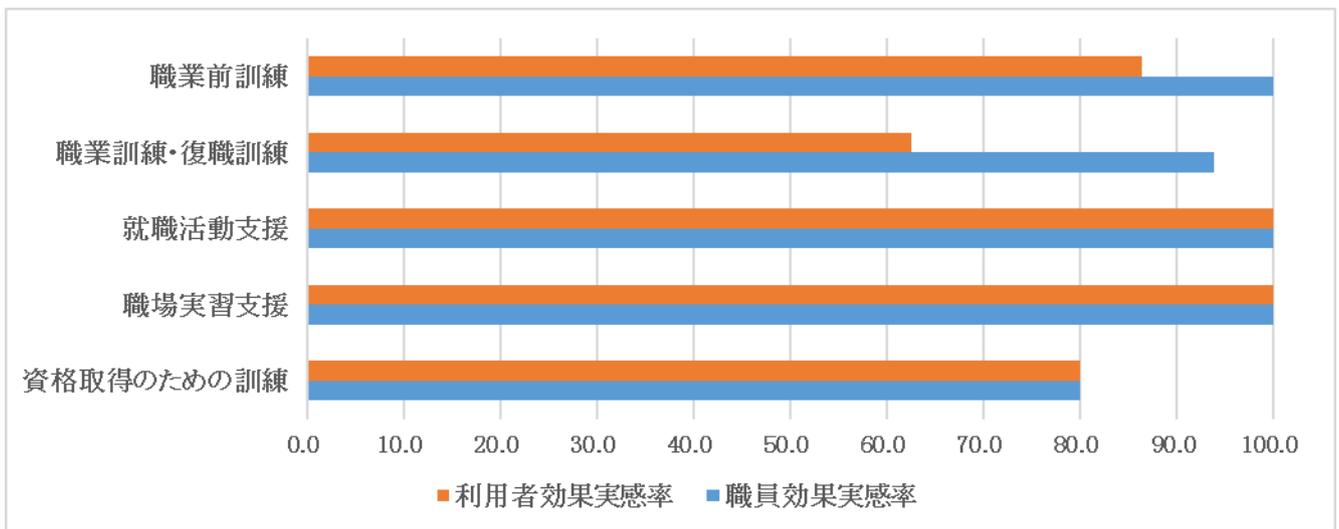


図 29 肢体不自由(脳血管)者の一般就労に向けた訓練の効果実感率(単位:%)

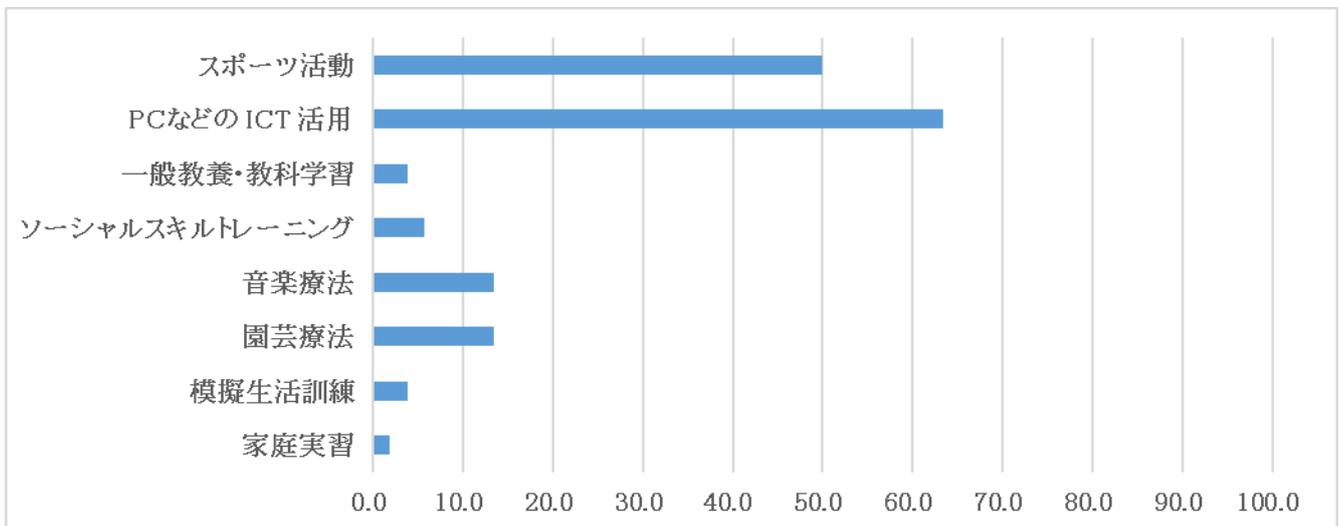


図 30 肢体不自由(脳血管)者のその他の訓練の実施率(単位:%)

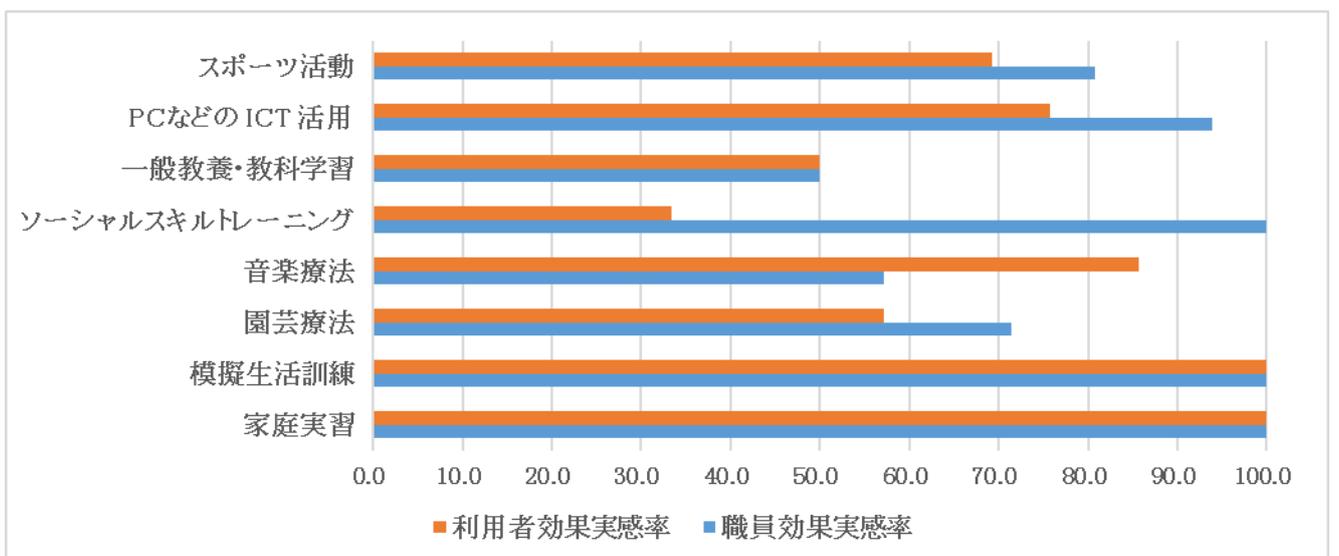


図 31 肢体不自由(脳血管)者のその他の訓練の効果実感率(単位:%)

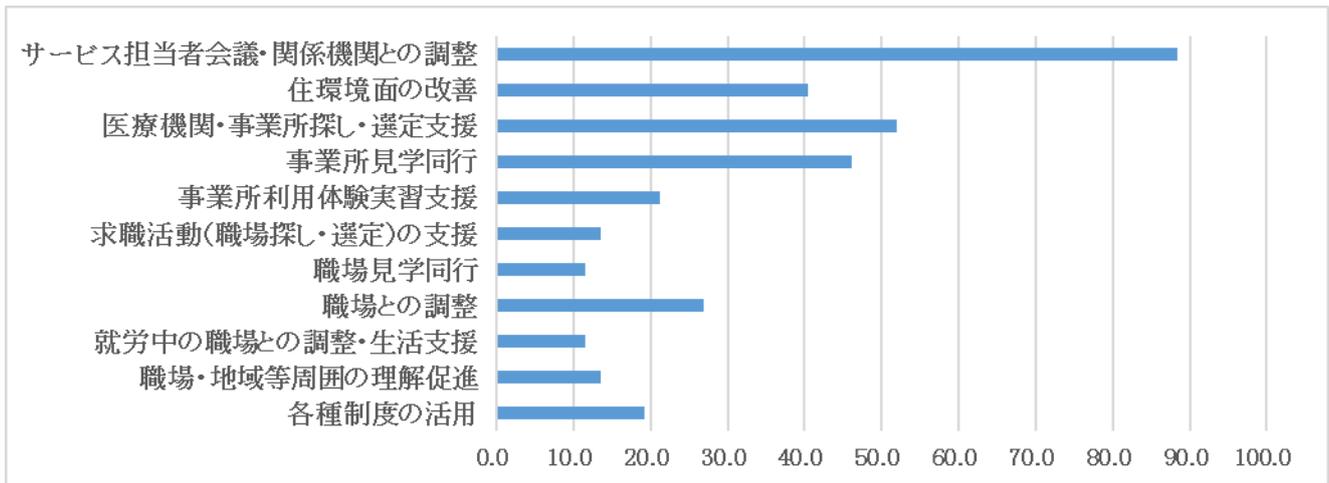


図 32 肢体不自由(脳血管)者の地域移行・社会生活に向けた支援の実施率(単位:%)

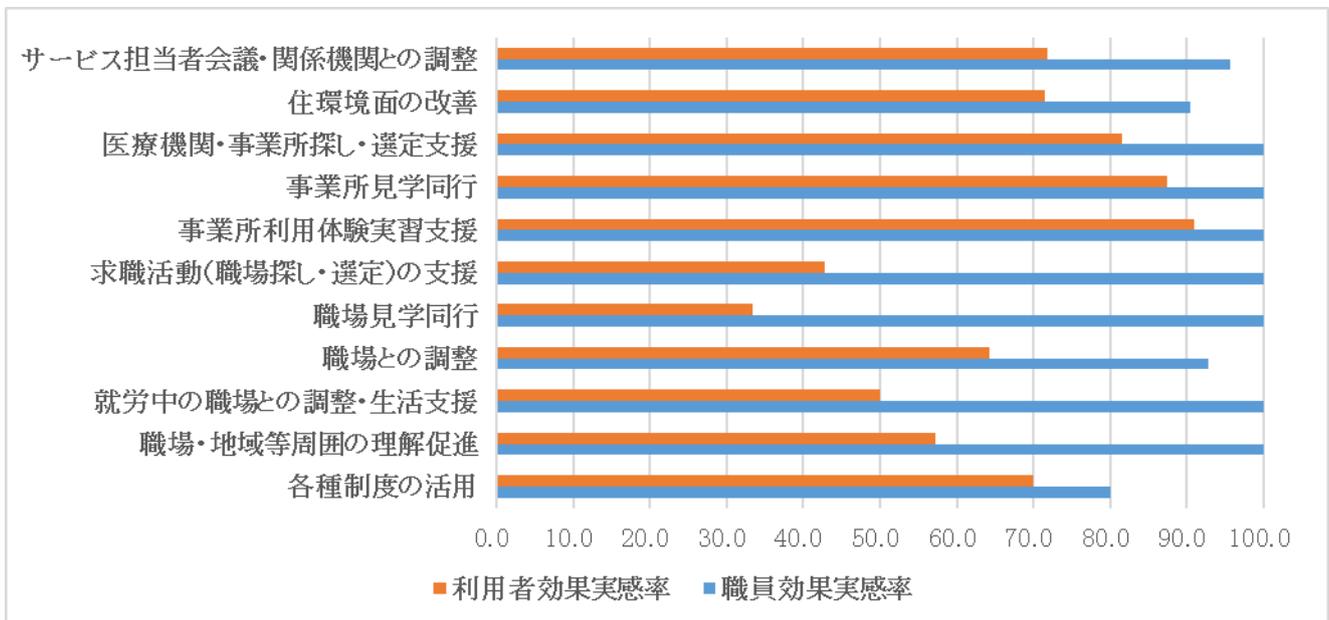


図 33 肢体不自由(脳血管)者の地域移行・社会生活に向けた支援の効果実感率(単位:%)

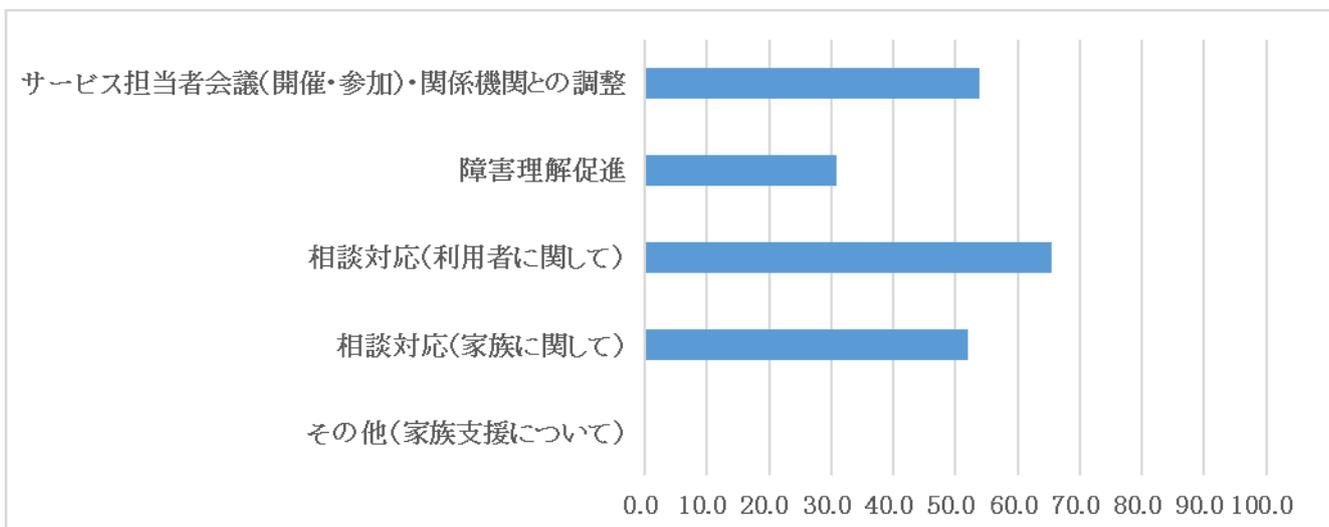


図 34 肢体不自由(脳血管)者の家族支援の実施率(単位:%)

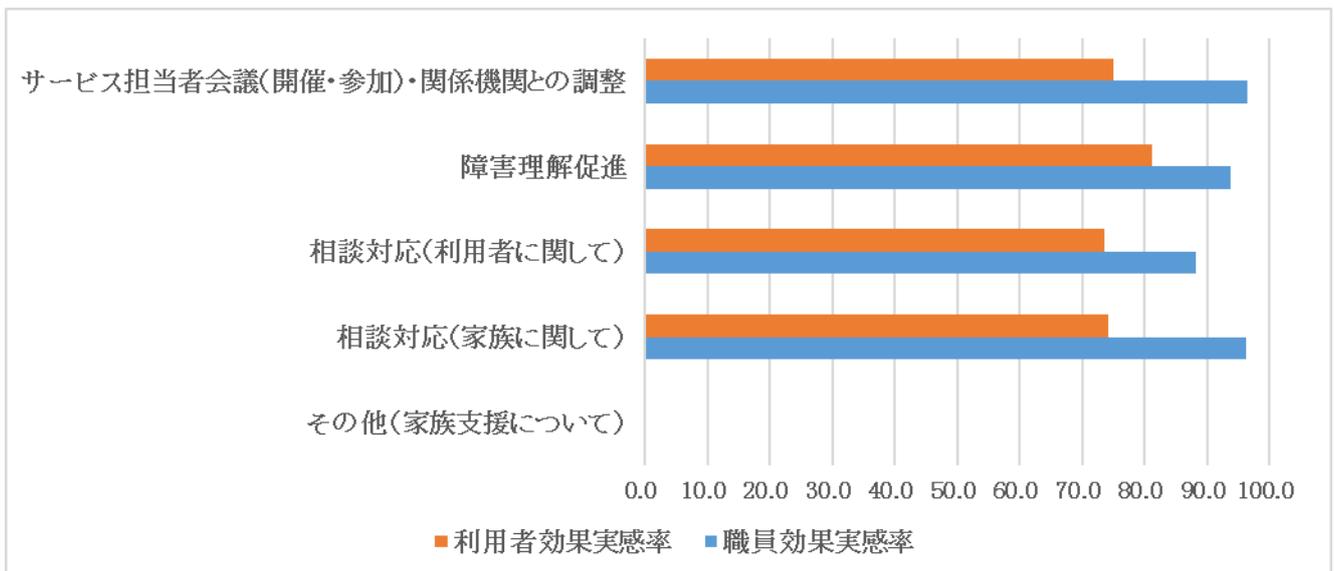


図 35 肢体不自由(脳血管)者の家族支援の効果実感率(単位:%)

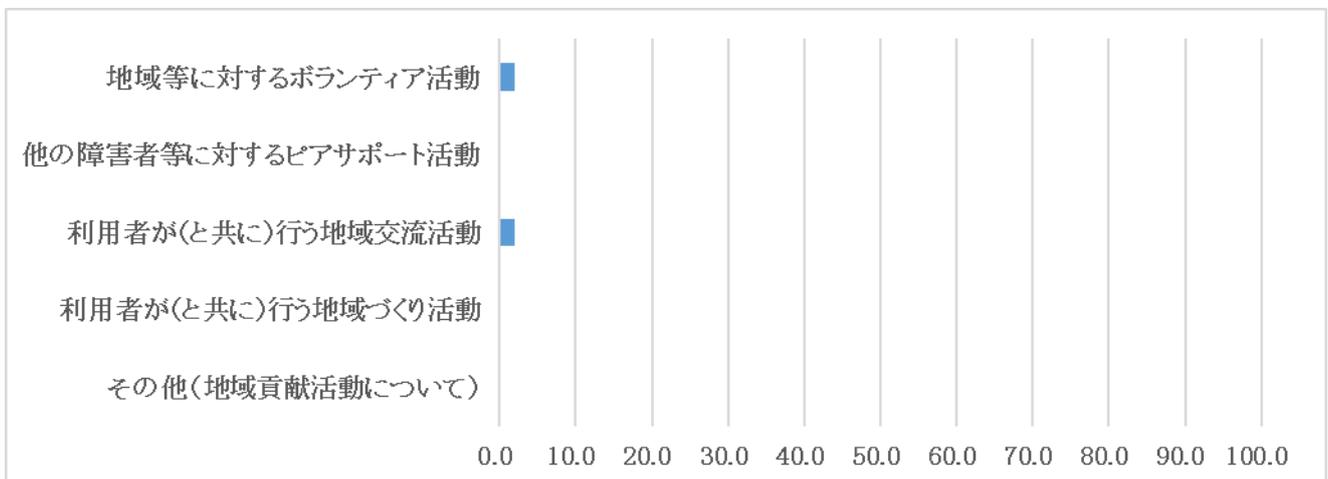


図 36 肢体不自由(脳血管)者の地域貢献活動の実施率(単位:%)

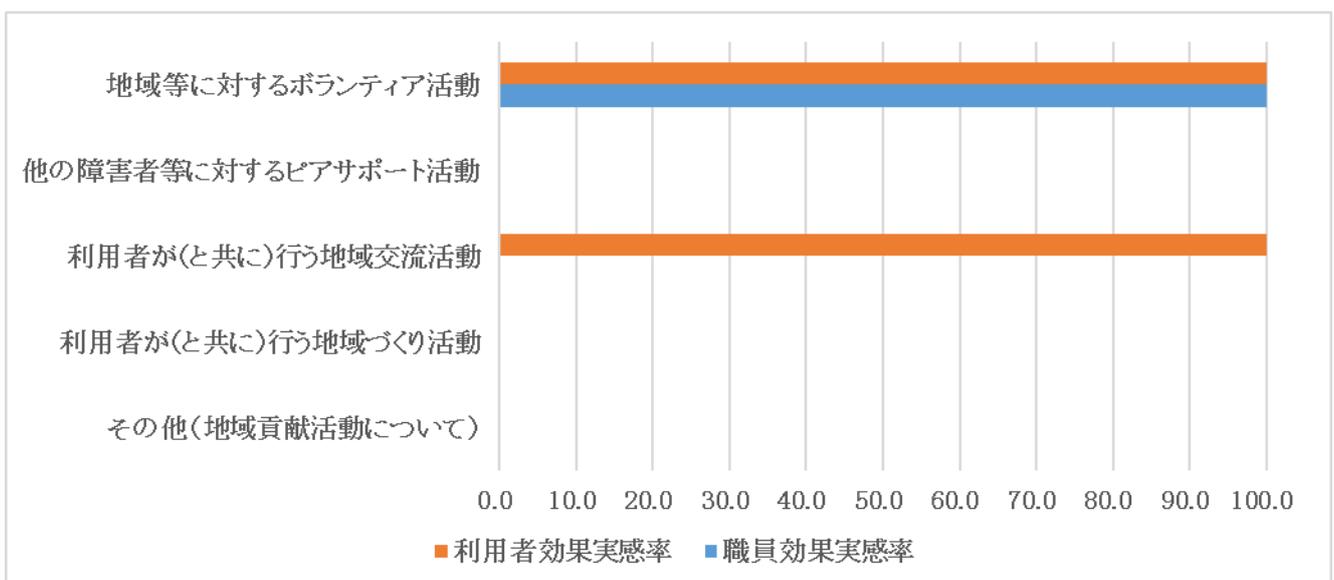


図 37 肢体不自由(脳血管)者の地域貢献活動の効果実感率(単位:%)

(2) 視覚障害

1) 機能維持・向上訓練および ADL 訓練

ア 実施率

視覚障害者の機能維持・向上訓練および ADL 訓練の実施率の状況を表したのが図 38 である。

実施率が 75%を超えていたのは白杖操作、点字であった。それ以外に実施率が 50%を超えているものはなかった。

イ 効果実感率(職員・利用者)

視覚障害者の機能維持・向上訓練および ADL 訓練の効果実感率の状況を表したのが図 39 である。実施された項目については、すべて職員・利用者ともに効果実感率が 80%を超えていた。

2) IADL/社会生活力訓練

ア 実施率

視覚障害者の IADL/社会生活力訓練の実施率の状況を表したのが図 40 である。

実施率が 50%を超えていたのは、電話の使用、調理、公共交通機関の利用であった。

イ 効果実感率(職員・利用者)

視覚障害者の IADL/社会生活力訓練の効果実感率の状況を表したのが図 41 である。

職員・利用者ともに効果実感率が 75%を超えていたのは、金銭・財産管理、住まい、電話の使用、掃除・整理、洗濯、買い物、調理、その他家事、衣類の管理、自己理解、人間関係、教育と学習、就労生活、外出・余暇活動、公共交通機関の利用、地域生活・参加、社会保障制度活用支援、障害福祉制度・サービス、支援の活用、権利の行使と擁護であった。

3) 一般就労に向けた訓練およびその他の訓練

ア 実施率

視覚障害者の一般就労に向けた訓練およびその他の訓練の実施率の状況を表したのが図 42 である。PC などの ICT 活用が 90%を超えていた。それ以外は実施率 50%未満であった。

イ 効果実感率(職員・利用者)

視覚障害者の一般就労に向けた訓練およびその他の訓練の効果実感率の状況を表したのが図 43

である。ソーシャルスキルトレーニングを除くすべての支援プログラム等で職員・利用者ともに効果実感率が 75%を超えていた。

4) 地域移行・社会生活に向けた支援および家族支援

ア 実施率

視覚障害者の地域移行・社会生活に向けた支援および家族支援の実施率の状況を表したのが図 44 である。実施率が 50%を超えていたのはサービス担当者会議(開催・参加)・関係機関との調整のみとなっていた。

イ 効果実感率(職員・利用者)

視覚障害者の地域移行・社会生活に向けた支援および家族支援の効果実感率の状況を表したのが図 45 である。その他の同行支援をのぞき、実施した支援については、利用者・職員ともに効果実感率が 80%以上となっていた。

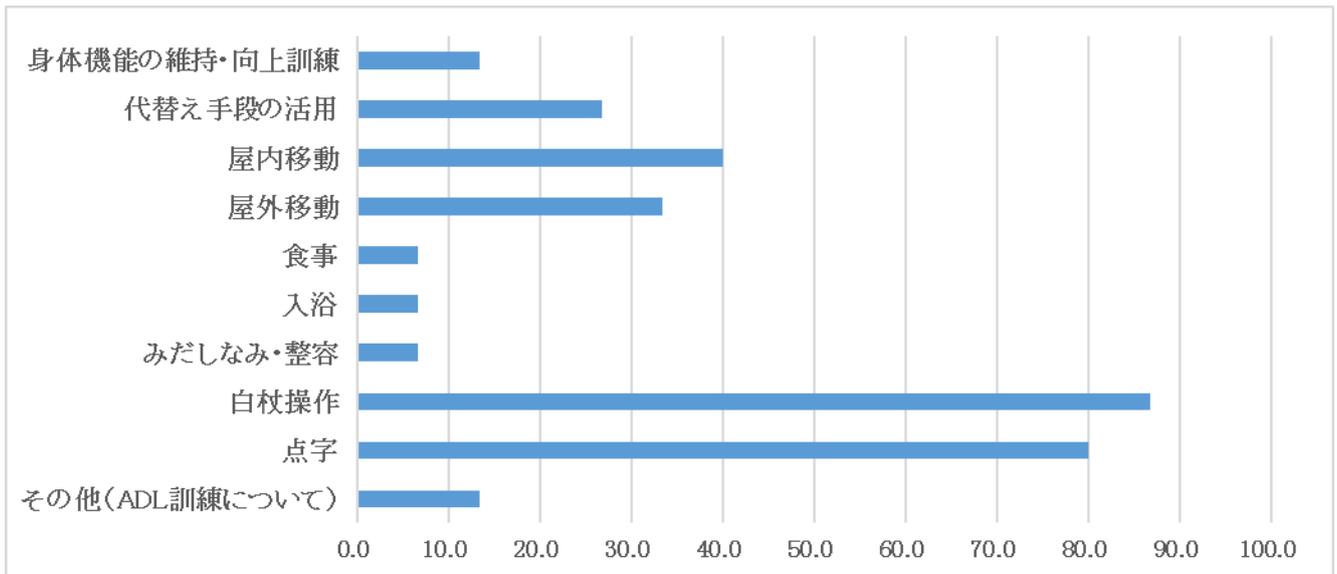


図 38 視覚障害者の機能維持・向上訓練および ADL 訓練の実施率(単位:%)

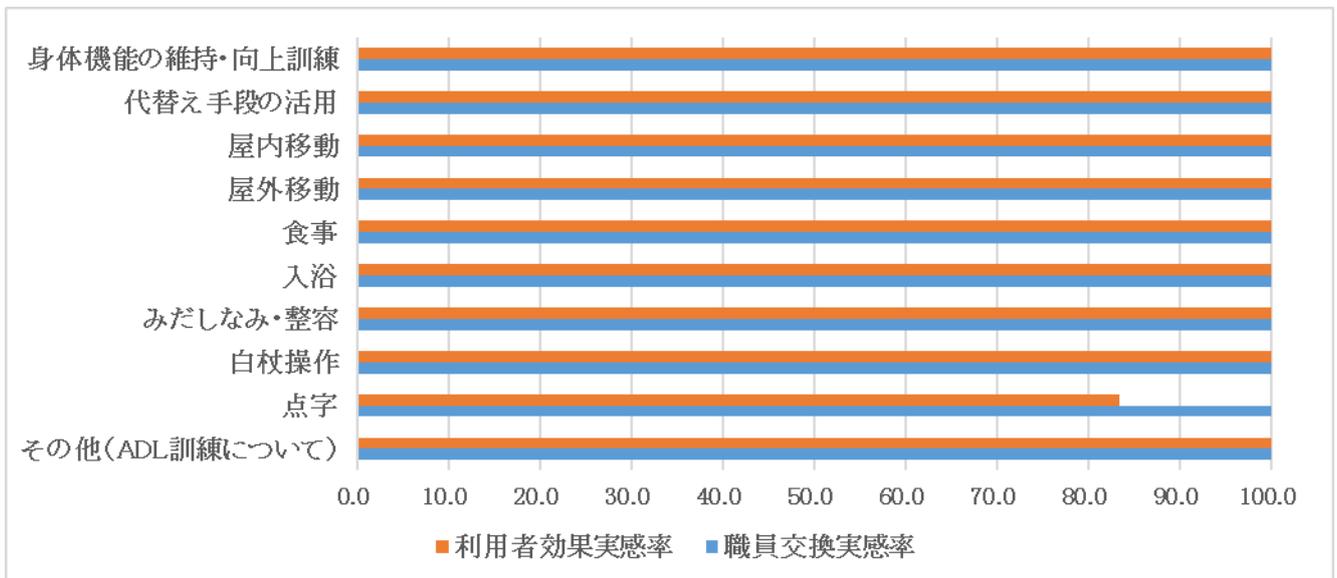


図 39 視覚障害者の機能維持・向上訓練および ADL 訓練の効果実感率(単位:%)

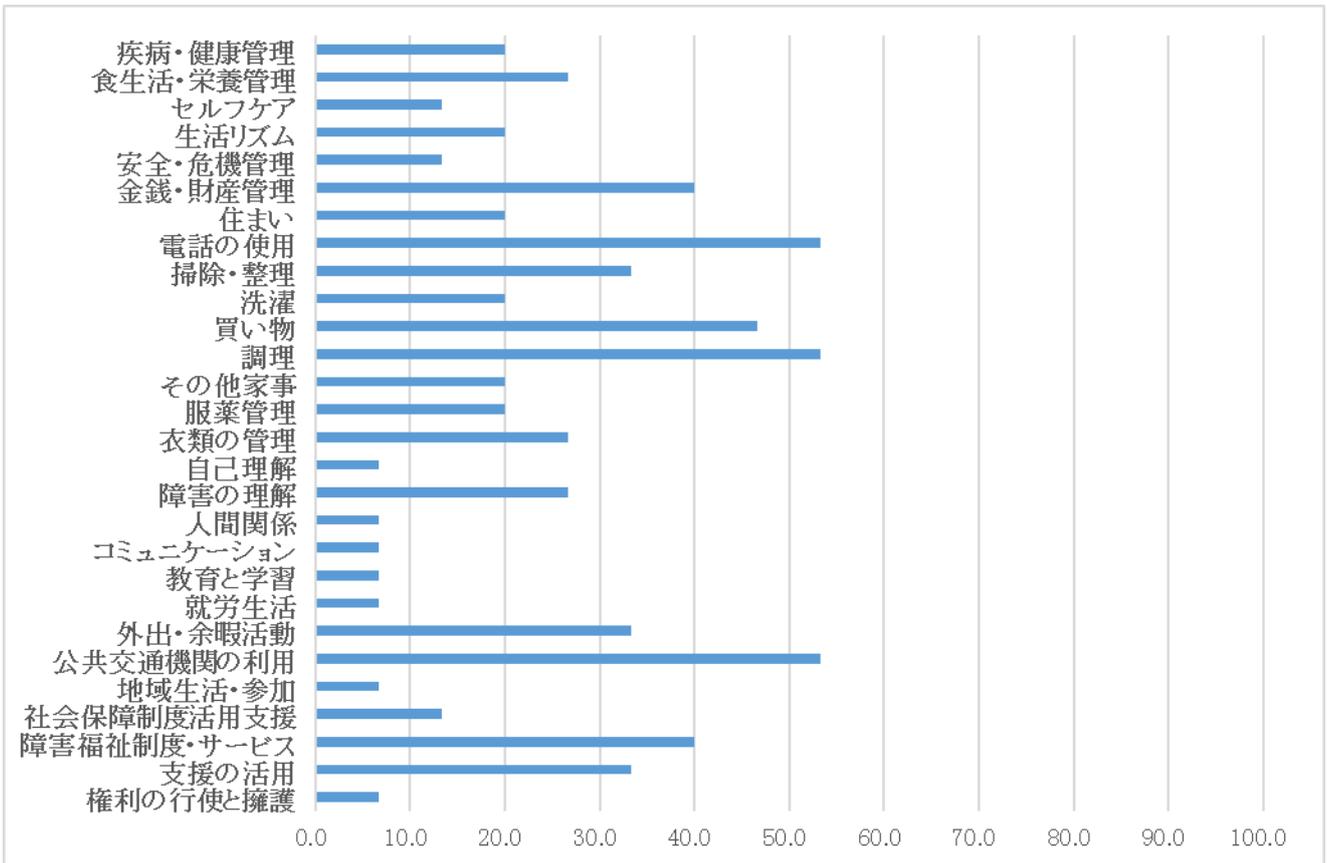


図 40 視覚障害者の IADL/社会生活力訓練の実施率(単位:%)

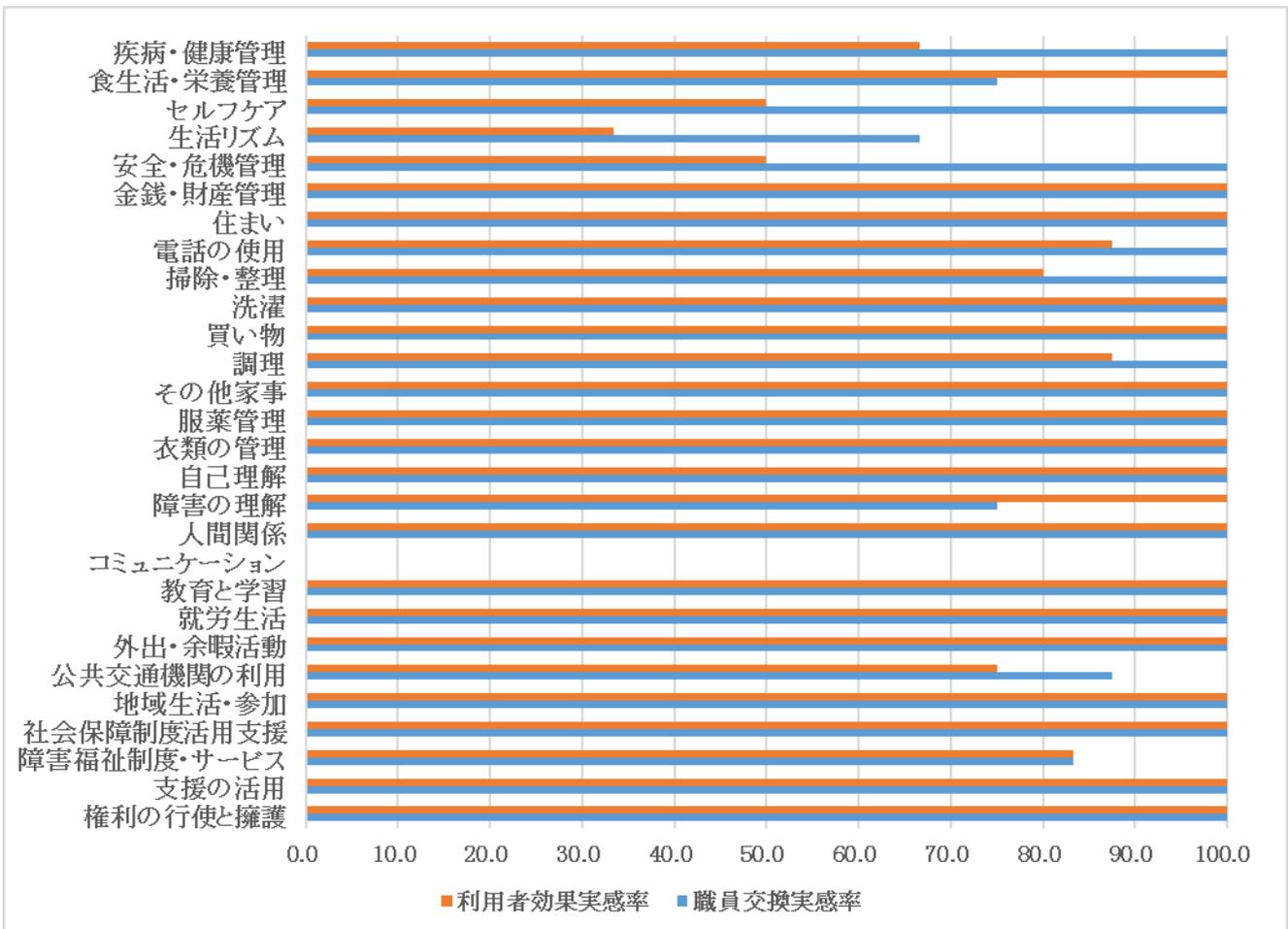


図 41 視覚障害者の IADL/社会生活力訓練の効果実感率(単位:%)

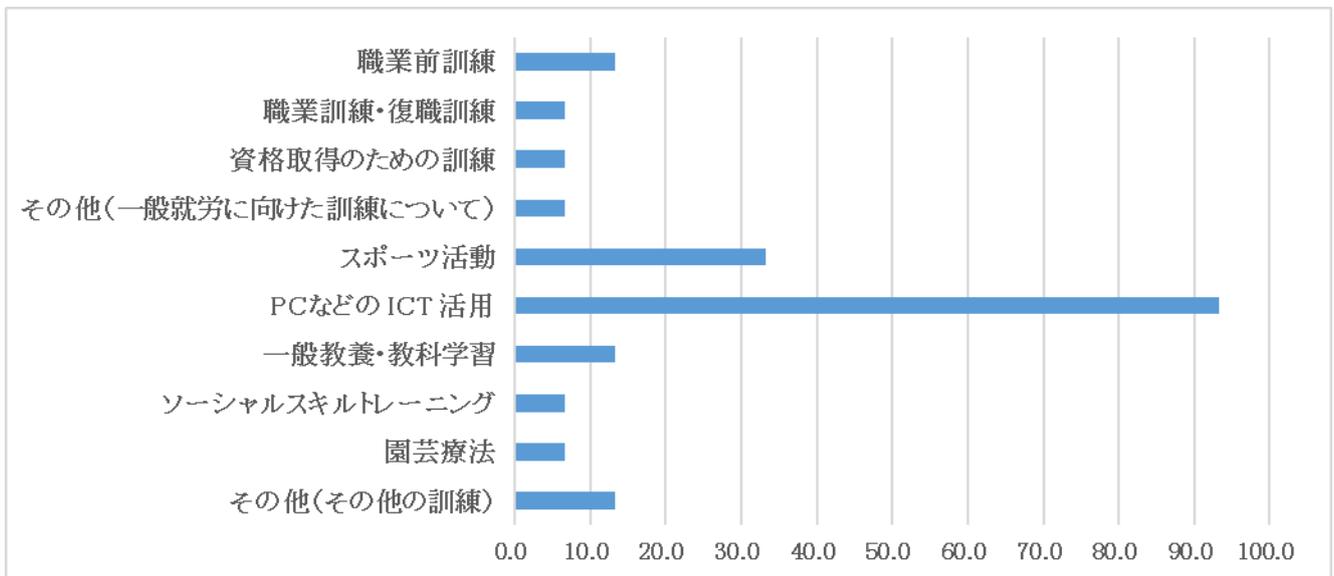


図 42 視覚障害者の一般就労に向けた訓練およびその他の訓練の実施率(単位:%)

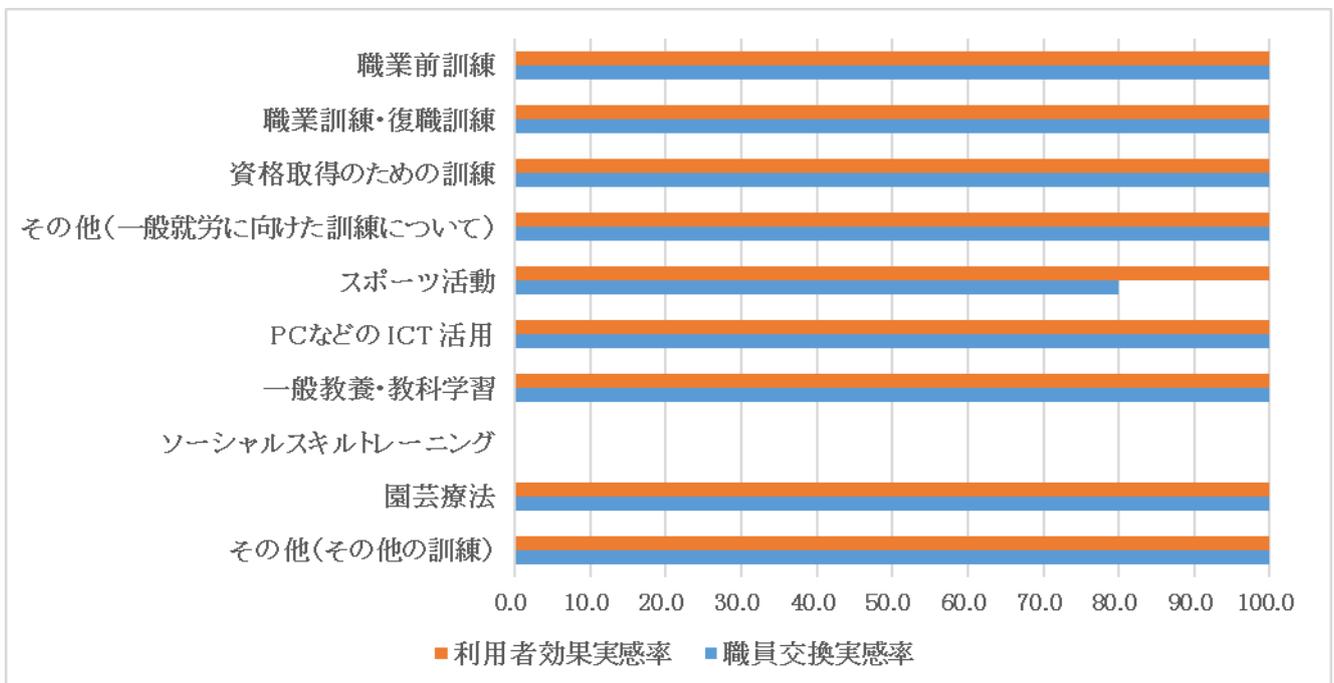


図 43 視覚障害者の一般就労に向けた訓練およびその他の訓練の効果実感率(単位:%)

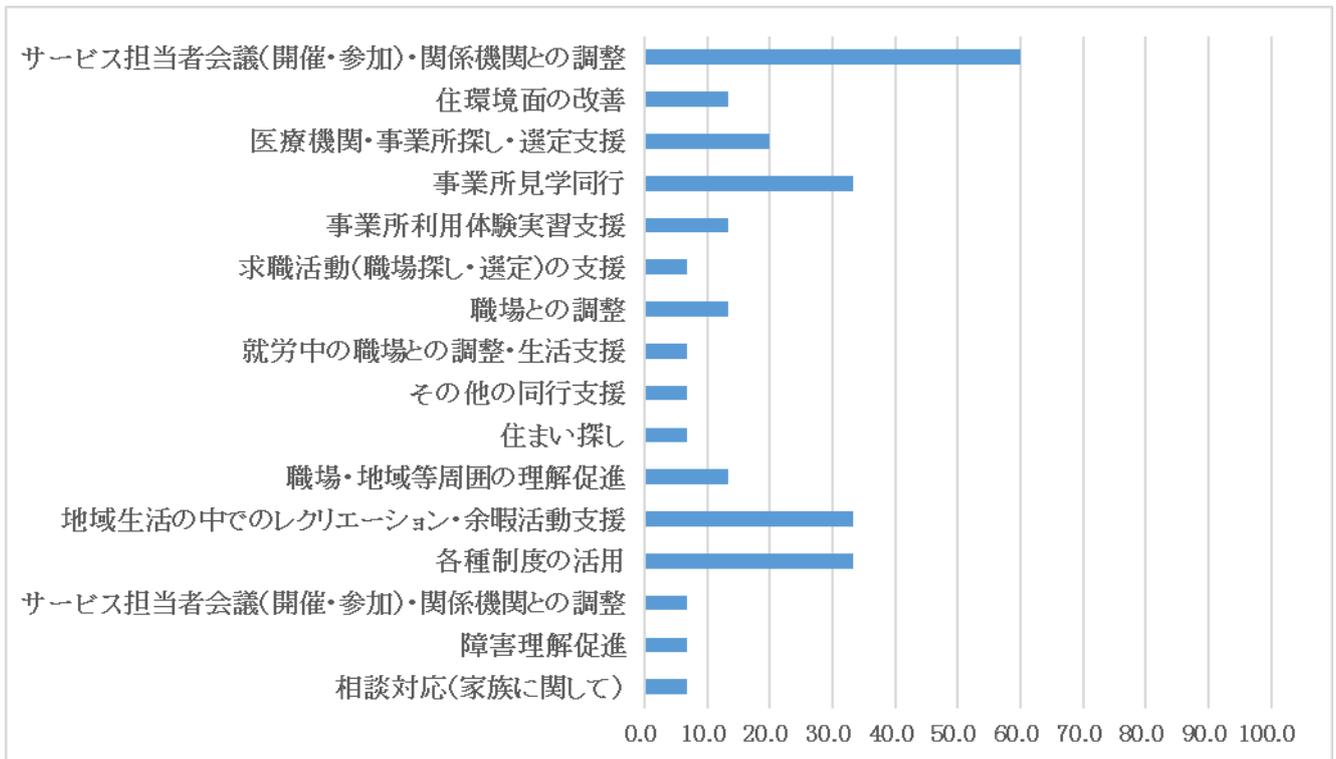


図 44 視覚障害者の地域移行・社会生活に向けた支援および家族支援の実施率(単位:%)

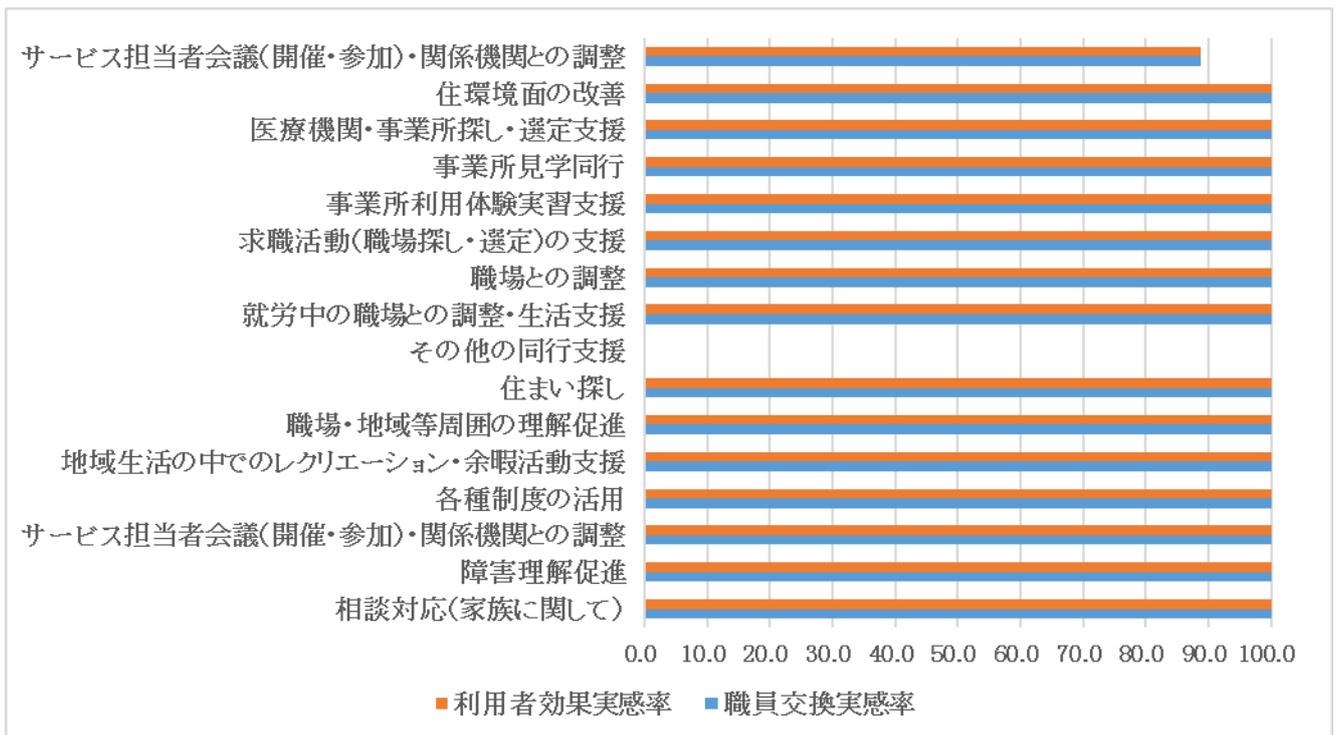


図 45 視覚障害者の地域移行・社会生活に向けた支援および家族支援の効果実感率(単位:%)

(3) 知的障害

1) 機能維持・向上訓練および ADL 訓練

ア 実施率

知的障害者の機能維持・向上訓練および ADL 訓練の実施率の状況を表したのが図46である。実施率が 50%を超えていたものはなかった。みだしな

み・整容が 46.2%で最も高くなっていた。

イ 効果実感率(職員・利用者)

知的障害者の機能維持・向上訓練および ADL 訓練の効果実感率の状況を表したのが図 47 である。利用者・職員ともに効果実感率が 75%を超えていたのは言語訓練、摂食・嚥下訓練、代替え手段の

活用、屋内移動であった。

2) IADL/社会生活力訓練

ア 実施率

知的障害者の IADL/社会生活力訓練の実施率の状況を表したのが図 48 である。実施率が最も高かったのは掃除・整理の 70.5%であった。実施率が 50%を超えていたのはコミュニケーション、生活リズム、買い物であった。

イ 効果実感率(職員・利用者)

知的障害者の IADL/社会生活力訓練の効果実感率の状況を表したのが図 49 である。利用者・職員の効果実感率がともに 75%以上となっていたのは、服薬管理、外出・余暇活動、社会保障制度活用支援であった。

3) 一般就労に向けた訓練およびその他の訓練

ア 実施率

知的障害者の一般就労に向けた訓練およびその他の訓練の実施率の状況を表したのが図 50 である。実施率が 50%を超えていたものはなかった。最も高かったのは、スポーツ活動で 42.3%であった。

イ 効果実感率(職員・利用者)

知的障害者の一般就労に向けた訓練およびその他の訓練の効果実感率の状況を表したのが図 51 である。利用者・職員ともに効果実感率が 75%を超えていたのは、職場実習支援、資格取得のための訓練、スポーツ活動、模擬生活訓練であった。

4) 地域移行・社会生活に向けた支援

ア 実施率

知的障害者の地域移行・社会生活に向けた支援の実施率の状況を表したのが図 51 である。実施率が 50%を超えていたのは、サービス担当者会議(開催・参加)・関係機関との調整のみであった。

イ 効果実感率(職員・利用者)

知的障害者の地域移行・社会生活に向けた支援の効果実感率の状況を表したのが図 53 である。利用者・職員ともに効果実感率が 75%を超えていたのは、医療機関・事業所探し・選定支援、事業所見学同行、事業所利用体験実習支援、求職活動(職

場探し・選定)の支援、職場見学同行、職場体験実習同行、職場との調整、就労中の職場との調整・生活支援、その他の同行支援、契約行為等の手続き、地域生活の中でのレクリエーション・余暇活動支援であった。

5) 家族支援・地域貢献活動

ア 実施率

知的障害者の家族支援・地域貢献活動の実施率の状況を表したのが図 54 である。実施率が 50%を超えていたのは、サービス担当者会議(開催・参加)・関係機関との調整のみであった。

イ 効果実感率(職員・利用者)

知的障害者の家族支援・地域貢献活動の効果実感率の状況を表したのが図 55 である。利用者・職員ともに効果実感率が 75%を超えていたのは、サービス担当者会議(開催・参加)・関係機関との調整、相談対応(利用者に対して)、地域等に対するボランティア活動、利用者が(と共に)行う地域づくり活動であった。

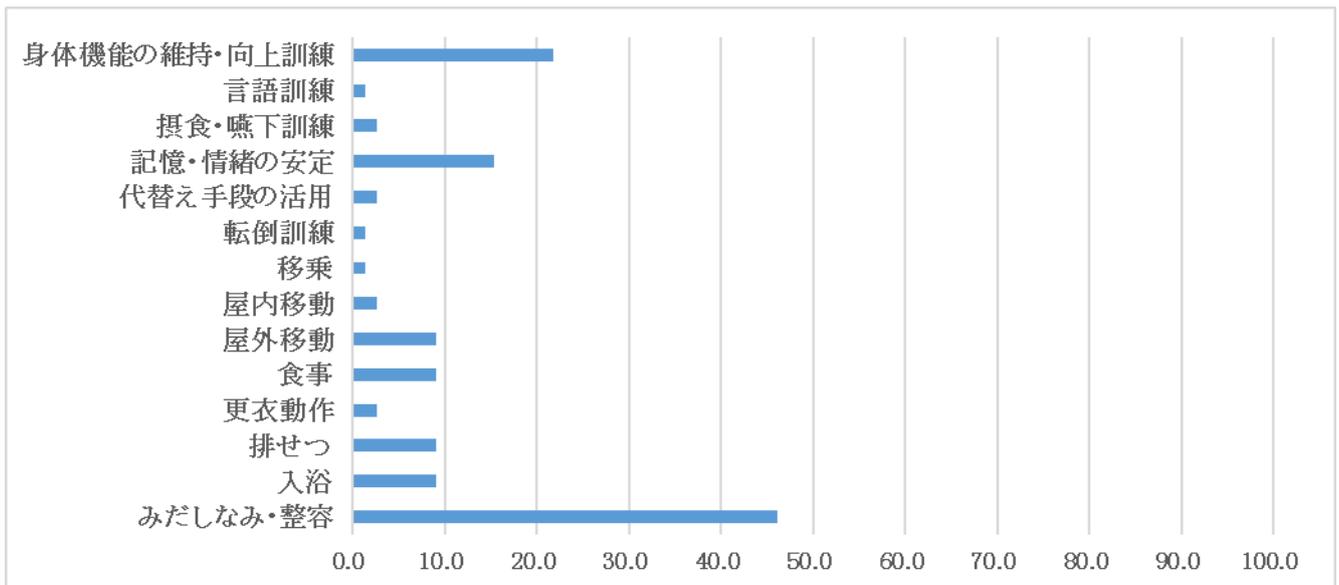


図 46 知的障害者の機能維持・向上訓練および ADL 訓練の実施率(単位:%)

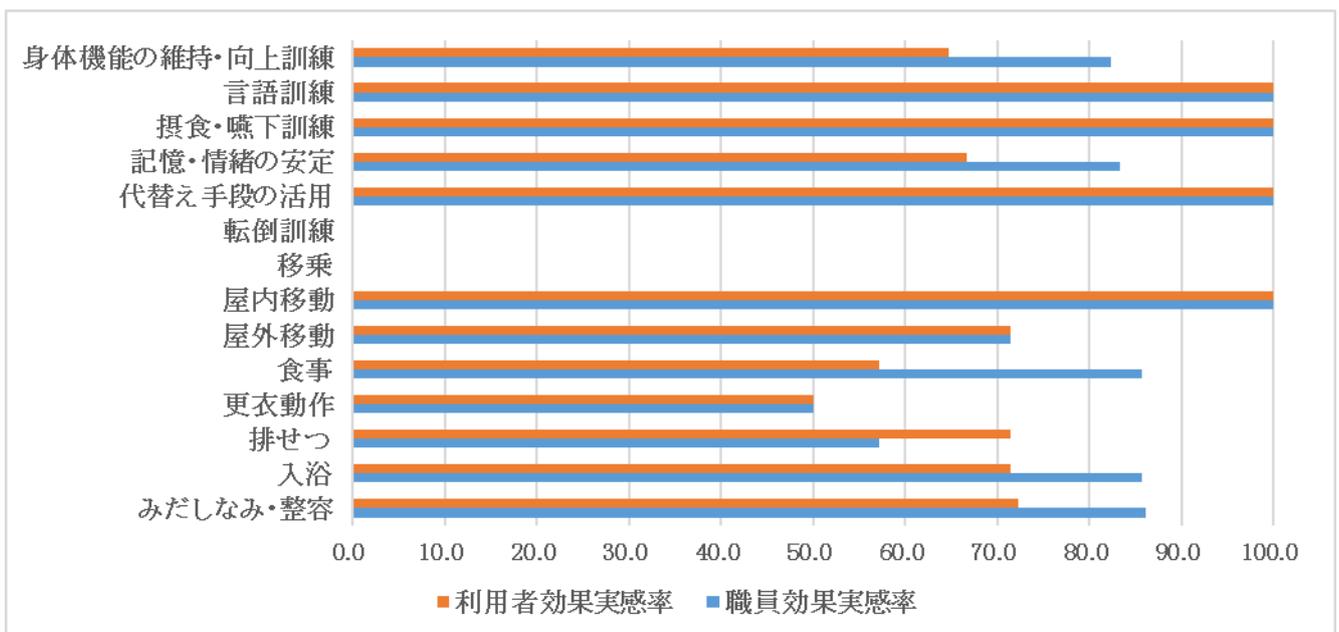


図 47 知的障害者の機能維持・向上訓練および ADL 訓練の効果実感率(単位:%)

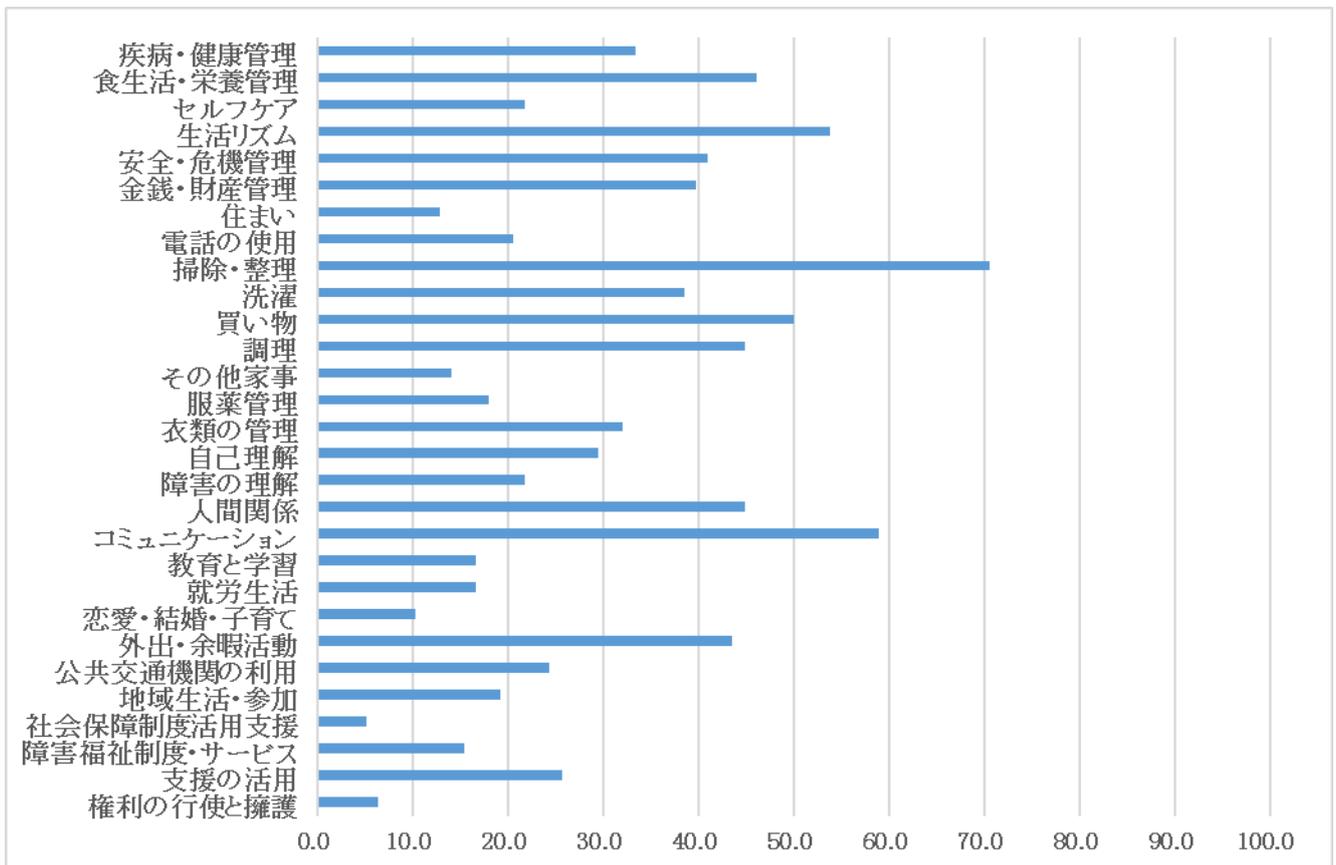


図 48 知的障害者の IADL/社会生活力訓練の実施率(単位:%)

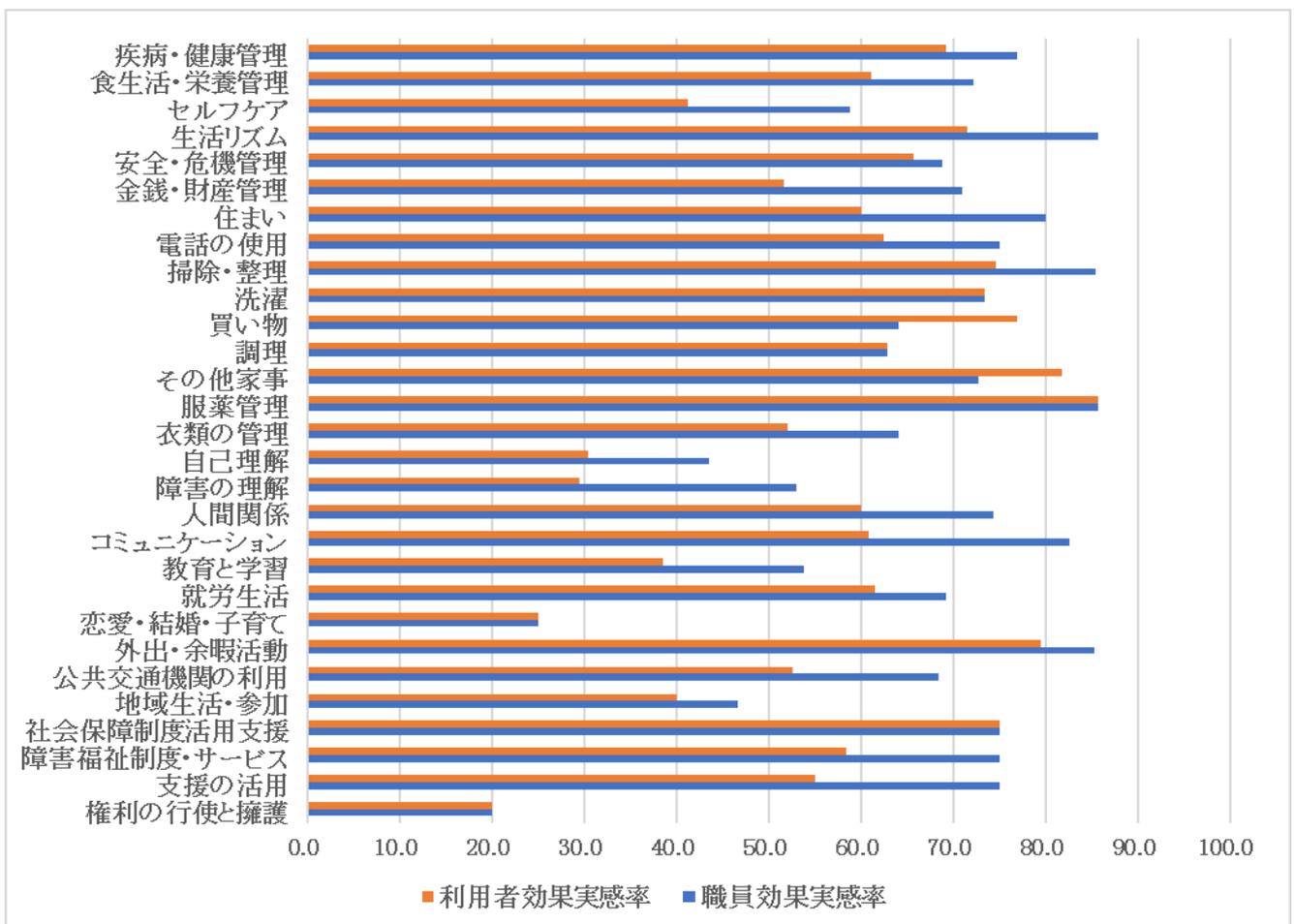


図 49 知的障害者の IADL/社会生活力訓練の効果実感率実施率(単位:%)

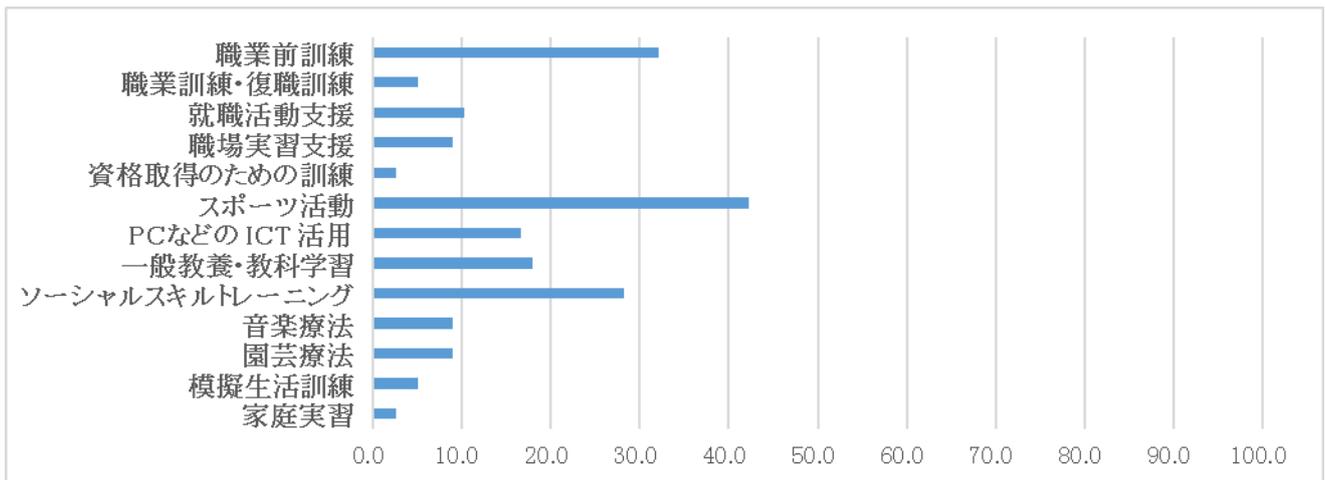


図 50 知的障害者の一般就労に向けた訓練およびその他の訓練の実施率(単位:%)

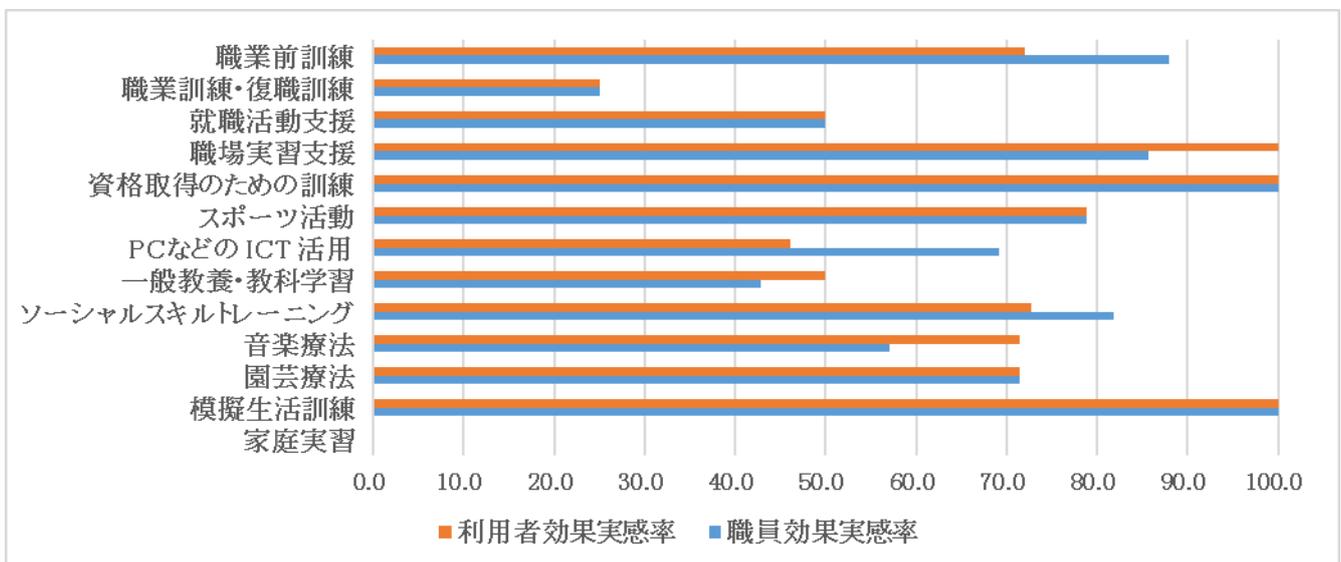


図 51 知的障害者の一般就労に向けた訓練およびその他の訓練の効果実感率(単位:%)

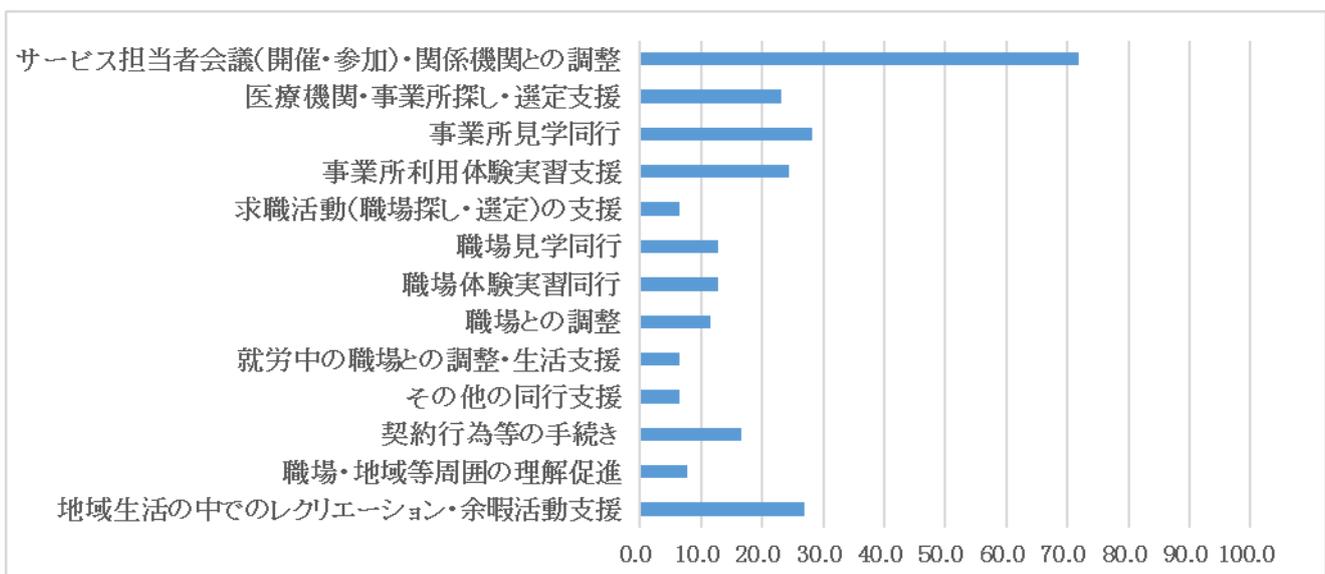


図 52 知的障害者の地域移行・社会生活に向けた支援の実施率(単位:%)

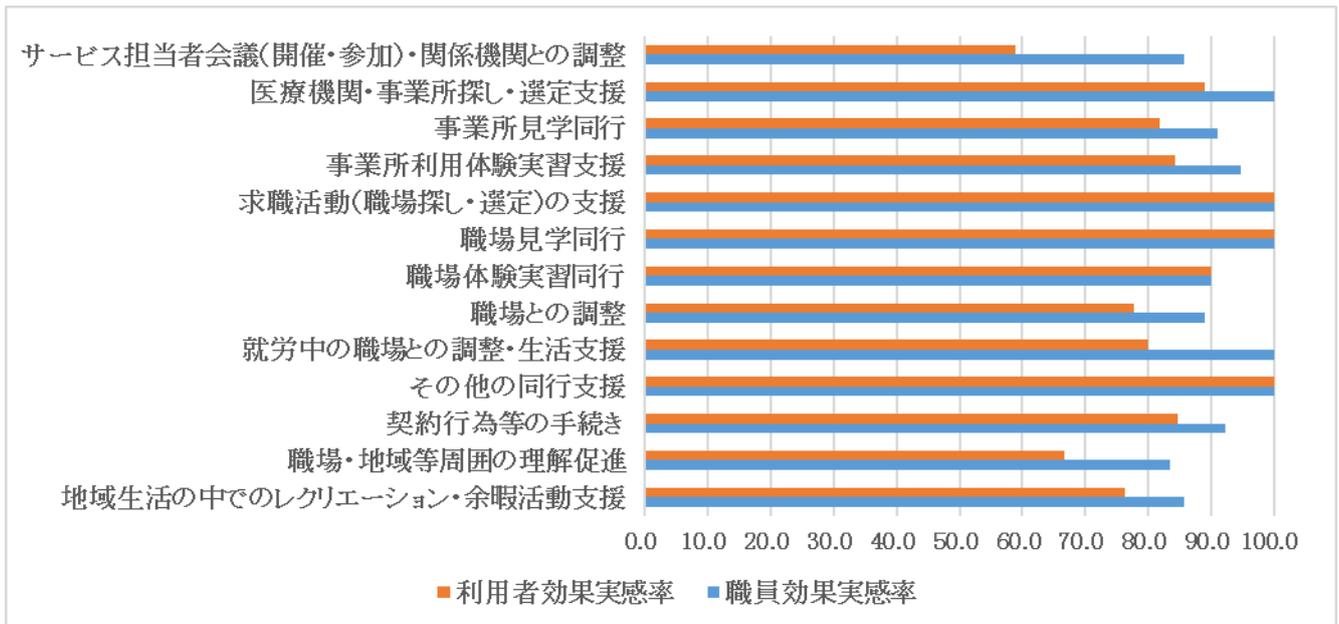


図 53 知的障害者の地域移行・社会生活に向けた支援の効果実感率(単位:%)

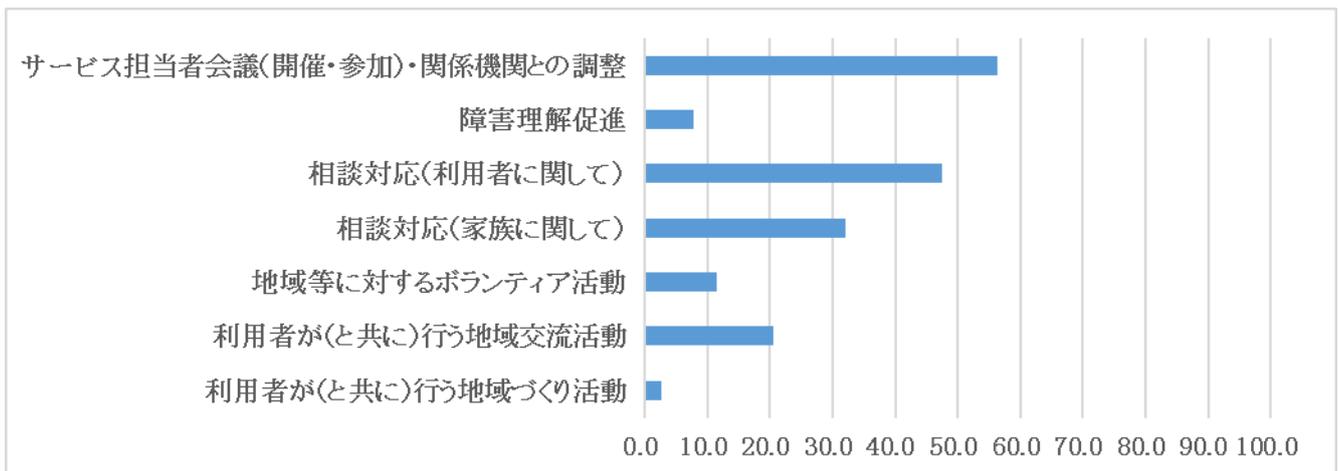


図 54 知的障害者の家族支援・地域貢献活動の実施率(単位:%)

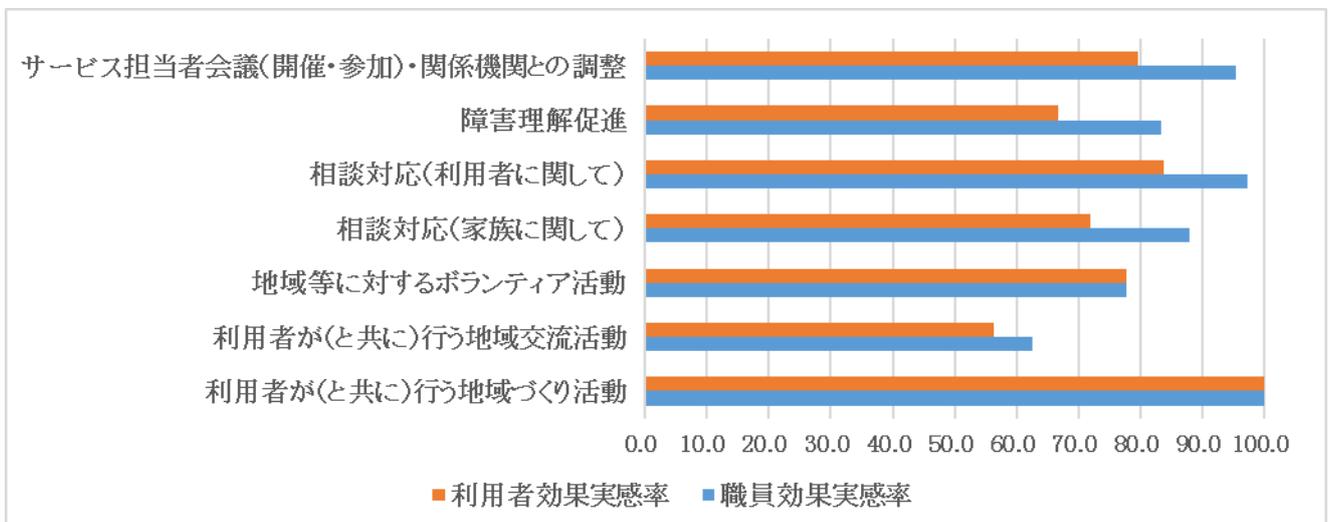


図 55 知的障害者の家族支援・地域貢献活動の効果実感率(単位:%)

(4) 精神障害

1) 機能維持・向上訓練および ADL 訓練

ア 実施率

精神障害者の機能維持・向上訓練および ADL 訓練の実施率の状況を表したのが図 56 である。

実施率が 50%を超えていたものはなかった。最も高かったのはみだしなみ・整容の 29.7%であった。

イ 効果実感率(職員・利用者)

精神障害者の機能維持・向上訓練および ADL 訓練の効果実感率の状況を表したのが図 57 である。利用者・職員ともに効果実感率が 75%を超えていたのは、食事、入浴であった。

2) IADL/社会生活力訓練

ア 実施率

精神障害者の IADL/社会生活力訓練の実施率の状況を表したのが図 58 である。実施率が 50%を超えていたのは、高い順に、生活リズム(74.7%)、障害の理解、コミュニケーション(68.1%)、掃除・整理(67.0%)、疾病・健康管理(62.6%)、自己理解(61.5%)、外出・余暇活動(60.4%)、買い物(57.1%)、服薬管理(56.0%)、金銭・財産管理、調理(54.9%)、食生活・栄養管理(51.6%)であった。

イ 効果実感率(職員・利用者)

精神障害者の IADL/社会生活力訓練の効果実感率の状況を表したのが図 59 である。利用者・職員ともに効果実感率が 75%を超えていたのは、生活リズム、住まい、電話の使用、買い物、服薬管理、自動車利用・運転、地域生活・参加、支援の活用であった。

3) 一般就労に向けた訓練

ア 実施率

精神障害者の一般就労に向けた訓練の実施率の状況を表したのが図 60 である。実施率が 50%を超えていたものはなかった。最も高かったのは、職業前訓練の 28.6%であった。

イ 効果実感率(職員・利用者)

精神障害者の一般就労に向けた訓練の効果実感率の状況を表したのが図 61 である。利用者・職員ともに効果実感率が 75%を超えていたのは、職業訓練・復職訓練、就職活動支援、職場実習支援、その他(一般就労に向けた訓練について)であった。

4) その他の訓練

ア 実施率

精神障害者のその他の訓練の実施率の状況を表したのが図 62 である。実施率が 50%を超えていたのは、スポーツ活動(58.2%)のみであった。

イ 効果実感率(職員・利用者)

精神障害者のその他の訓練の効果実感率の状況を表したのが図 63 である。利用者・職員ともに効果実感率が 75%を超えていたものは PC などの ICT 訓練であった。模擬生活訓練、一般教養・強化学習については職員効果実感率が 80%を超えていた。

5) 地域移行・社会生活に向けた支援

ア 実施率

精神障害者の地域移行・社会生活に向けた支援の実施率の状況を表したのが図 64 である。実施率が 50%を超えていたのは、サービス担当者会議(開催・参加)・関係機関との調整のみであった。

イ 効果実感率(職員・利用者)

精神障害者の地域移行・社会生活に向けた支援の効果実感率の状況を表したのが図 65 である。利用者・職員ともに効果実感率が 75%を超えていたのは、住環境面の改善、医療機関・事業所探し・選定支援、事業所見学同行、事業所利用体験実習支援、求職活動(職場探し・選定)の支援、職場見学同行、職場との調整、就労中の職場との調整・生活支援、その他の同行支援、住まい探し、契約行為等の手続き、地域生活の中でのレクリエーション・余暇活動支援であった。

6) 家族支援および地域貢献活動

ア 実施率

精神障害者の家族支援および地域貢献活動の実施率の状況を表したのが図 66 である。実施率が 50%を超えていたのは、相談対応(利用者に関して)(60.4%)であった。

イ 効果実感率(職員・利用者)

精神障害者の家族支援および地域貢献活動の効果実感率の状況を表したのが図 67 である。利用者・職員ともに効果実感率が 75%を超えていたのは、他の障害者等に対するピアサポート活動であった。

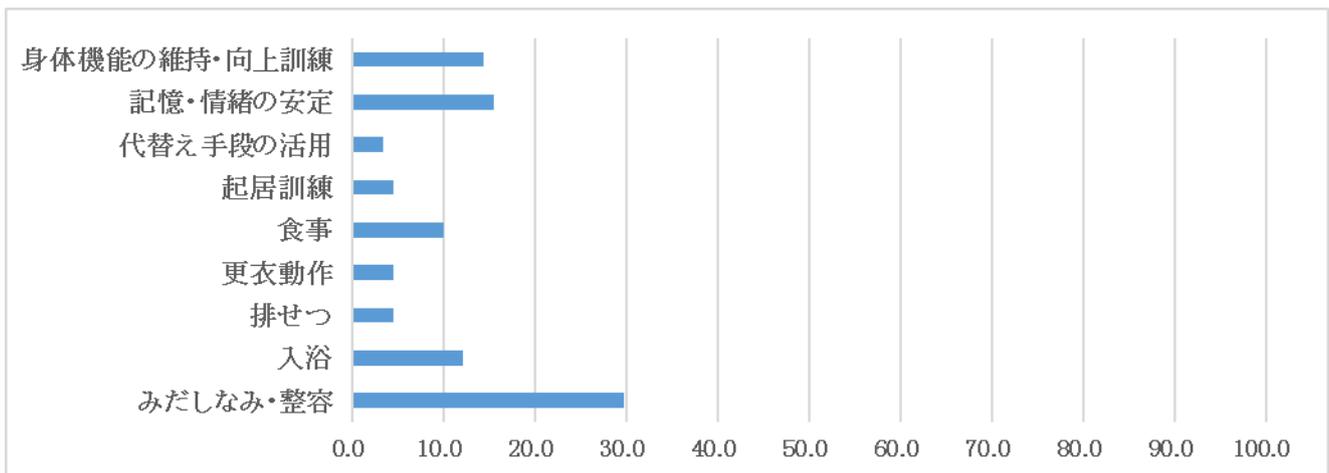


図 56 精神障害者の機能維持・向上訓練および ADL 訓練の実施率(単位:%)

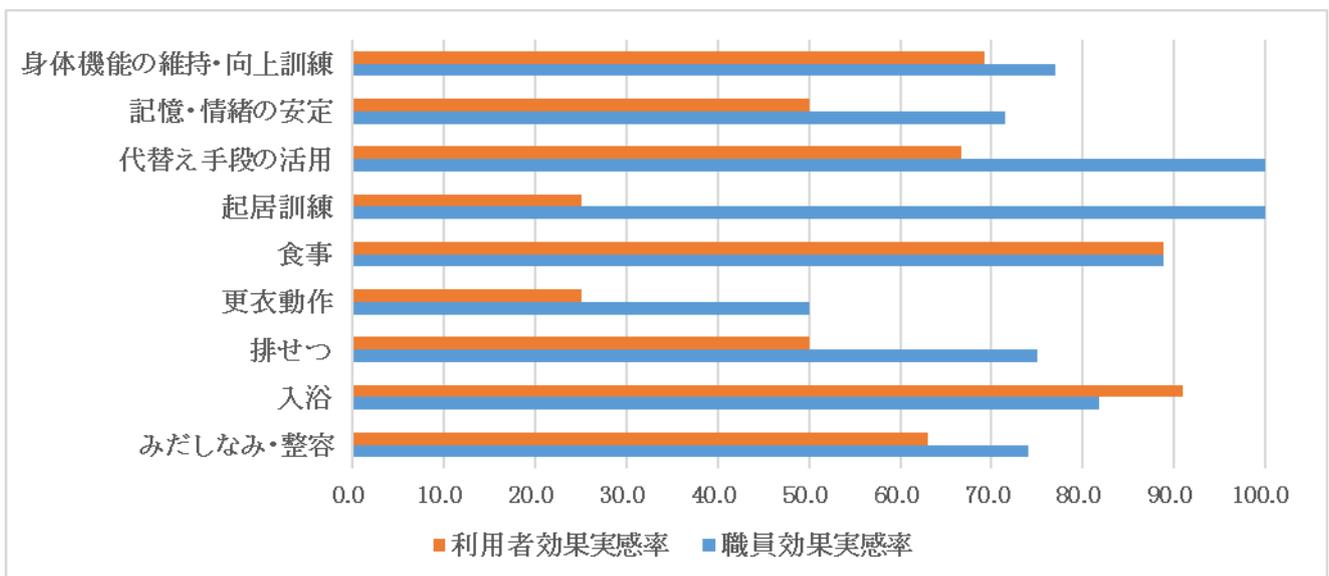


図 57 精神障害者の機能維持・向上訓練および ADL 訓練の効果実感率(単位:%)

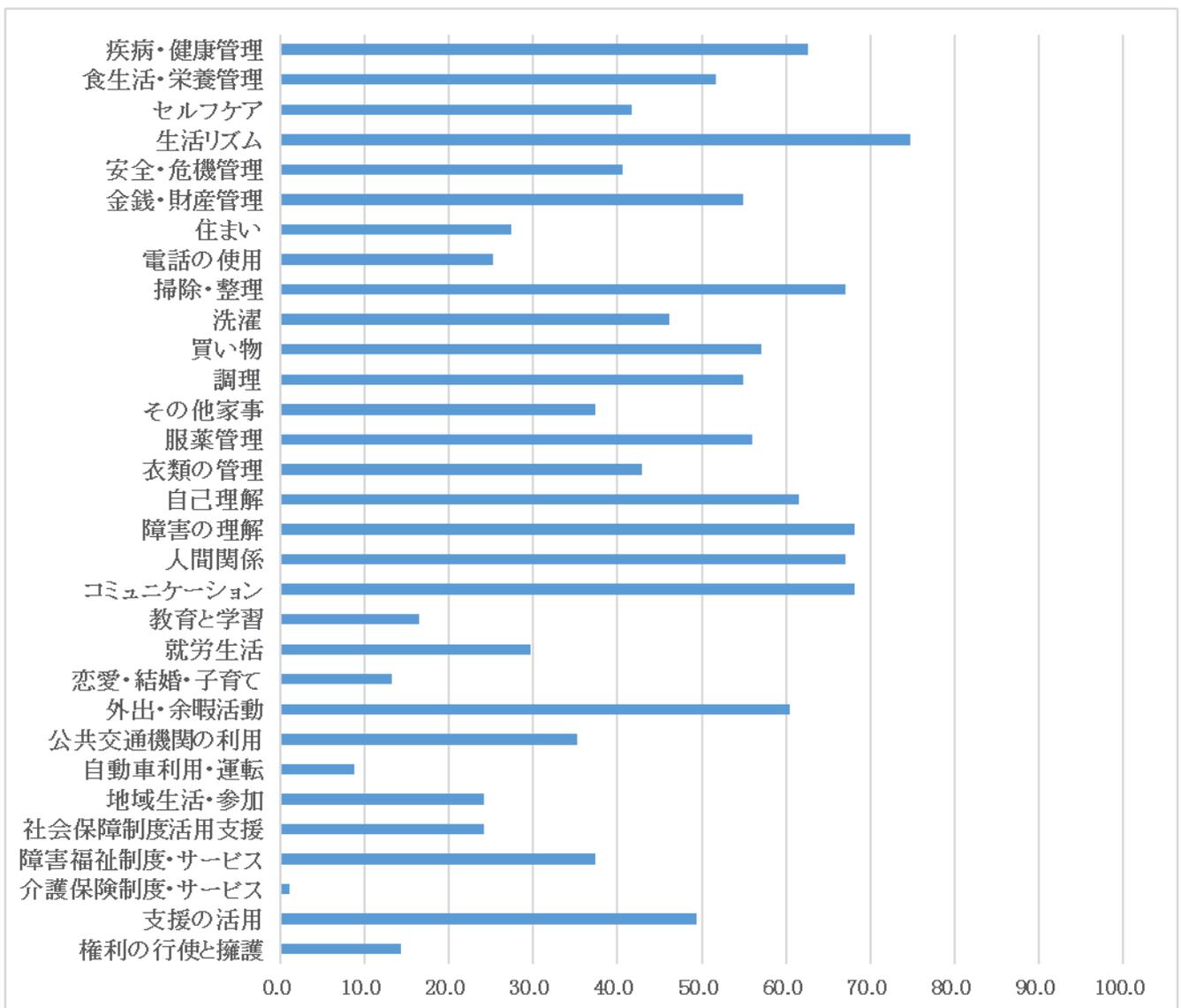


図 58 精神障害者の IADL/社会生活力訓練の実施率(単位:%)

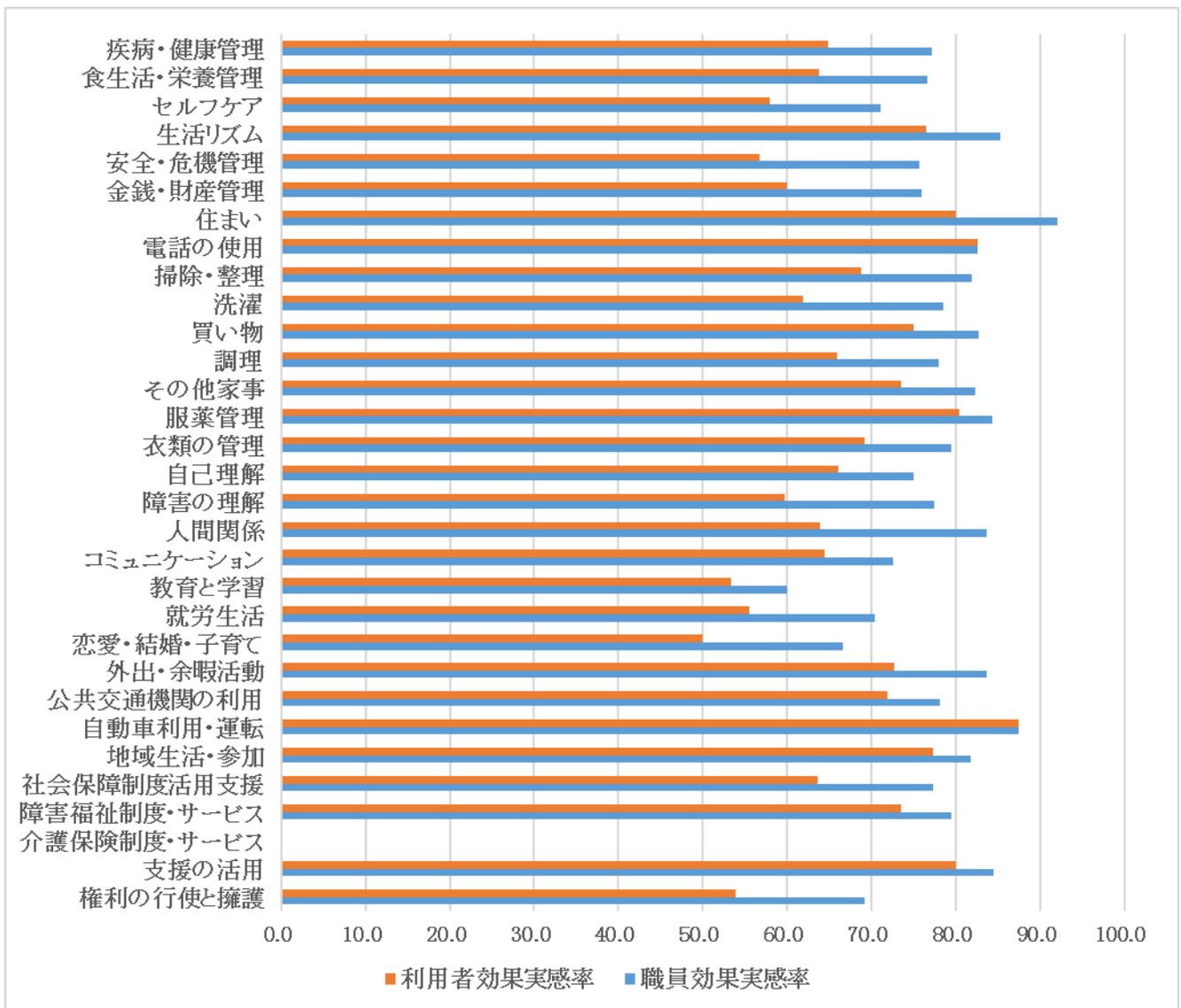


図 59 精神障害者の IADL/社会生活力訓練の効果実感率(単位:%)

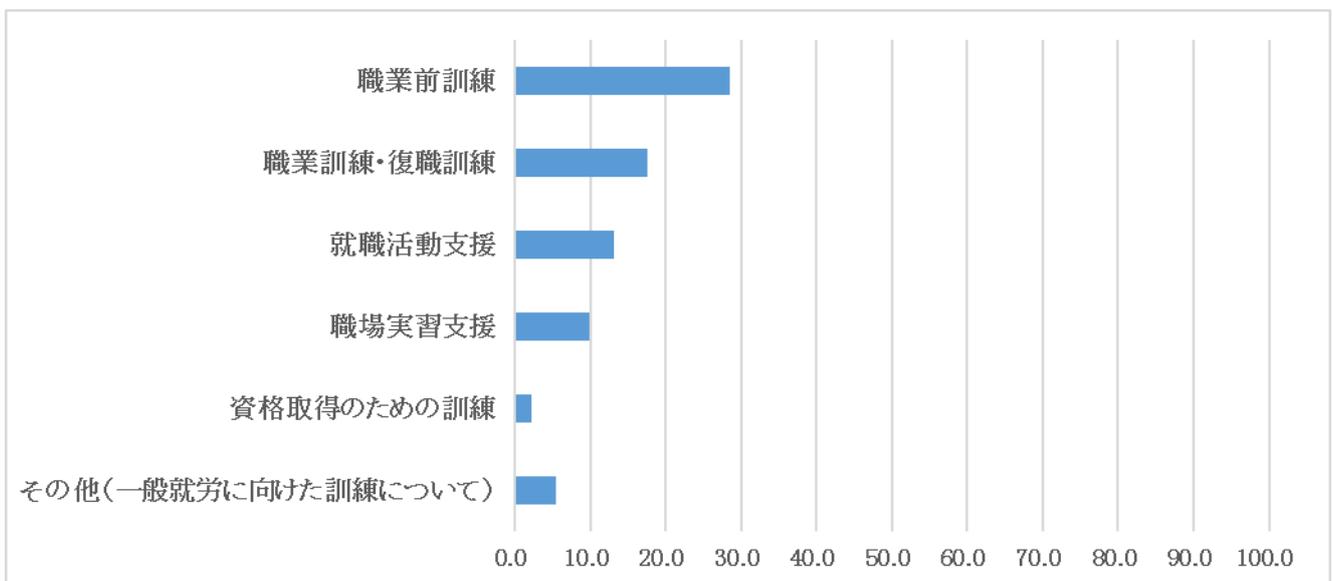


図 60 精神障害者の一般就労に向けた訓練の実施率(単位:%)

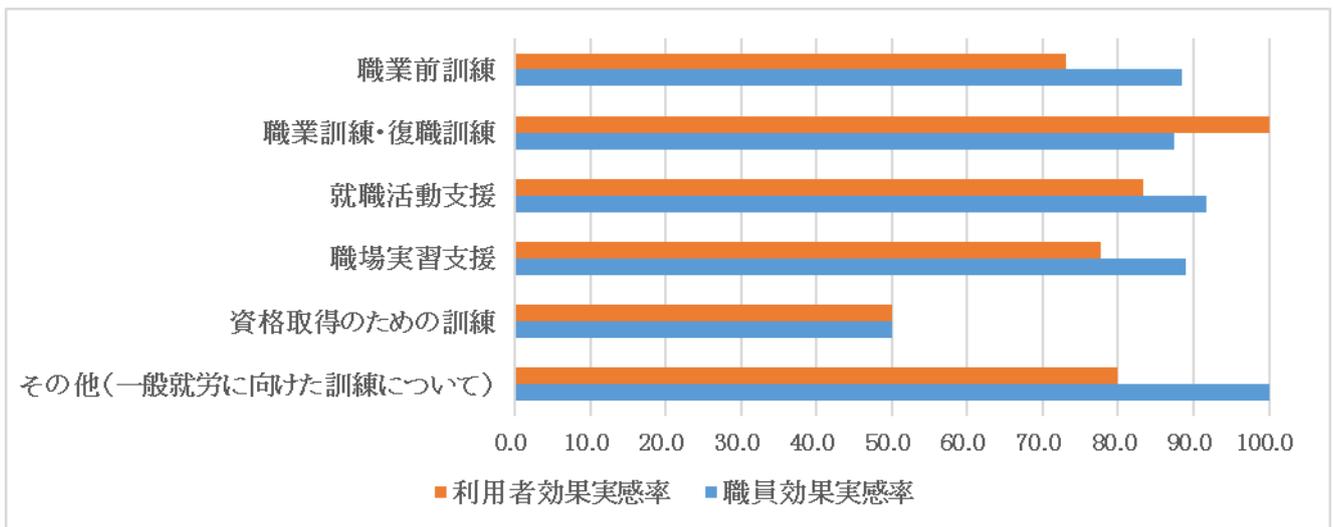


図 61 精神障害者の一般就労に向けた訓練の効果実感率(単位:%)

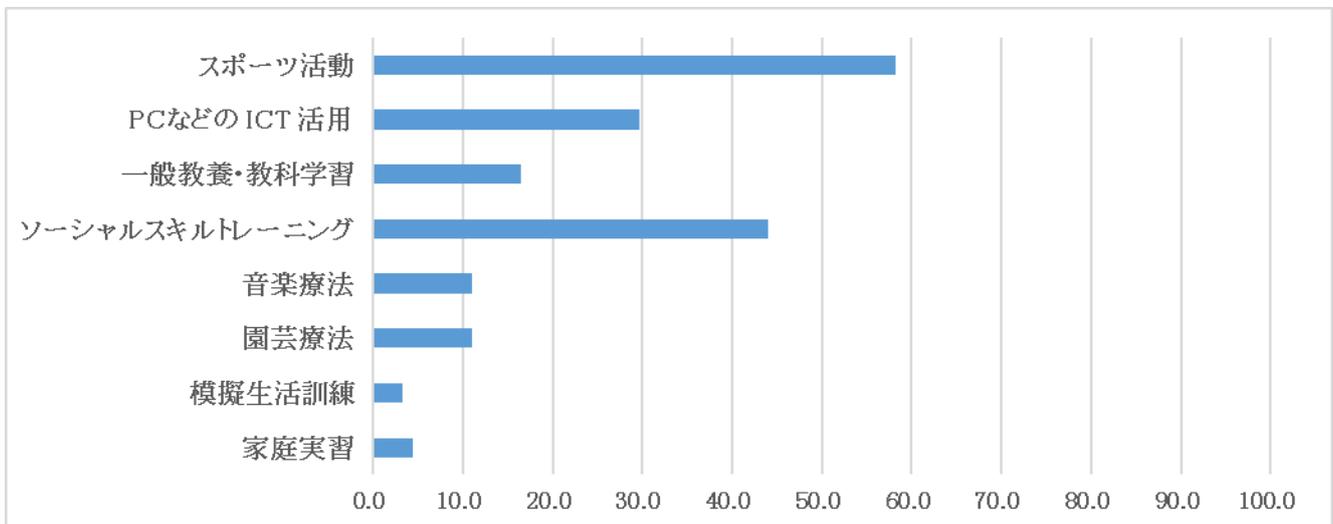


図 62 精神障害者のその他の訓練の実施率 (単位:%)

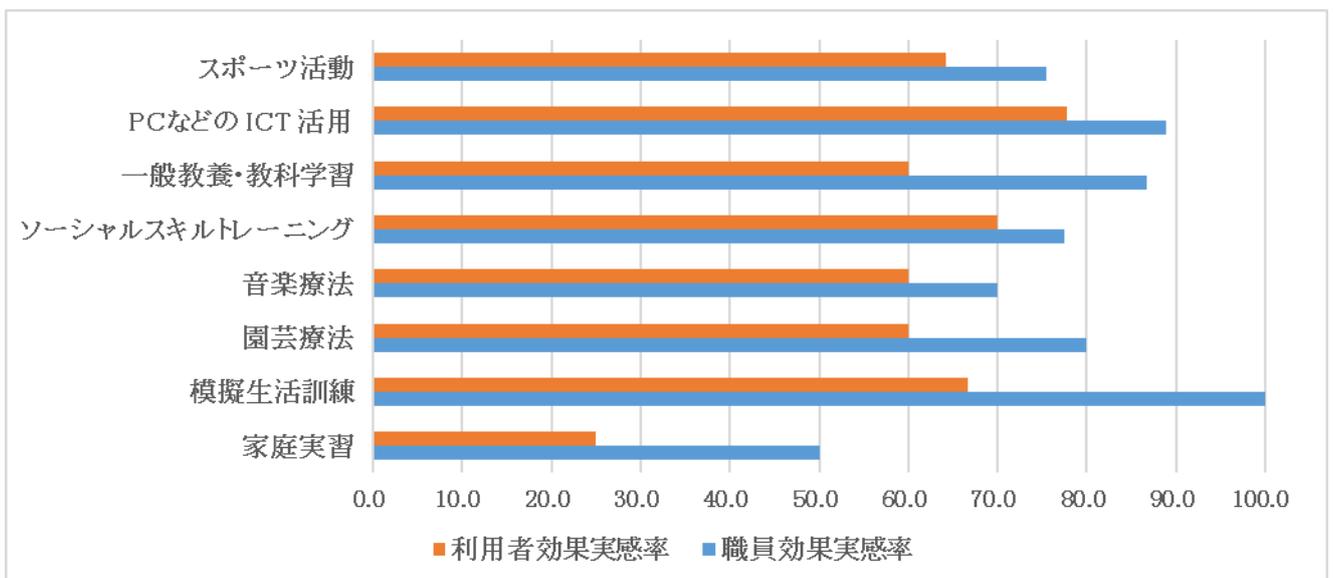


図 63 精神障害者のその他の訓練の効果実感率(単位:%)

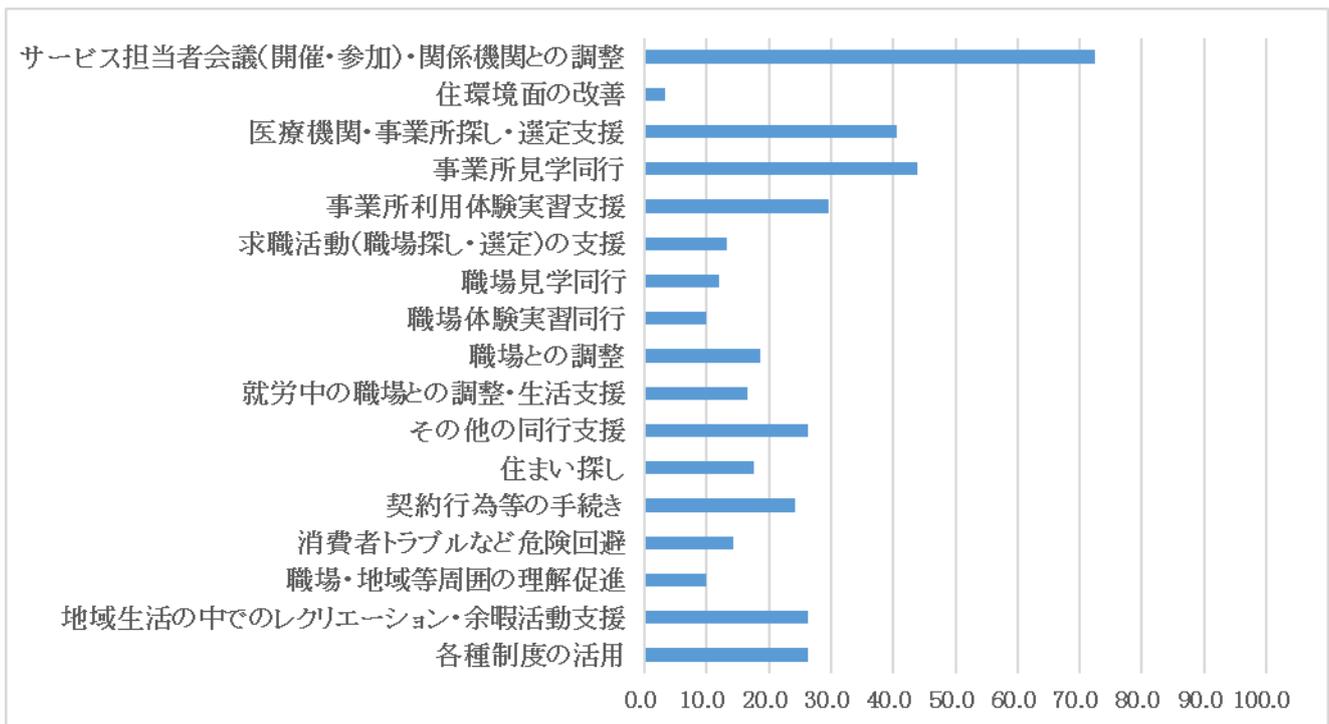


図 64 精神障害者の地域移行・社会生活に向けた支援の実施率(単位:%)

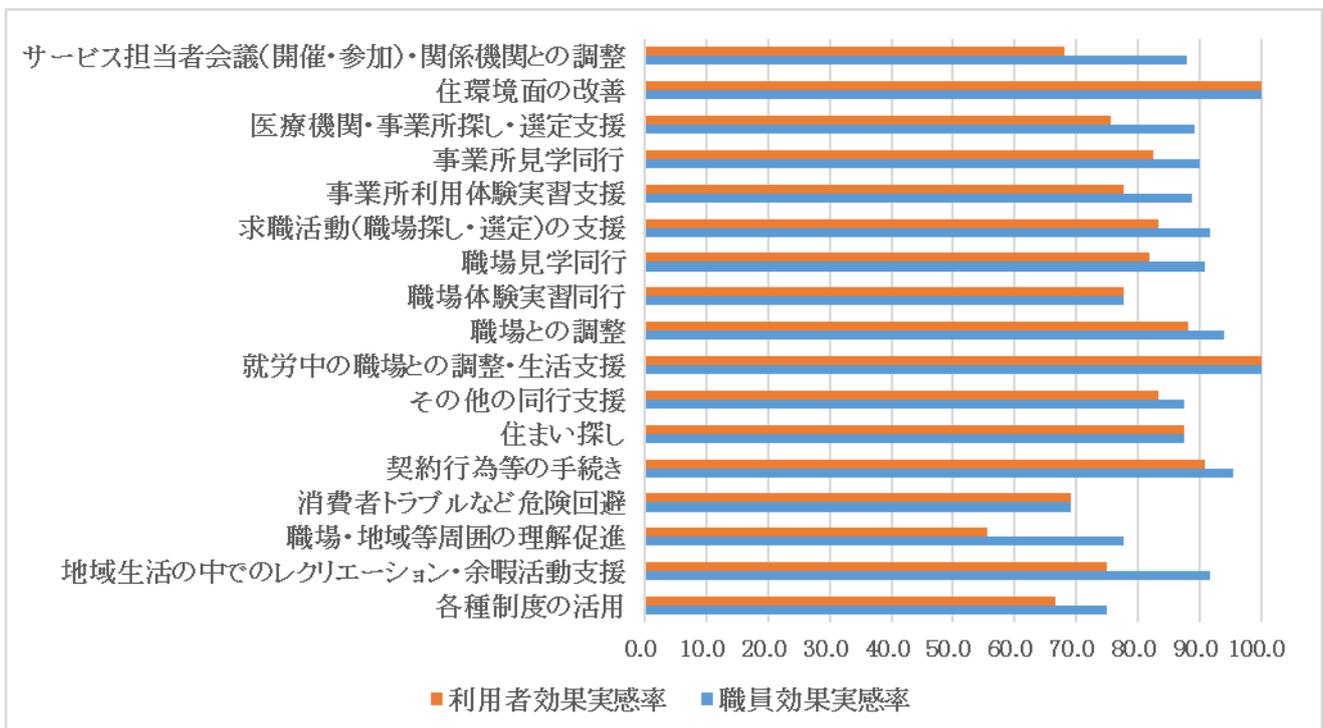


図 65 精神障害者の地域移行・社会生活に向けた支援の効果実感率(単位:%)

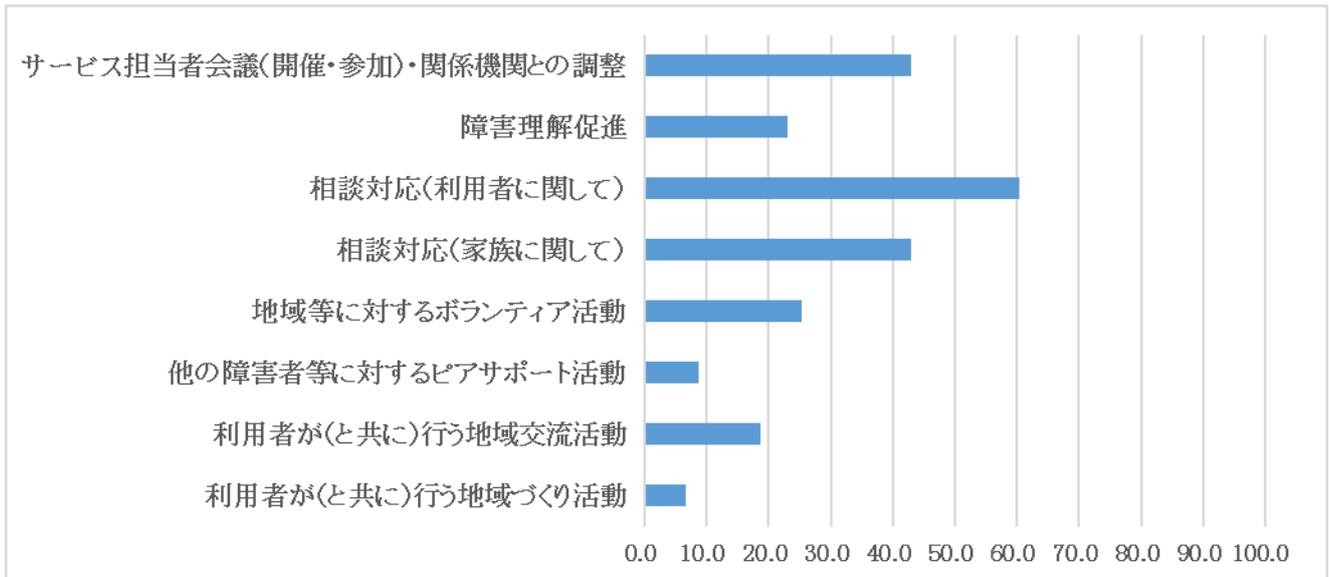


図 66 精神障害者の家族支援・地域貢献活動の実施率(単位:%)

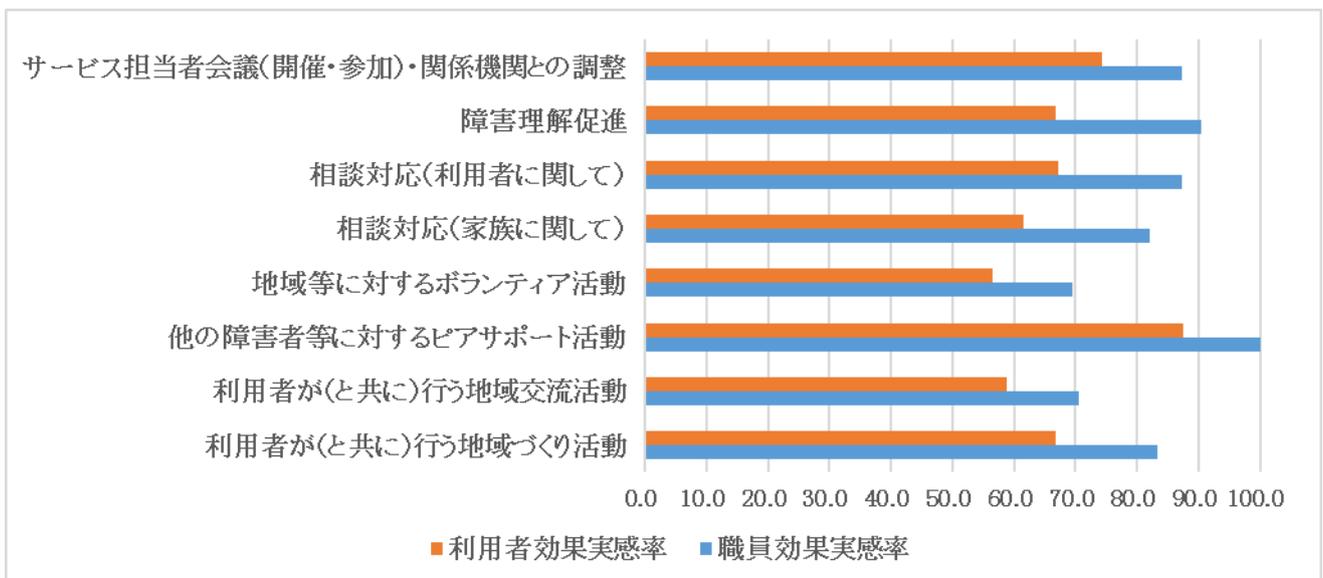


図 67 精神障害者の家族支援・地域貢献活動の効果実感率(単位:%)

(5) 発達障害

1) 機能維持・向上訓練および ADL 訓練

ア 実施率

発達障害者の機能維持・向上訓練および ADL 訓練の実施率の状況を表したのが図 68 である。実施率が 50%を超えているものはなかった。最も実施率が高かったのは記憶・情緒の安定の 25.0%であった。

イ 効果実感率(職員・利用者)

発達障害者の機能維持・向上訓練および ADL

訓練の効果実感率を表したのが図 69 である。実施された訓練では、身体機能の維持・向上訓練、屋内移動を除くすべての支援プログラム等で職員・利用者の効果実感率が 100%となっていた。

2) IADL/社会生活力訓練

ア 実施率

発達障害者の IADL/社会生活力訓練の実施率を表したのが図 70 である。実施率が高い順に、生活リズム(95.0%)、自己理解(75.0%)、コミュニケーション(65.0%)、障害の理解(60.0%)、疾病・健康管

理、掃除・整理(55.0%)、人間関係(50.0%)となっていた。

イ 効果実感率(職員・利用者)

発達障害者の IADL/社会生活力訓練の効果実感率を表したのが図 71 である。利用者・職員ともに効果実感率が 75%を超えていたのは、疾病・健康管理、セルフケア、生活リズム、安全・危機管理、金銭・財産管理、住まい、電話の使用、掃除・整理、洗濯、自己理解、障害の理解、人間関係、外出・余暇活動、公共交通機関の利用、自動車利用・運転、障害福祉制度・サービス、支援の活用であった。

3) 一般就労に向けた訓練およびその他の訓練

ア 実施率

発達障害者の一般就労に向けた訓練およびその他の訓練の実施率を表したのが図 72 である。

実施率が 500%を超えているものはなかった。職業前訓練、スポーツ活動、ソーシャルスキルトレーニングが 40.0%で最も実施率が高くなっていた。

イ 効果実感率(職員・利用者)

発達障害者の一般就労に向けた訓練およびその他の訓練の効果実感率を表したのが図 73 である。利用者・職員ともに効果実感率が 75%を超えていたのは、職業前訓練、職業訓練・復職訓練、職場実習支援、ソーシャルスキルトレーニング、模擬生活訓練、家庭実習、その他(その他の訓練)であった。

4) 地域移行・社会生活に向けた支援

ア 実施率

発達障害者の地域移行・社会生活に向けた支援の実施率を表したのが図 74 である。サービス担当者会議(開催・参加)・関係機関との調整が 80.0%で最も高く、それ以外に 50%を超えていたものはなかった。

イ 効果実感率(職員・利用者)

発達障害者の地域移行・社会生活に向けた支援の効果実感率を表したのが図 75 である。実施された支援のうち、ほとんどの支援で利用者・職員ともに効果実感率が 80%を超えていた。

5) 家族支援および地域貢献活動

ア 実施率

発達障害者の家族支援および地域貢献活動の実施率を表したのが図 76 である。実施率が最も高かったのは相談対応(利用者に関して)の 70.0%で、それ以外では、サービス担当者会議(開催・参加)・関係機関との調整、相談対応(家族に関して)が 50%を超えていた。

イ 効果実感率(職員・利用者)

発達障害者の家族支援および地域貢献活動の効果実感率を表したのが図 77 である。実施されたすべての支援プログラム等において、利用者・職員ともに効果実感率が 75%を超えていた。

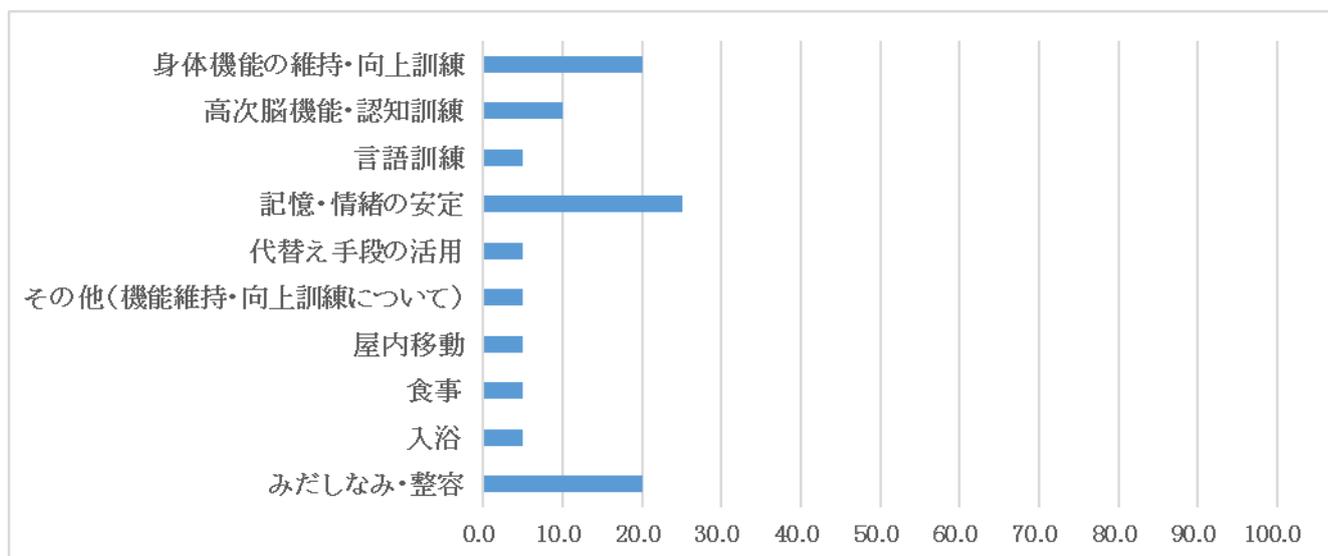


図 68 発達障害者の機能維持・向上訓練および ADL 訓練の実施率(単位:%)

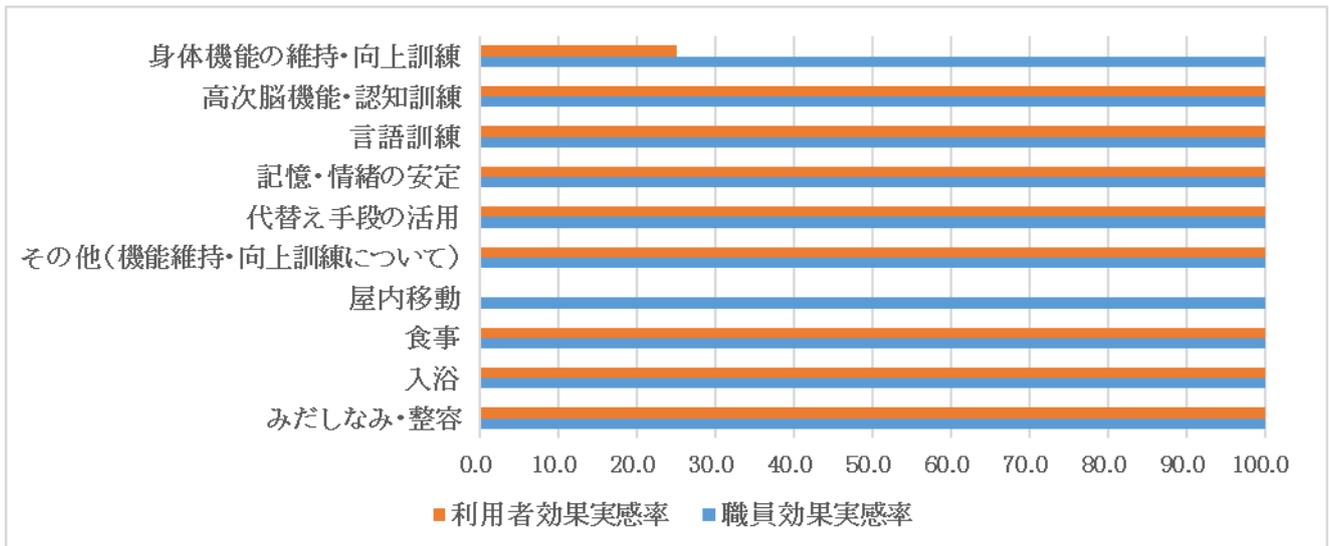


図 69 発達障害者の機能維持・向上訓練および ADL 訓練の効果実感率(単位:%)

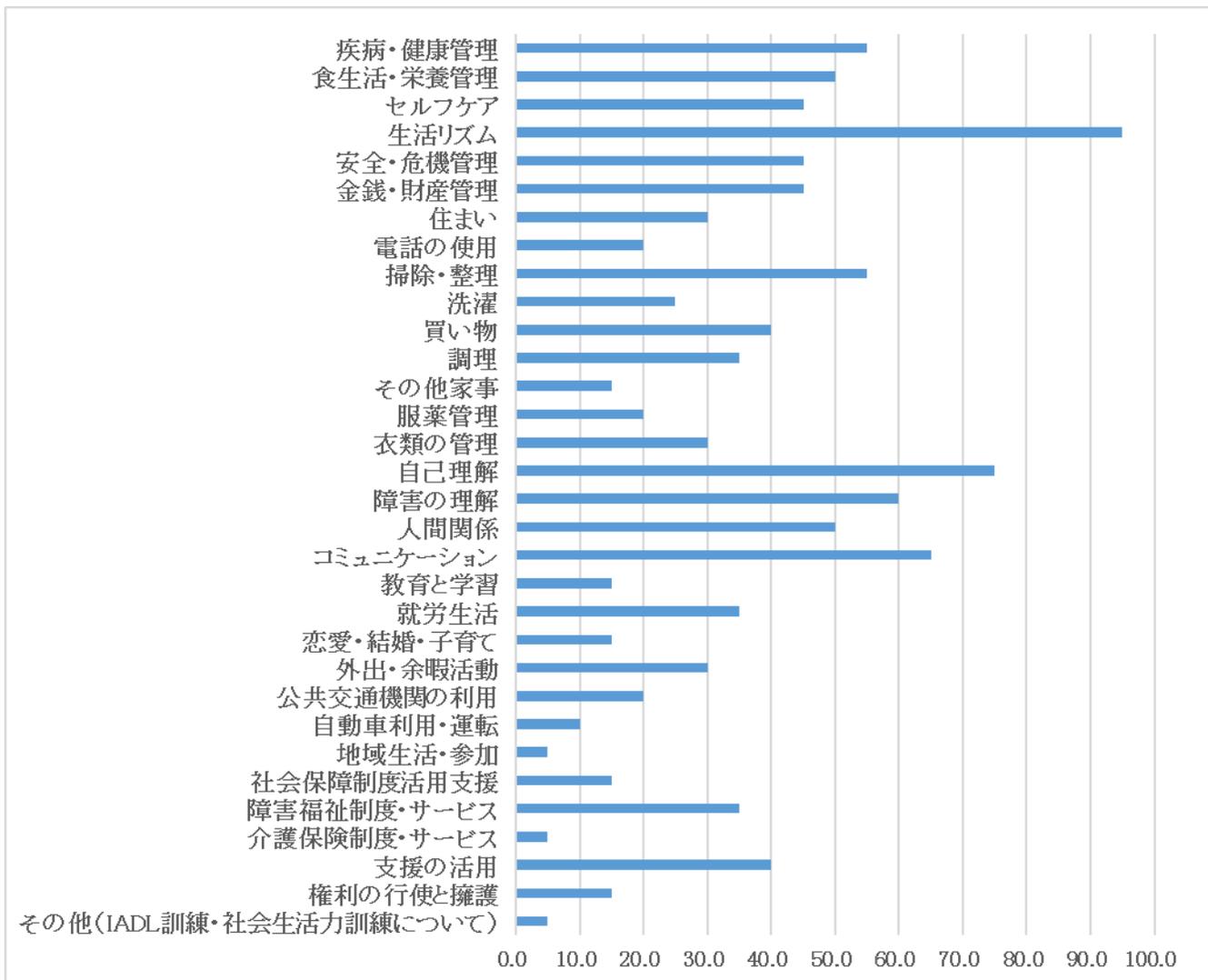


図 70 発達障害者の IADL/社会生活力訓練の実施率(単位:%)

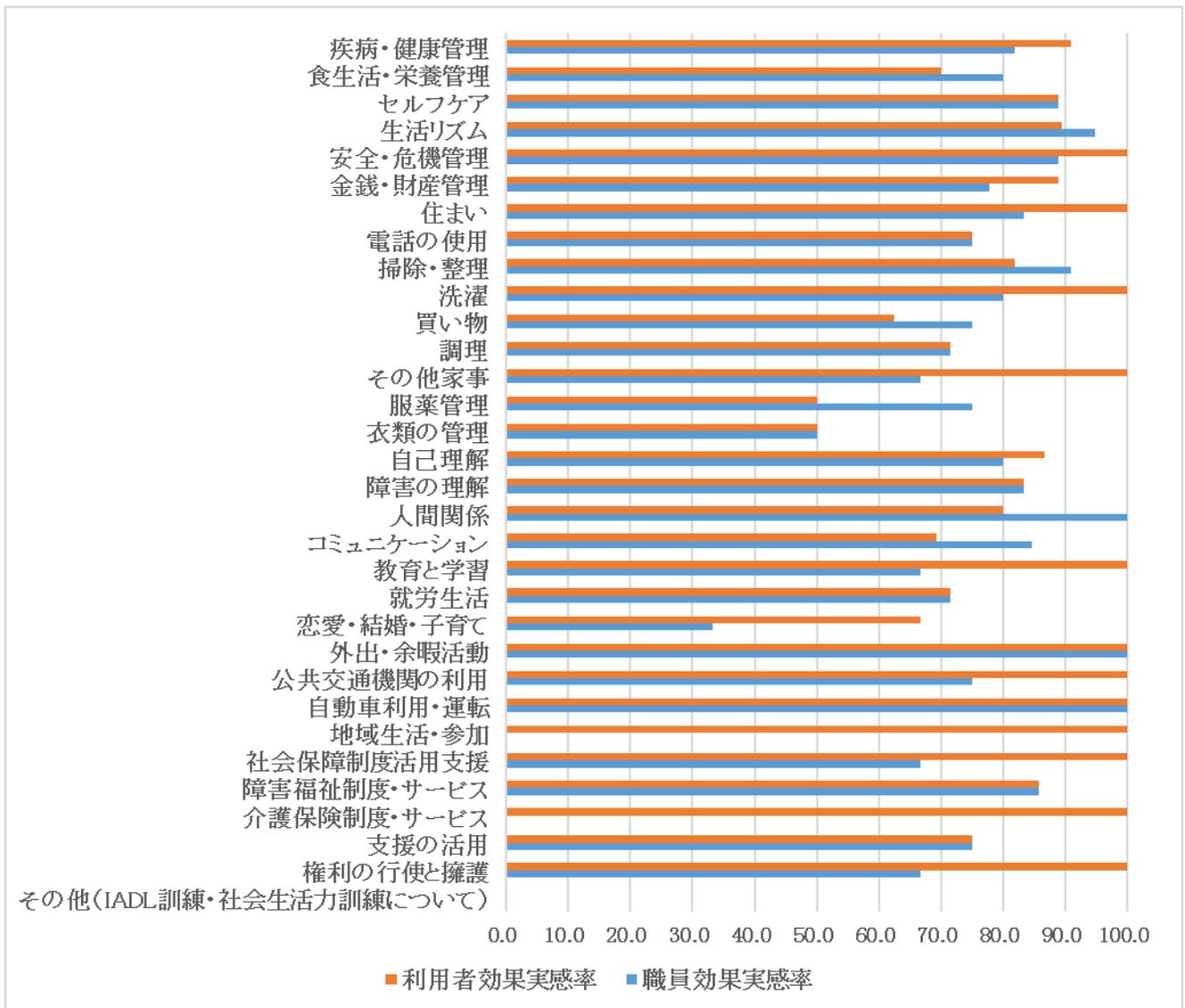


図 71 発達障害者の IADL/社会生活力訓練の効果実感率(単位:%)

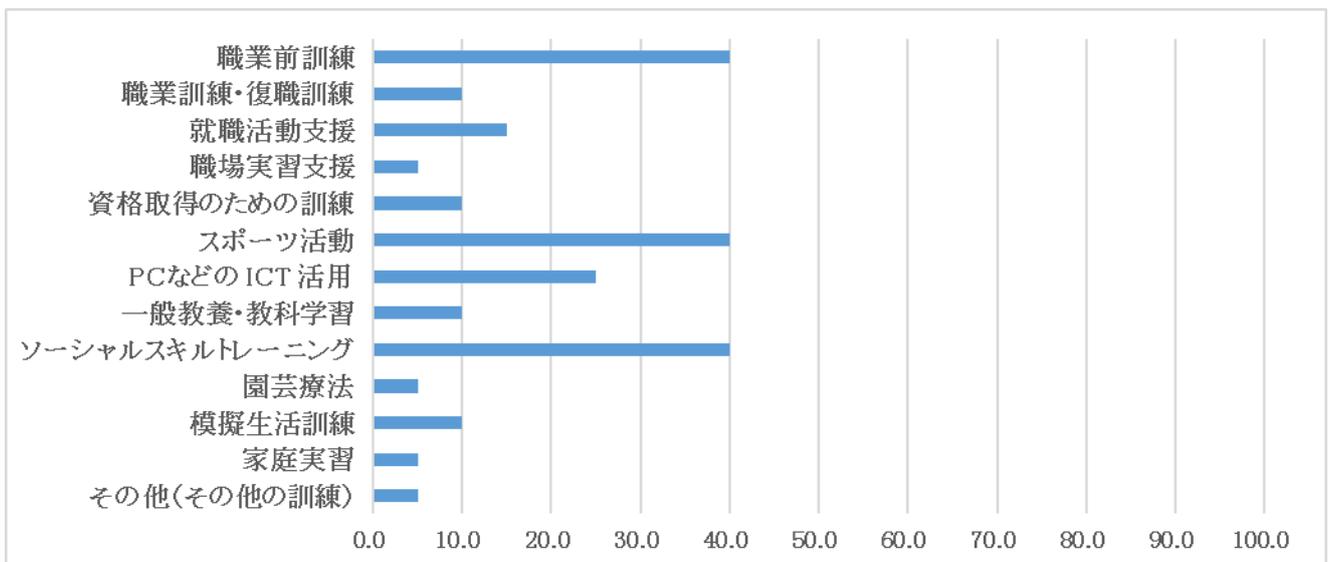


図 72 発達障害者の一般就労に向けた訓練およびその他の訓練の実施率(単位:%)

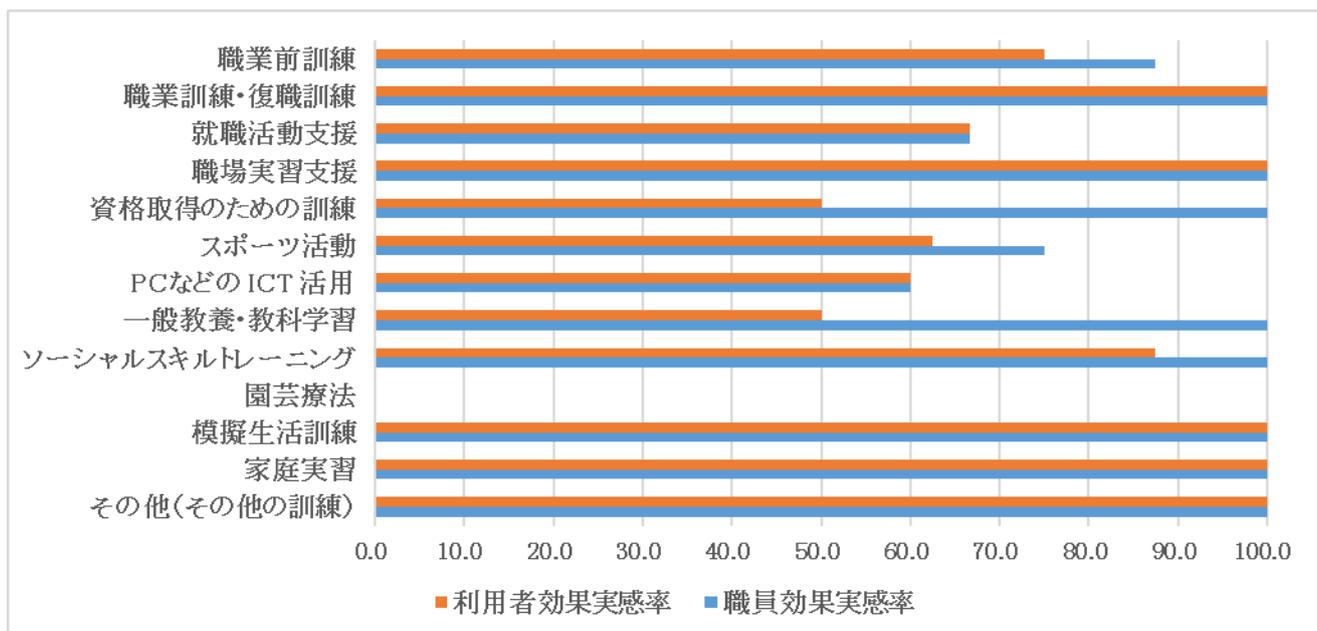


図 73 発達障害者の一般就労に向けた訓練およびその他の訓練の効果実感率(単位:%)

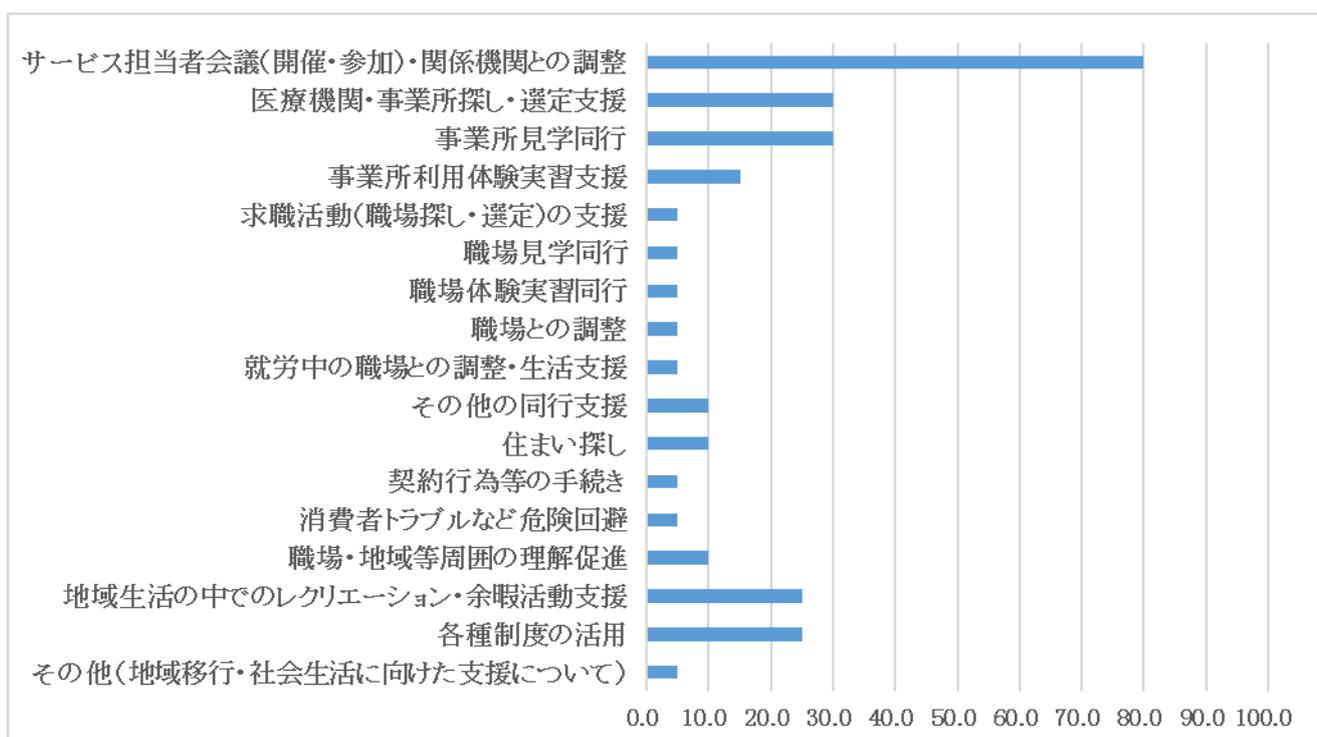


図 74 発達障害者の地域移行・社会生活に向けた支援の実施率(単位:%)

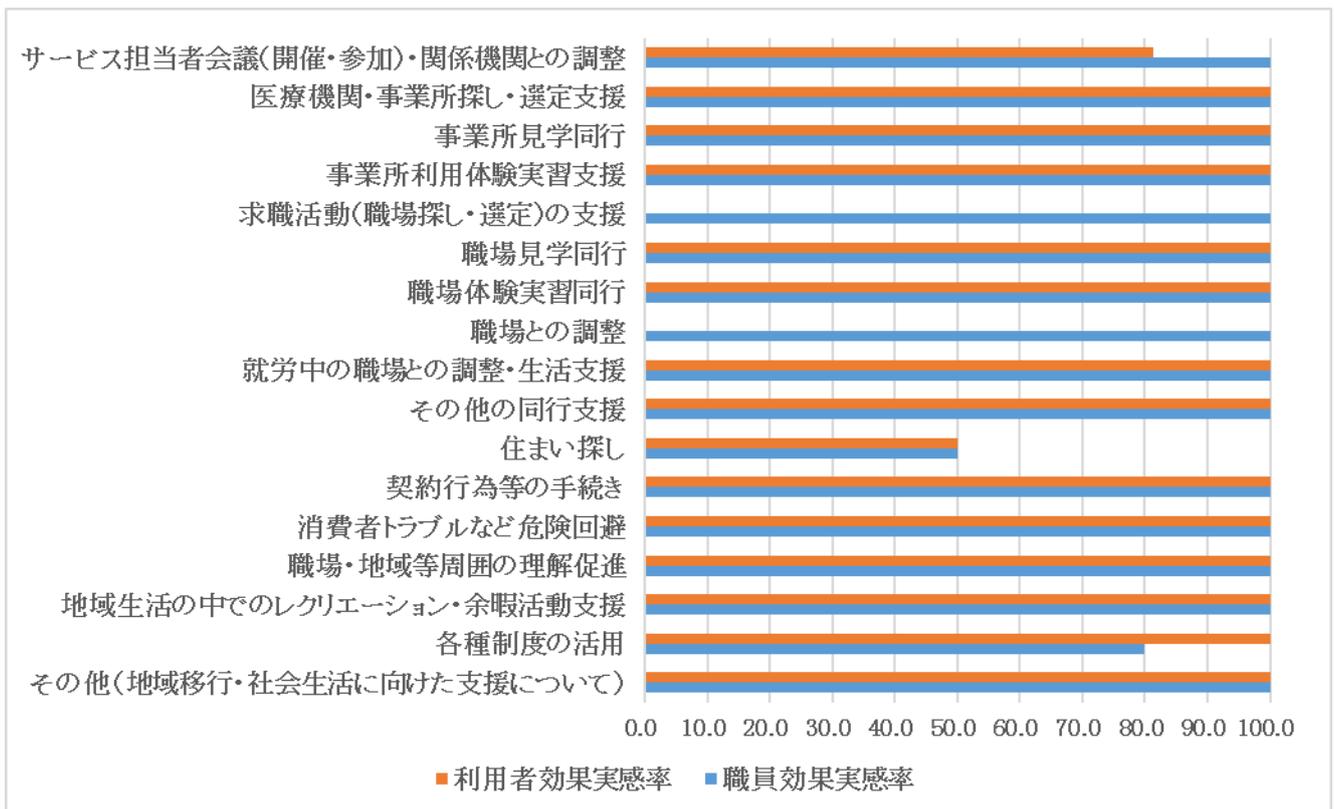


図 75 発達障害者の地域移行・社会生活に向けた支援の効果実感率(単位:%)

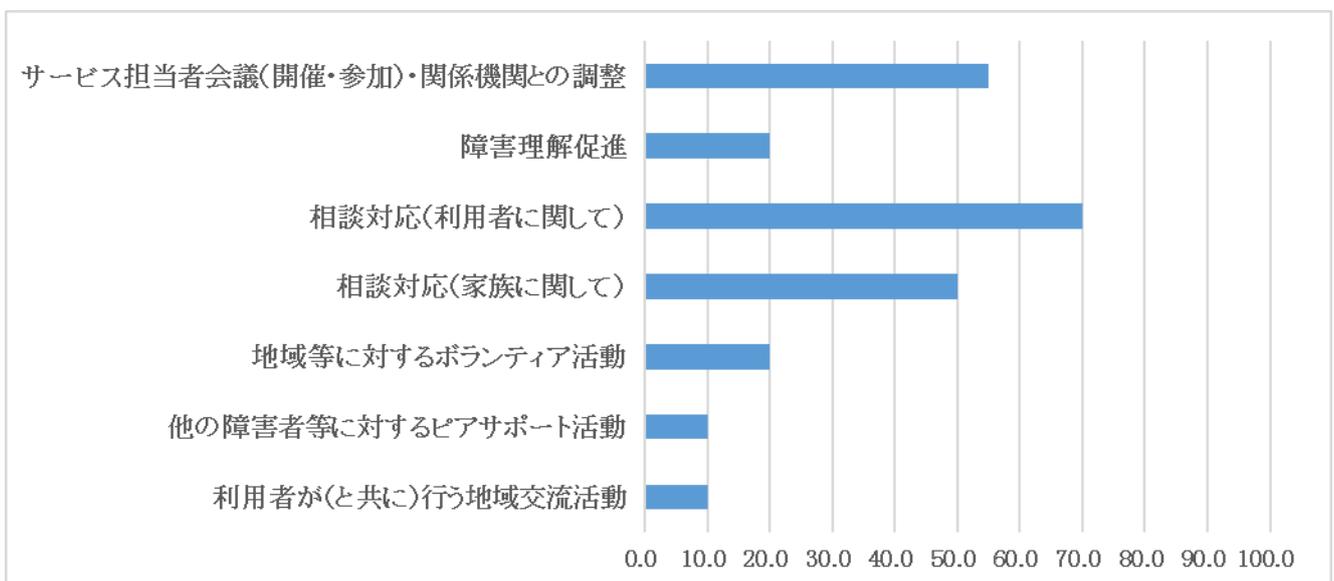


図 76 発達障害者の家族支援および地域貢献活動の実施率(単位:%)

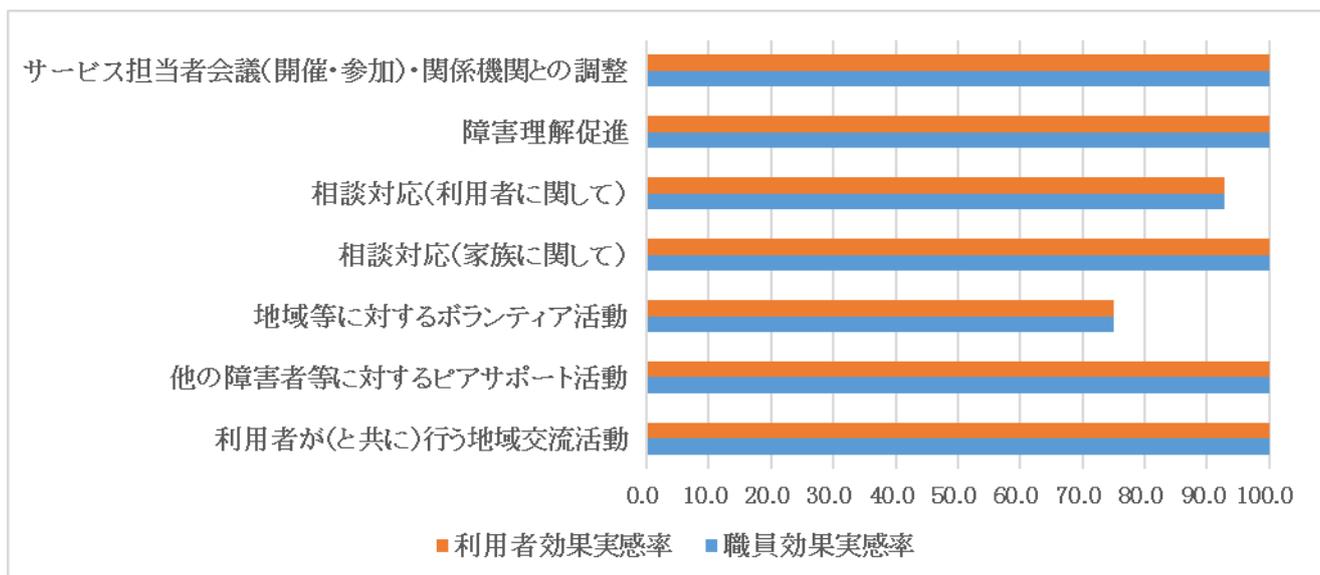


図 77 発達障害者の家族支援および地域貢献活動の効果実感率(単位:%)

(6) 高次脳機能障害

1) 機能維持・向上訓練および ADL 訓練

ア 実施率

高次脳機能障害者の機能維持・向上訓練および ADL 訓練の実施率を表したのが図 78 である。実施率が最も高かったのは高次脳機能・認知訓練の 83.3%で、以下代替え手段の活用(66.7%)、身体機能の維持・向上訓練(64.3%)、記憶・情緒の安定(54.8%)の順に高くなっていた。

イ 効果実感率(職員・利用者)

高次脳機能障害者の機能維持・向上訓練および ADL 訓練の効果実感率を表したのが図 79 である。利用者・職員ともに効果実感率が 75%を超えていたのは、身体機能の維持・向上訓練、言語訓練、移乗であった。

2) IADL/社会生活力訓練

ア 実施率

高次脳機能障害者の IADL/社会生活力訓練の実施率を表したのが図 80 である。実施率が高い順に、障害の理解(81.0%)、コミュニケーション(61.9%)、食生活・栄養管理(57.1%)、疾病・健康管理(54.8%)、自己理解(52.4%)となっていた。

イ 効果実感率(職員・利用者)

高次脳機能障害者の IADL/社会生活力訓練の効果実感率を表したのが図 81 である。利用者・職員ともに効果実感率がともに 75%を超えていたのは、電

話の使用、洗濯、自己理解、障害の理解、就労生活、自動車利用・運転、社会保障制度活用支援、障害福祉制度・サービスであった。

3) 一般就労に向けた訓練およびその他の訓練

ア 実施率

高次脳機能障害者の一般就労に向けた訓練およびその他の訓練の実施率を表したのが図 82 である。実施率が 50%を超えていたのは、職業前訓練、スポーツ活動、PC などの ICT 活用となっていた。

イ 効果実感率(職員・利用者)

高次脳機能障害者の一般就労に向けた訓練およびその他の訓練の効果実感率を表したのが図 83 である。利用者・職員ともに効果実感率が 75%を超えていたのは、職業前訓練、職業訓練・復職訓練、就職活動支援、職場実習支援であった。

4) 地域移行・社会生活に向けた支援

ア 実施率

高次脳機能障害者の地域移行・社会生活に向けた支援の実施率を表したのが図 84 である。実施率が 50%を超えていたのは、サービス担当者会議(開催・参加)・関係機関との調整(78.6%)のみであった。

イ 効果実感率(職員・利用者)

高次脳機能障害者の地域移行・社会生活に向けた支援の実施率を表したのが図 85 である。利用者・職員ともに効果実感率が 75%を超えていたのは、

サービス担当者会議(開催・参加)・関係機関との連携、事業所見学同行、事業所利用体験実習支援、求職活動(職場探し・選定)の支援、職場見学同行、職場体験実習同行、職場との調整、就労中の職場との調整・生活支援、職場・地域等周囲の理解促進、各種制度の活用であった。

5) 家族支援

ア 実施率

高次脳機能障害者の家族支援の実施率を表した

のが図 86 である。実施率が最も高かったのは、相談対応(利用者に対して)(71.4%)であった。その他も50%を超えていた。

イ 効果実感率(職員・利用者)

高次脳機能障害者の家族支援の効果実感率を表したのが図 87 である。相談対応(家族に関して)以外は、利用者・職員ともに効果実感率が75%を超えていた。

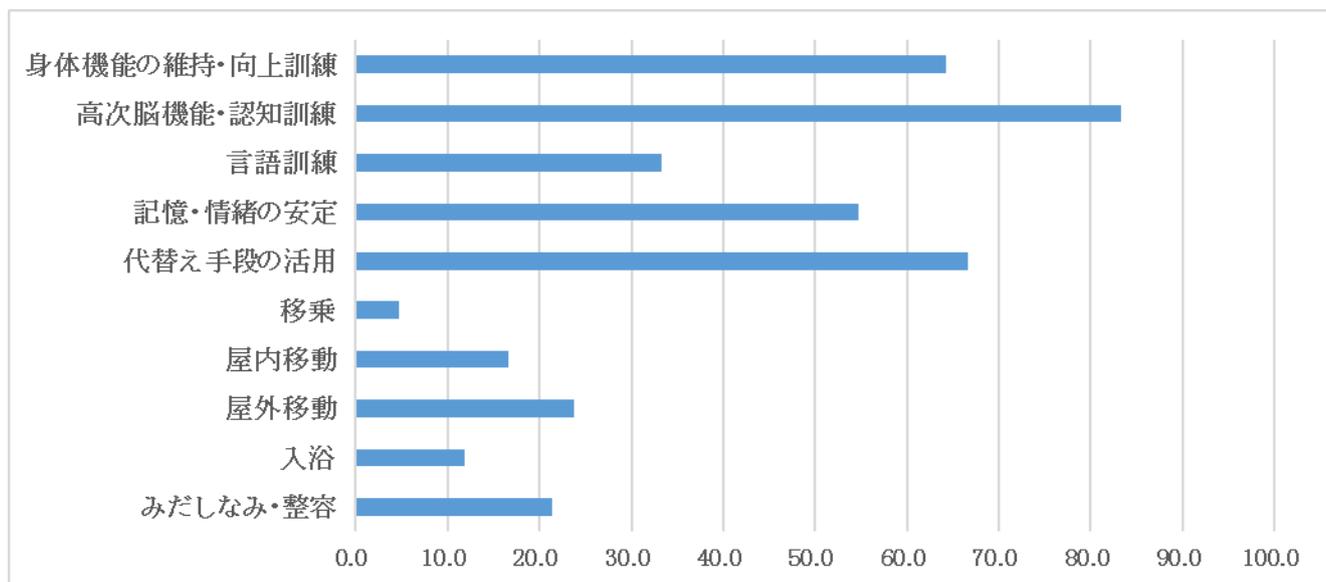


図 78 高次脳機能障害者の機能維持・向上訓練および ADL 訓練の実施率(単位:%)

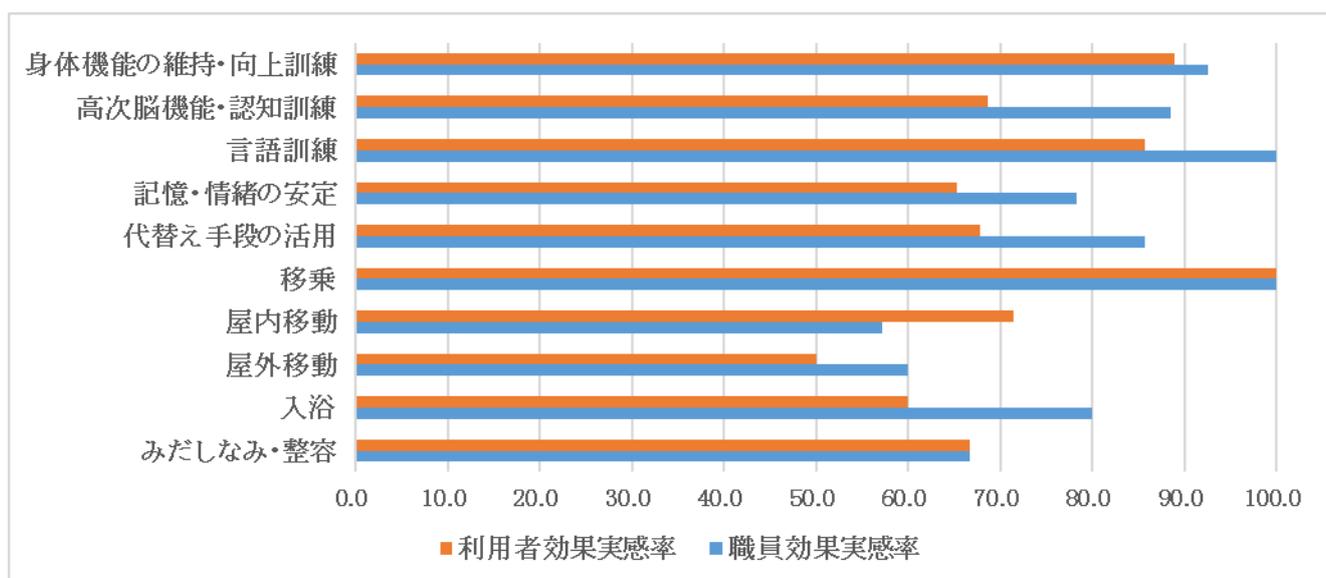


図 79 高次脳機能障害者の機能維持・向上訓練および ADL 訓練の効果実感率(単位:%)

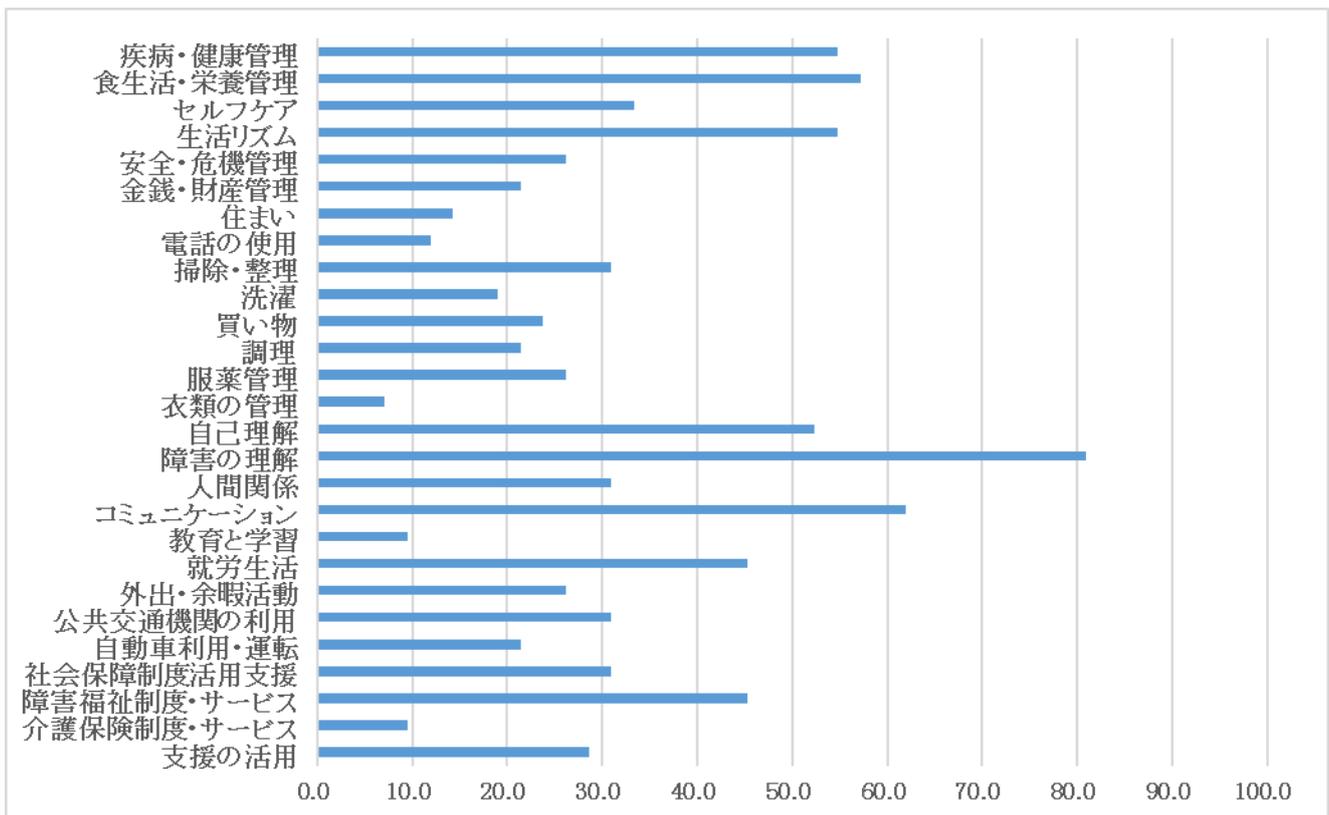


図 80 高次脳機能障害者の IADL/社会生活力訓練の実施率(単位:%)

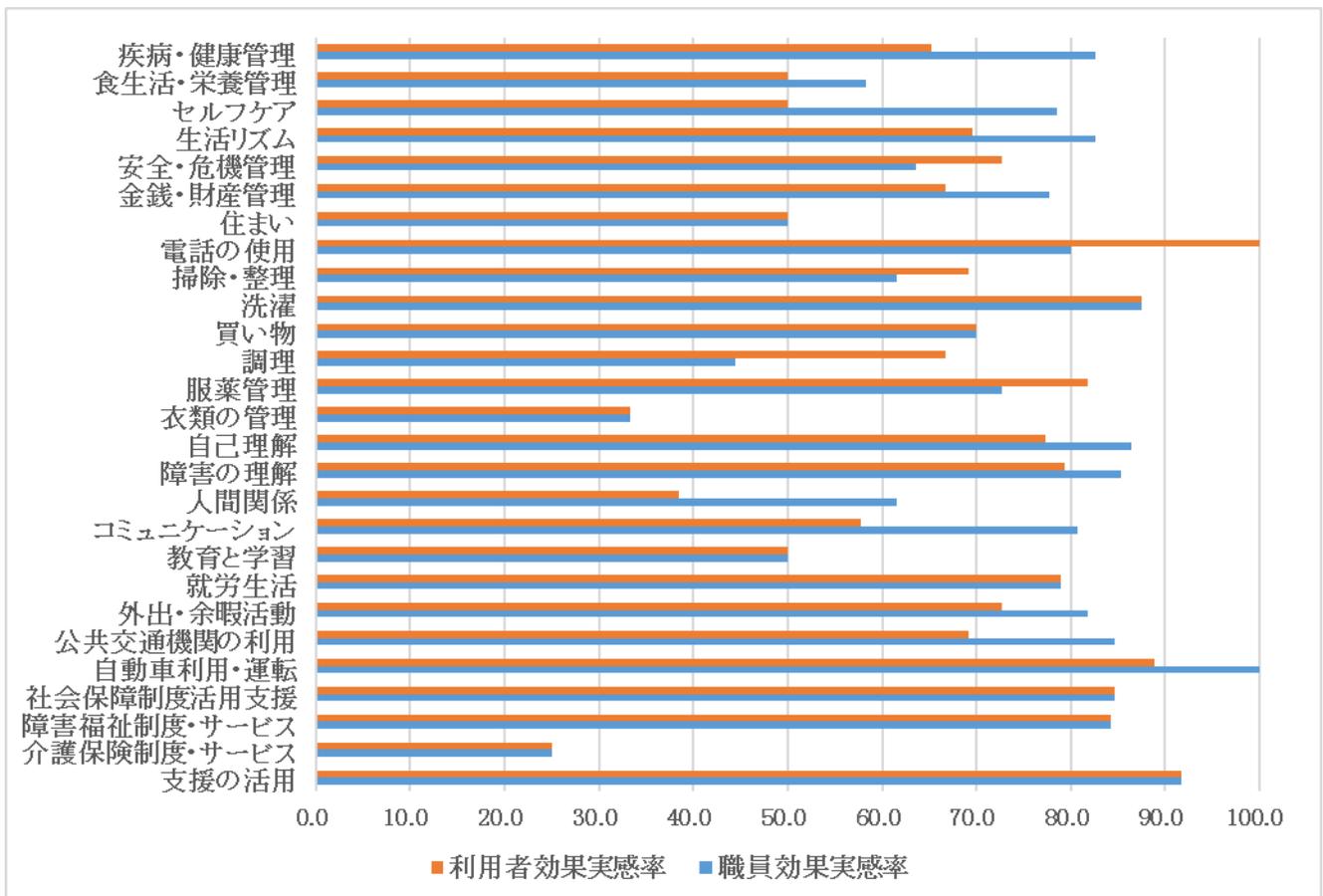


図 81 高次脳機能障害者の IADL/社会生活力訓練の効果実感率(単位:%)

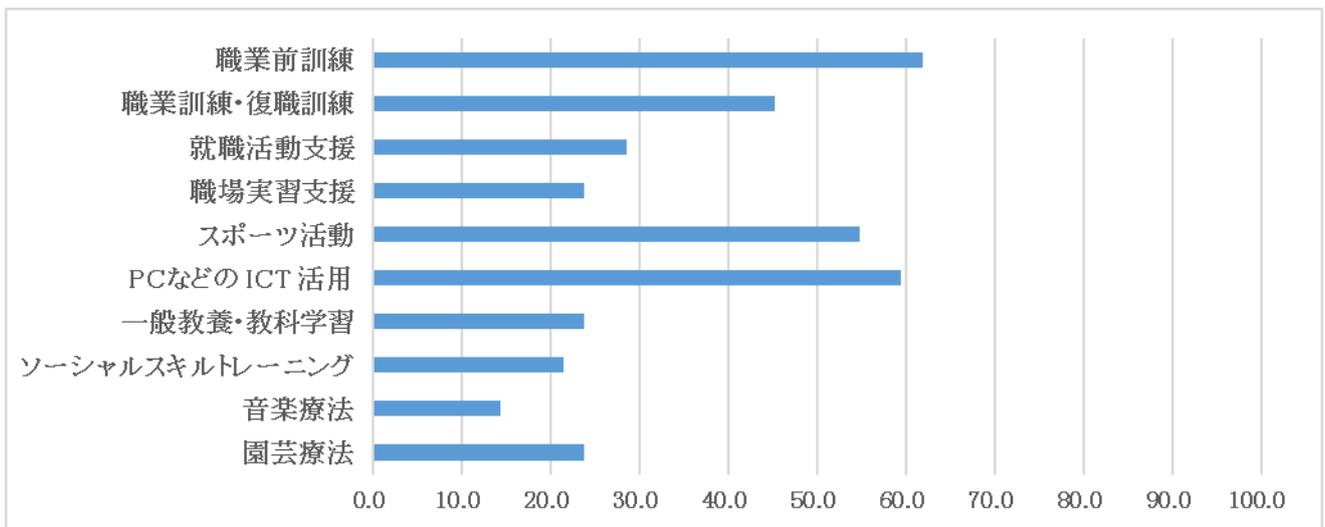


図 82 高次脳機能障害者の一般就労に向けた訓練およびその他の訓練の実施率(単位:%)

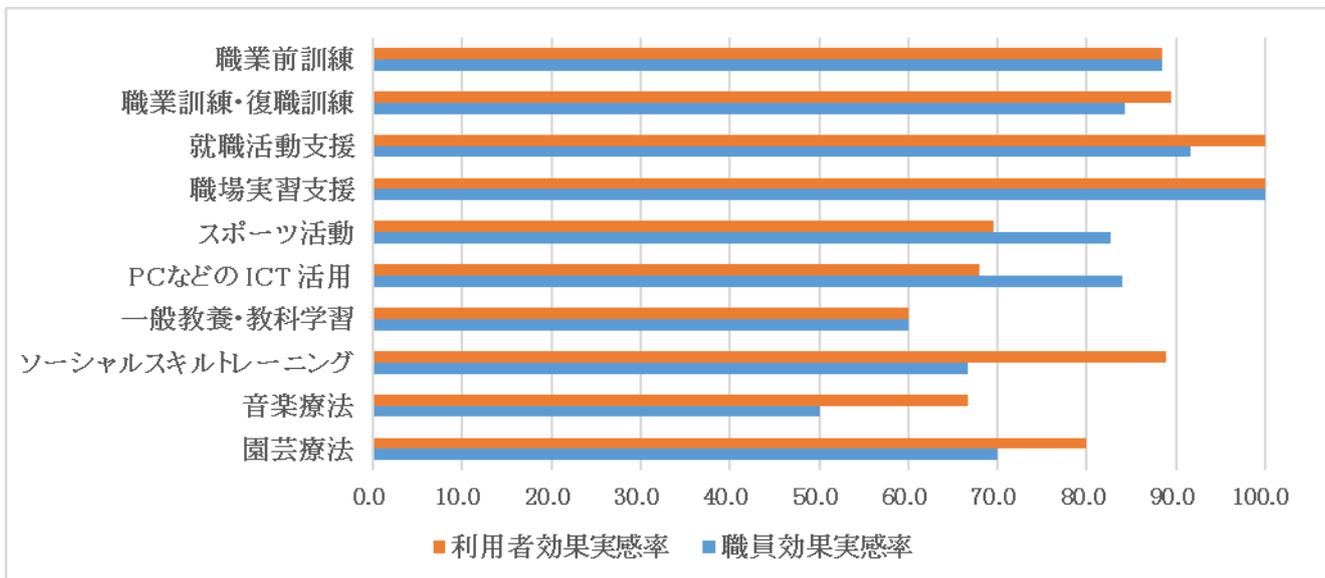


図 83 高次脳機能障害者の一般就労に向けた訓練およびその他の訓練の効果実感率(単位:%)

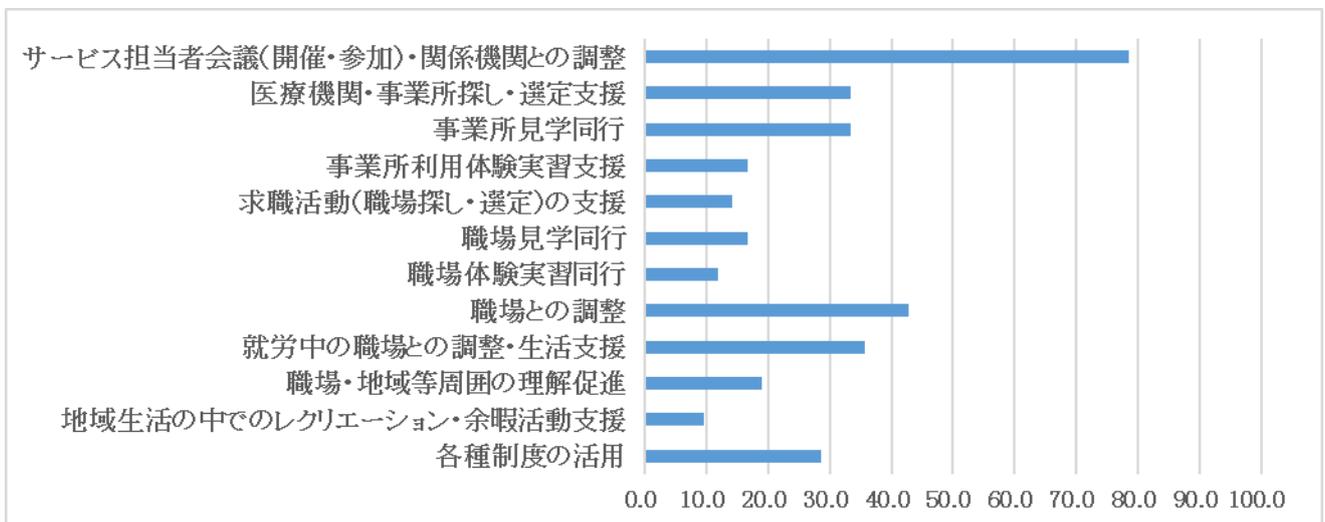


図 84 高次脳機能障害者の地域移行・社会生活に向けた支援の実施率(単位:%)

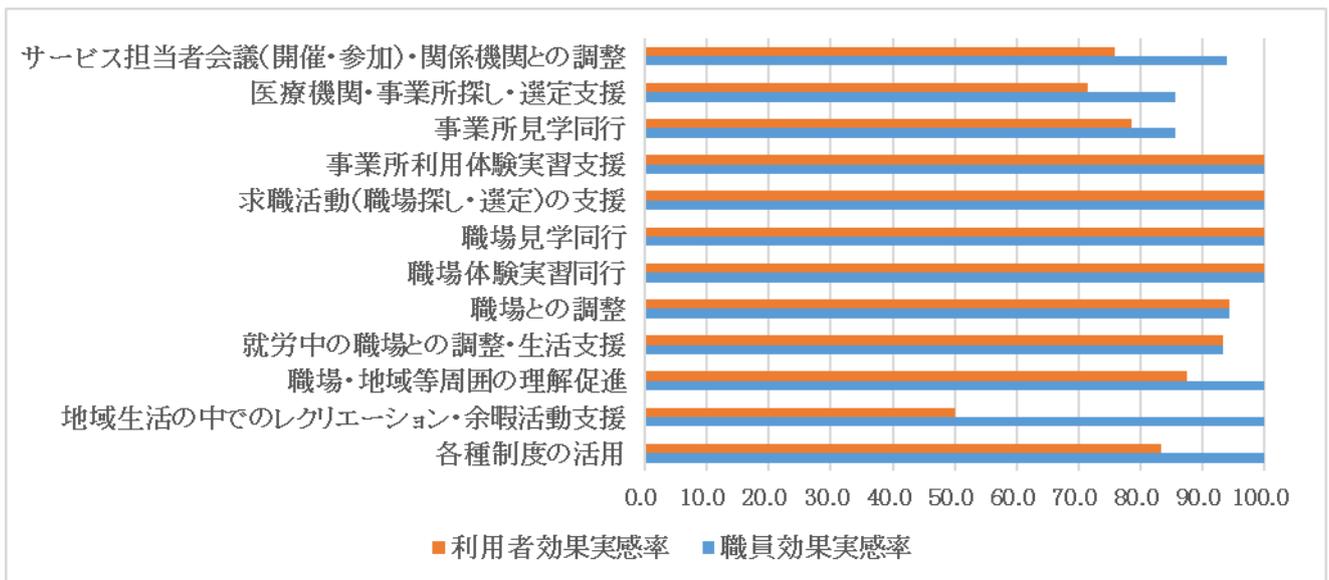


図 85 高次脳機能障害者の地域移行・社会生活に向けた支援の効果実感率(単位:%)

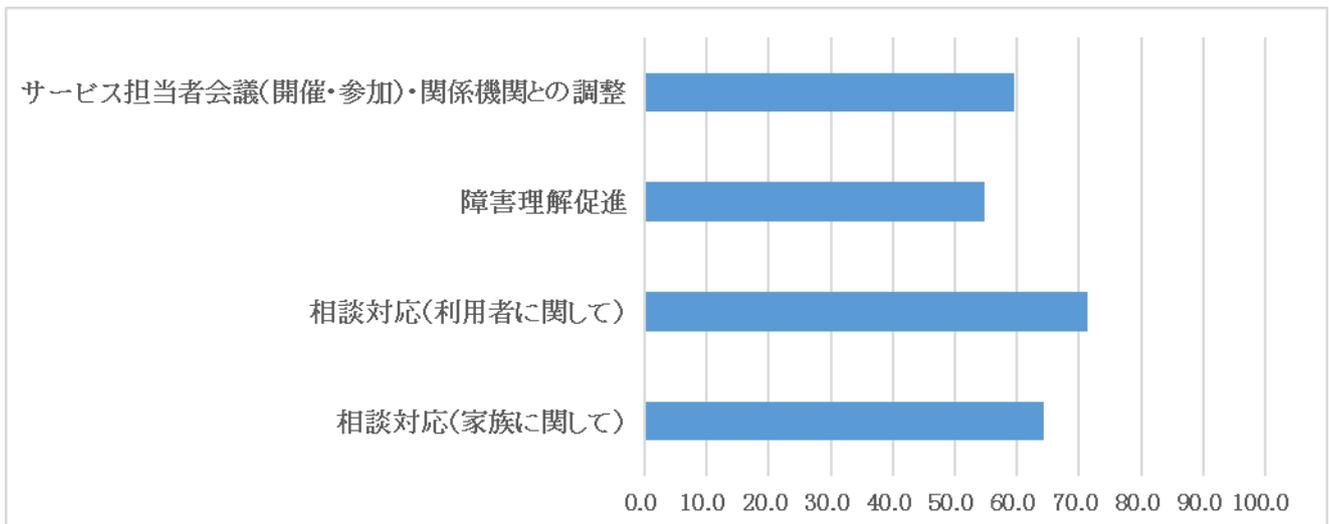


図 86 高次脳機能障害者の家族支援の実施率(単位:%)

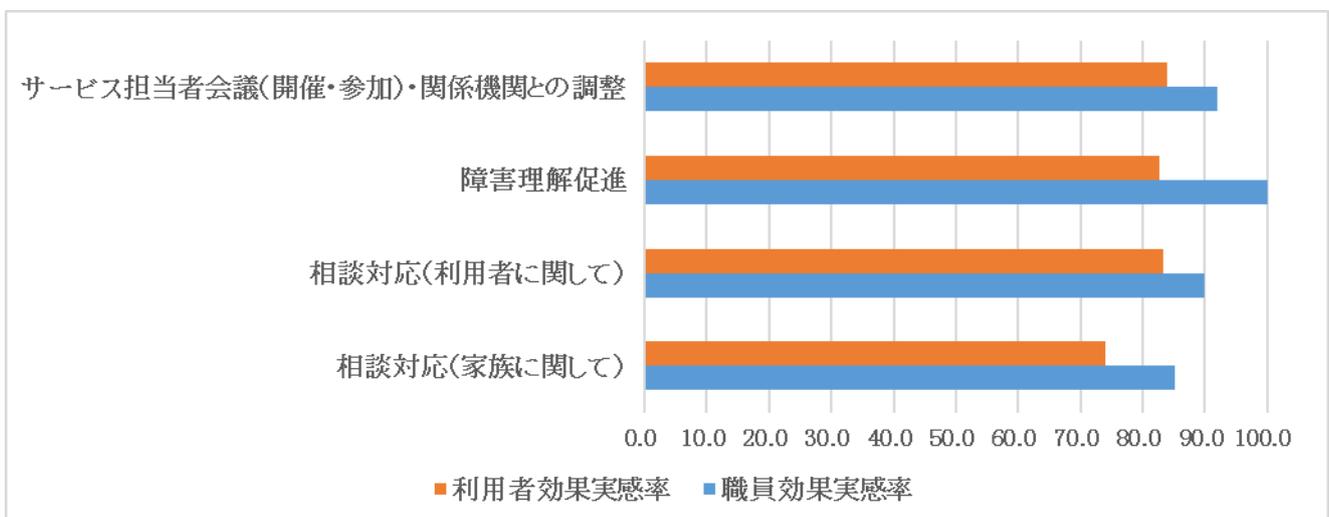


図 87 高次脳機能障害者の家族支援の効果実感率(単位:%)

(7) 実施率と効果実感率

肢体不自由(脳血管)、視覚障害、知的障害、精神障害、発達障害、高次脳機能障害の障害種別ごとに、職員・利用者の効果実感率がともに75%を超えた支援プログラム等を実施率が高い順に並べたのが表23～表26である。

職員・利用者効果実感率が75%以上で、かつ実施率が50%を超えていた支援プログラム等の数は、肢体不自由(脳血管)で8、視覚障害で7、知的障害で0、精神障害で2、発達障害で10、高次脳機能障害で8と、障害種別によってばらつきがあった。また、効果実感率・実施率がいずれも高い支援プログラム等の数が多い障害でも今回提示した支援プログラム等の全体数の10%弱であった。一方で、実施率50%未満だが、職員・利用者効果実感率が高い支援プログラム等は多くあり、同じ障害種別であっても、障害状況や背景、目標などに応じて、個別性が高く、効果的な支援プログラム等が組み立てられていることがうかがえた。以下支援プログラム種別ごとと障害種別ごとの特徴について記載する。

1) 支援プログラム種別ごとの特徴

ア 機能維持・向上訓練

身体機能の維持・向上が、肢体不自由(脳血管)と高次脳機能障害で実施率・効果実感率ともに高くなっていた。それ以外は実施率は低いが、効果実感率が高いものが多く、「摂食・嚥下訓練」や「言語訓練」、「記憶・情緒の安定」、「代替え手段の活用」など、個別の障害状況に応じて必要な支援プログラム等が組み込まれている様子が見えられた。

イ ADL 訓練

実施率・効果実感率ともに高いのは、肢体不自由(脳血管)の「屋内移動」、「屋外移動」と視覚障害の「白杖操作」、「点字訓練」のみとなっていた。4つの障害種別で効果実感率が高かったのが、「食事」と「入浴」、3つの障害種別で効果実感率が高くなっていたのが「みだしなみ・整容」、「屋内移動」であった。

ウ IADL/社会生活力訓練

設問数も32と最も多いため、表23～表26で掲

載された支援プログラム等も最も多くなっていた。5つの障害種別で効果実感率が高くなっていたのが、「支援の活用」、「その他」であった。4つの障害種別で効果実感率が高くなっていたのが「住まい」、「電話の使用」、「洗濯」、「服薬管理」、「外出・余暇活動」、「自動車利用・運転」、「社会保障制度活用」であった。3つの障害種別で効果実感率が高くなっていたのが「金銭・財産管理」、「掃除・整理」、「自己理解」、「障害の理解」、「就労生活」、「公共交通機関の利用」、「地域生活・参加」、「障害福祉制度・サービス」となっていた。

エ 一般就労に向けた訓練

実施率・効果実感率ともに高いのは、高次脳機能障害の「職業前訓練」のみとなっていた。ただ、効果実感率では、「職場実習支援」が5つの障害種別で、「職業前訓練」と「職業訓練・復職訓練」が4つの障害種別で、「就職活動支援」と「資格取得のための訓練」が3つの障害種別で高くなっており、利用時の就労状況によって必要な訓練が実施されており、利用者も効果を感じている状況が見えられた。

オ その他の訓練

実施率・効果実感率ともに高いのは、肢体不自由(脳血管)と視覚障害の「PCなどICT訓練」であった。4つの障害種別で効果実感率が高くなっていたのが「模擬生活訓練」、「その他」であった。3つの障害種別で効果実感率が高くなっていたのが「PCなどのICT訓練」、「家庭学習」、「スポーツ活動」であった。

カ 地域移行・社会生活に向けた支援

設問数は18と、2番目に多いことに加え、地域生活に直結する支援プログラム等が多く含まれるため、IADL/社会生活力訓練に匹敵する数の支援プログラム等の効果実感率が高くなっていた。

「サービス担当者会議(参加・開催)・関係機関との連携」が視覚障害、発達障害、高次脳機能障害で実施率・効果実感率ともに高くなっていた。

実施率は高くないが、すべての障害種別で効果実感率が高くなっていたのが、「事業所見学同行」、「事業所利用体験実習支援」であった。5つの障害

種別で効果実感率が高くなっていたのが、「医療機関・事業所探し・選定支援」、「職場体験実習同行」、「就労中の職場との調整・生活支援」、「住まい探し」、「地域生活の中でのレクリエーション・余暇活動支援」であった。4つの障害種別で効果実感率が高くなっていたのが、「職場見学同行」、「職場との調整」、「その他の同行支援」、「契約行為等の手続き」であった。

この支援プログラム種別も利用者の状況・目標に合わせて必要な支援が実施され、利用者も効果を実感している状況がうかがえた。

キ 家族支援

発達障害・高次脳機能障害において、実施率・効果実感率がともに高くなっている支援プログラム等が3つずつと多くなっていた。4つの障害種別で効果実感率が高くなっていたのが、「サービス担当者会議(参加・開催)・関係機関との連携」と「障害理解促進」であった。3つの障害種別で効果実感率が高くなっていたのが、「相談支援(利用者に関して)」であった。

ク 地域貢献活動

どの障害種別においても、実施率・効果実感率がともに高い支援プログラム等はなかった。3つの障害種別で効果実感率が高くなっていたのが、「地域等に対するボランティア活動」であった。

2) 障害種別ごとの特徴

表23～表26のなかで、2つ以下の障害種別にしか入っていなかった支援プログラム等を、今回の調査におけるその障害特有の支援プログラム等(候補)と考え、以下にあげる。支援プログラム等の後に(*)がついているものはその障害種別のなかで実施率が10%未満であったもの。

ア 肢体不自由(脳血管)

機能維持・向上訓練:利き手交換訓練

ADL訓練:屋外移動、起居訓練、車いす操作

IADL/社会生活力訓練:買い物、調理

イ 視覚障害

ADL訓練:白杖操作、点字、屋外移動

IADL/社会生活力訓練:食生活・栄養管理、買い

物、調理、その他家事、衣類の管理、人間関係(*)、教育と学習(*)、権利の行使と擁護(*)

その他の訓練:一般教養・教科学習、園芸療法(*)

地域移行・社会生活に向けた支援:住環境面の改善

家族支援:相談対応(家族に関して)(*)

ウ 知的障害

機能維持・向上訓練:摂食・嚥下訓練(*)

その他の訓練:アニマルセラピー(*)

地域貢献活動:利用者が(と共に)行う地域づくり活動(*)

エ 精神障害

ADL訓練:転倒訓練(*)

IADL/社会生活力訓練:生活リズム

地域移行・社会生活に向けた支援:住環境面の改善(*)

地域貢献活動:他の障害者等に対するピアサポート活動(*)

オ 発達障害

機能維持・向上訓練:記憶・情緒の安定、高次脳機能・認知訓練

IADL/社会生活力訓練:疾病・健康管理、セルフケア、生活リズム、安全・危機管理、人間関係

その他の訓練:ソーシャルスキルトレーニング、消費者トラブルなどの危険回避(*)

家族支援:相談対応(家族に関して)

地域貢献活動:他の障害者等に対するピアサポート活動、利用者が(と共に)行う地域づくり活動

カ 高次脳機能障害

ADL訓練:移乗(*)

(8) 支援プログラム等の実施形式・総回数・評価指標の有無の状況

表23～26であげた支援プログラム等について、障害種別ごとに最も割合が高かった実施形式、総回数、評価指標の有無をまとめたのが表27～表33である。

実施形式では、個別で実施されている支援プログラム等が非常に多くなっていたが、知的障害、発達

障害では集団形式が最も実施率が高かった支援プログラム等も多くあった。また、形式ごとの実施割合は支援プログラム等ごとにばらつきがあり、支援プログラム等の内容によって、個別と集団形式を併用されていたり、個別で実施している事業所と集団で実施している事業所に分かれているものもあった。

総回数では、「訓練」に関するものは実施回数が50回以上(週3~5日実施)のものが多く、「支援」に関するものは5回未満(利用期間中に数回)のものが多くなっていた。

支援プログラム等の評価指標は、過半数を超える事業所があると回答した支援プログラム等は多くなかったが、評価指標があると回答した事業所が0という支援プログラム等も同様に少なかった。

表 23 職員・利用者効果実感率がともに 75%以上の支援プログラム等(訓練) 表中()内は実施率

プログラム種別	実施率	肢体不自由(脳血管)	視覚障害	知的障害
機能維持・向上訓練	50%以上	身体機能の維持・向上(94.2%)		
	50%未満	利き手交換訓練(19.2%)	代替え手段の活用(26.7%) 身体機能の維持・向上(13.3%)	*摂食・嚥下訓練(2.6%) *代替え手段の活用(2.6%) *言語訓練(1.3%)
ADL訓練	50%以上	屋内移動(71.2%) 屋外移動(73.1%)	白杖操作(86.7%) 点字(80.0%)	
	50%未満	入浴(46.2%) みだしなみ・整容(38.5%) 起居訓練(32.7%) 車いす操作(32.7%) *食事(7.7%)	屋内移動(40.0%) 屋外移動(33.3%) *食事(6.7%) *入浴(6.7%) *みだしなみ・整容(6.7%)	*屋内移動(2.6%)
IADL・ 社会生活力訓練	50%以上	服薬管理(50.0%) 公共交通機関の利用(50.0%)	電話の使用(53.3%) 調理(53.3%) 公共交通機関の利用(53.3%)	
	50%未満	掃除・整理(46.2%) 洗濯(44.2%) 外出・余暇活動(42.3%) 調理(40.4%) 買い物(34.6%) 就労生活(30.8%) 支援の活用(28.8%) 社会保障制度活用支援(26.9%) 金銭・財産管理(25.0%) 住まい(19.2%) *その他家事(9.6%)	買い物(46.7%) 金銭・財産管理(40.0%) 障害福祉制度・サービス(40.0%) 掃除・整理(33.3%) 外出・余暇活動(33.3%) 支援の活用(33.3%) 食生活・栄養管理(26.7%) 衣類の管理(26.7%) 障害の理解(26.7%) 住まい(20.0%) 洗濯(20.0%) その他家事(20.0%) 服薬管理(20.0%) 社会保障制度活用支援(13.3%) *自己理解(6.7%) *人間関係(6.7%) *教育と学習(6.7%) *就労生活(6.7%) *地域生活・参加(6.7%) *権利の行使と擁護(6.7%)	外出・余暇活動(43.6%) 服薬管理(17.9%) *社会保障制度活用支援(5.1%) *自動車利用・運転(1.3%)
一般就労に 向けた訓練	50%以上			
	50%未満	職業前訓練(42.3%) *就職活動支援(9.6%) *職場実習支援(9.6%) *資格取得のための訓練(9.6%) *その他(9.6%)	職業前訓練(13.3%) *職業訓練・復職訓練(6.7%) *資格取得のための訓練(6.7%) *その他(6.7%)	職場実習支援(9.0%) *その他(3.8%) *資格取得のための訓練(2.6%)
その他の訓練	50%以上	PCなどのICT訓練(63.5%)	PCなどのICT活用(93.3%)	
	50%未満	*模擬生活訓練(3.8%) *その他(その他の訓練)(3.8%) *家庭学習(1.9%)	スポーツ活動(33.3%) 一般教養・教科学習(13.3%) その他(その他の訓練)(13.3%) *園芸療法(6.7%)	スポーツ活動(42.3%) *模擬生活訓練(5.1%) *その他(2.6%) *アニマルセラピー(1.3%)

※表中*は実施率 10%未満の支援プログラム等

表 24 職員・利用者効果実感率がともに 75%以上の支援プログラム等(訓練) 表中()内は実施率

プログラム種別	実施率	精神障害	発達障害	高次脳機能障害
機能維持・向上訓練	50%以上			身体機能の維持・向上訓練(64.3%)
	50%未満		記憶・情緒の安定(25.0%) 高次脳機能・認知訓練(10.0%) *言語訓練(5.0%) *代替え手段の活用(5.0%) *その他(5.0%)	言語訓練(33.3%)
ADL訓練	50%以上			
	50%未満	入浴(12.1%) *食事(9.9%) *転倒訓練(1.1%)	みだしなみ・整容(20.0%) *食事(5.0%) *入浴(5.0%)	*移乗(4.8%)
IADL・社会生活力訓練	50%以上	生活リズム(74.7%)	生活リズム(95.0%)	障害の理解(81.0%)
		服薬管理(56.0%)	自己理解(75.0%)	自己理解(52.4%)
			障害の理解(60.0%)	
			疾病・健康管理(55.0%)	
			掃除・整理(55.0%)	
	50%未満		人間関係(50.0%)	
		支援の活用(49.5%)	セルフケア(45.0%)	就労生活(45.2%)
		住まい(27.5%)	安全・危機管理(45.0%)	障害福祉制度・サービス(45.2%)
		電話の使用(25.3%)	金銭・財産管理(45.0%)	社会保障制度活用支援(31.0%)
		地域生活・参加(24.2%)	支援の活用(40.0%)	支援の活用(28.6%)
	*自動車利用・運転(8.8%)	障害福祉制度・サービス(35.0%)	自動車利用・運転(21.4%)	
		住まい(30.0%)	洗濯(19.0%)	
		外出・余暇活動(30.0%)	電話の使用(11.9%)	
		洗濯(25.0%)	*その他(7.1%)	
		電話の使用(20.0%)	*地域生活・参加(4.8%)	
		公共交通機関の利用(20.0%)		
		自動車利用・運転(10.0%)		
一般就労に向けた訓練	50%以上			職業前訓練(61.9%)
	50%未満	職業訓練・復職訓練(17.6%)	職業前訓練(40.0%)	職業訓練・復職訓練(45.2%)
		就職活動支援(13.2%) *職場実習支援(9.9%) *その他(5.5%)	職業訓練・復職訓練(10.0%) *職場実習支援(5.0%)	就職活動支援(28.6%) 職場実習支援(23.8%) *その他(9.5%)
その他の訓練	50%以上			
	50%未満	PCなどの ICT 活用(29.7%)	スポーツ活動(40.0%)	*家庭学習(4.8%)
		*その他(その他の訓練)(5.5%)	ソーシャルスキルトレーニング(40.0%)	*模擬生活訓練(2.4%)
			模擬生活訓練(10.0%) *家庭学習(5.0%) *その他(5.0%)	

※表中*は実施率 10%未満の支援プログラム等

表 25 職員・利用者効果実感率がともに 75%以上の支援プログラム等(支援) 表中()内は実施率

プログラム種別	実施率	肢体不自由(脳血管)	視覚障害	知的障害
地域移行・社会生活に向けた支援	50%以上	医療機関・事業所探し・選定支援(51.9%)	サービス担当者会議(開催・参加)・関係機関との調整(60.0%)	
	50%未満	事業所見学同行(46.2%)	事業所見学同行(33.3%)	事業所見学同行(28.2%)
		事業所利用体験実習支援(21.2%)	地域生活の中でのレクリエーション・余暇活動支援(33.3%)	地域生活の中でのレクリエーション・余暇活動支援(26.9%)
		*地域生活の中でのレクリエーション・余暇活動支援(7.7%)	各種制度の活用(33.3%)	事業所利用体験実習支援(24.4%)
		*住まい探し(5.8%)	医療機関・事業所探し・選定支援(20.0%)	医療機関・事業所探し・選定支援(23.1%)
		*その他の同行支援(3.8%)	住環境面の改善(13.3%)	契約行為等の手続き(16.7%)
		*職場体験実習同行(1.9%)	事業所利用体験実習支援(13.3%)	職場見学同行(12.8%)
			職場との調整(13.3%)	職場体験実習同行(12.8%)
			職場・地域等周囲の理解促進(13.3%)	職場との調整(11.5%)
			*求職活動(職場探し・選定)の支援(6.7%)	*就労中の職場との調整・生活支援(6.4%)
	*就労中の職場との調整・生活支援(6.7%)	*その他の同行支援(6.4%)		
	*住まい探し(6.7%)	*住まい探し(3.8%)		
家族支援	50%以上	サービス担当者会議(開催・参加)・関係機関との調整(53.8%)		
	50%未満	障害理解促進(30.8%)	*サービス担当者会議(開催・参加)・関係機関との調整(6.7%)	相談対応(利用者に関して)(47.4%)
			*障害理解促進(6.7%)	
		*相談対応(家族に関して)(6.7%)		
地域貢献活動	50%以上			
	50%未満	*地域等に対するボランティア活動(1.9%)		地域等に対するボランティア活動(11.5%)
				*利用者が(と共に)行う地域づくり活動(2.6%)

※表中*は実施率 10%未満の支援プログラム等

表 26 職員・利用者効果実感率がともに 75%以上の支援プログラム等(支援) 表中()内は実施率

プログラム種別	実施率	精神障害	発達障害	高次脳機能障害
地域移行・社会生活に向けた支援	50%以上		サービス担当者会議(開催・参加)・関係機関との調整(80.0%)	サービス担当者会議(開催・参加)・関係機関との調整(78.6%)
	50%未満	事業所見学同行(44.0%)	医療機関・事業所探し・選定支援(30.0%)	職場との調整(42.9%)
		医療機関・事業所探し・選定支援(40.7%)	事業所見学同行(30.0%)	就労中の職場との調整・生活支援(35.7%)
		事業所利用体験実習支援(29.7%)	地域生活の中でのレクリエーション・余暇活動支援(25.0%)	事業所見学同行(33.3%)
		その他の同行支援(26.4%)	各種制度の活用(25.0%)	各種制度の活用(28.6%)
		地域生活の中でのレクリエーション・余暇活動支援(26.4%)	事業所利用体験実習支援(15.0%)	職場・地域等周囲の理解促進(19.0%)
		契約行為等の手続き(24.2%)	その他の同行支援(10.0%)	事業所利用体験実習支援(16.7%)
		職場との調整(18.7%)	職場・地域等周囲の理解促進(10.0%)	職場見学同行(16.7%)
		住まい探し(17.6%)	*職場見学同行(5.0%)	求職活動(職場探し・選定)の支援(14.3%)
		就労中の職場との調整・生活支援(16.5%)	*職場体験実習同行(5.0%)	職場体験実習同行(11.9%)
		求職活動(職場探し・選定)の支援(13.2%)	*就労中の職場との調整・生活支援(5.0%)	*住まい探し(4.8%)
		職場見学同行(12.1%)	*契約行為等の手続き(5.0%)	*契約行為等の手続き(2.4%)
		*職場体験実習同行(9.9%)	*消費者トラブルなど危険回避(5.0%)	
*住環境面の改善(3.3%)	*その他(5.0%)			
家族支援	50%以上		相談対応(利用者に関して)(70.0%)	相談対応(利用者に関して)(71.4%)
			サービス担当者会議(開催・参加)・関係機関との調整(55.0%)	サービス担当者会議(開催・参加)・関係機関との調整(59.5%)
			相談対応(家族に関して)(50.0%)	障害理解促進(54.8%)
	50%未満		障害理解促進(20.0%)	
地域貢献活動	50%以上			
	50%未満	*他の障害者等に対するピアサポート活動(8.8%)	地域等に対するボランティア活動(20.0%)	
			他の障害者等に対するピアサポート活動(10.0%)	
		利用者が(と共に)行う地域交流活動(10.0%)		

※表中*は実施率 10%未満の支援プログラム等

表 27 肢体不自由者(脳血管障害)の支援プログラム等実施形式・総回数・評価指標の有無の状況

プログラム種別	プログラム名	実施形式	総回数	評価指標有
機能維持・向上訓練	身体機能の維持・向上(94.2%)	個別(32件,65.3%)	101回以上(25件,51.0%)	43名,87.8%
	利き手交換訓練(19.2%)	個別(6件,60.0%)	51～100回(7件,70.0%)	7名,70.0%
ADL訓練	屋内移動(71.2%)	個別(33件,89.2%)	51～100回(18件,48.9%)	28件,75.7%
	屋外移動(73.1%)	個別(34件,89.5%)	51～100回(17件,44.7%)	27件,71.1%
	入浴(46.2%)	個別(20件,83.3%)	51～100回(11件,45.8%)	7件,29.2%
	みだしなみ・整容(38.5%)	個別(17件,85.0%)	5～10回(6件,30.0%)	2件,10.0%
	起居訓練(32.7%)	個別(15件,88.2%)	51～100回(7件,41.2%)	10件,58.8%
	車いす操作(32.7%)	個別(15件,88.2%)	51～100回(7件,41.2%)	7件,41.2%
	*食事(7.7%)	個別(3件,75.0%)	5～10回(2件,50.0%)	1件,25.0%
IADL・社会生活力訓練	服薬管理(50.0%)	個別(24件,92.3%)	11～50回(7件,34.6%)	8件,30.8%
	公共交通機関の利用(50.0%)	個別(25件,96.2%)	5回未満(14件,53.8%)	12件,46.2%
	掃除・整理(46.2%)	個別(21件,87.5%)	11～50回(7件,29.2%)	3件,12.5%
	洗濯(44.2%)	個別(20件,87.0%)	51～100回(7件,30.4%)	2件,8.7%
	外出・余暇活動(42.3%)	個別(18件,81.8%)	51～100回(8件,36.4%)	8件,36.4%
	調理(40.4%)	個別(15件,71.4%)	5回未満(11件,52.4%)	4件,19.0%
	買い物(34.6%)	個別(17件,94.4%)	5回未満(8件,44.4%)	3件,16.7%
	就労生活(30.8%)	個別(13件,81.3%)	11～50回(7件,43.8%)	1件,6.3%
	支援の活用(28.8%)	個別(12件,80.0%)	5回未満(8件,53.3%)	0件,0.0%
	社会保障制度活用支援(26.9%)	個別(11件,78.6%)	5回未満(6件,42.9%)	1件,7.1%
	金銭・財産管理(25.0%)	個別(10件,76.9%)	5回未満(6件,46.2%)	4件,30.8%
	住まい(19.2%)	個別(7件,70.0%)	5回未満・5～10回(4件,40.0%)	0件,0.0%
	*その他家事(9.6%)	個別(4件,80.0%)	11～50回(2件,40.0%)	1件,20.0%
一般就労に向けた訓練	職業前訓練(42.3%)	個別(15件,68.2%)	11～50回(8件,36.4%)	8件,36.4%
	*就職活動支援(9.6%)	個別(4件,80.0%)	11～50回・5回未満(2件,40.0%)	1件,20.0%
	*職場実習支援(9.6%)	個別(4件,80.0%)	5回未満(5件,100.0%)	0件,0.0%
	*資格取得のための訓練(9.6%)	個別(3件,60.0%)	5～10回・5回未満(1件,20.0%)	2件,40.0%
	*その他(9.6%)	個別(4件,80.0%)	5回未満(3件,60.0%)	1件,20.0%
その他の訓練	PCなどのICT訓練(63.5%)	個別(23件,69.7%)	51～100回(15件,45.5%)	11件,33.3%
	*模擬生活訓練(3.8%)	個別(2件,100.0%)	11～50回・5回未満(1件,50.0%)	0件,0.0%
	*その他(その他の訓練)(3.8%)	集団(2件,100.0%)	11～50回・5回未満(1件,50.0%)	0件,0.0%
	*家庭学習(1.9%)	個別・訪問(1件,100.0%)	11～50回(1件,100.0%)	0件,0.0%
地域移行・社会生活に向けた支援	医療機関・事業所探し・選定支援(51.9%)	個別(25件,92.6%)	5回未満(17件,63.0%)	2件,7.4%
	事業所見学同行(46.2%)	個別(23件,95.8%)	5回未満(21件,87.5%)	5件,20.8%
	事業所利用体験実習支援(21.2%)	個別(10件,90.9%)	5回未満(8件,72.7%)	1件,9.1%
	*地域生活の中でのレクリエーション・余暇活動支援(7.7%)	個別(3件,75.0%)	5回未満(3件,75.0%)	0件,0.0%
	*住まい探し(5.8%)	個別(3件,100.0%)	5回未満(2件,66.7%)	1件,33.3%
	*その他の同行支援(3.8%)	個別(2件,100.0%)	5回未満・5～10回(1件,50.0%)	0件,0.0%
	*職場体験実習同行(1.9%)	個別(1件,100.0%)	5回未満(1件,100.0%)	0件,0.0%
家族支援	サービス担当者会議(開催・参加・関係機関との調整)(53.8%)	個別(24件,85.7%)	5回未満(19件,67.9%)	4件,14.3%
	障害理解促進(30.8%)	個別(12件,75.0%)	5回未満(9件,56.3%)	3件,18.8%
地域貢献活動	*地域等に対するボランティア活動(1.9%)	集団(1件,100.0%)	5回未満(1件,100.0%)	0件,0.0%

表 28 視覚障害者の支援プログラム等実施形式・総回数・評価指標の有無の状況

プログラム種別	プログラム名	実施形式	総回数	評価指標有
機能維持・向上訓練	代替え手段の活用(26.7%)	個別(3件,75.0%)	101回以上(2件,50.0%)	2件,50.0%
	身体機能の維持・向上(13.3%)	個別(2件,100.0%)	101回以上(2件,100.0%)	2件,100.0%
ADL訓練	白杖操作(86.7%)	個別(11件,84.6%)	51～100回・11～50回(4件,30.8%)	10件,76.9%
	点字(80.0%)	個別(9件,75.0%)	51～100回(5件,41.7%)	8件,66.7%
	屋内移動(40.0%)	個別(5件,83.3%)	11～50回・5～10回(2件,33.3%)	6件,100.0%
	屋外移動(33.3%)	個別・訪問(4件,80.0%)	51～100回(3件,60.0%)	5件,100.0%
IADL・社会生活力訓練	電話の使用(53.3%)	個別(7件,87.5%)	51～100回・5～10回(3件,37.5%)	3件,37.5%
	調理(53.3%)	個別(5件,62.5%)	11～50回(4件,50.0%)	5件,62.5%
	公共交通機関の利用(53.3%)	個別(6件,75.0%)	5～10回(3件,37.5%)	4件,50.0%
	買い物(46.7%)	個別(5件,71.4%)	5～10回(3件,42.9%)	4件,57.1%
	金銭・財産管理(40.0%)	個別(4件,66.7%)	5回未満(3件,50.0%)	4件,66.7%
	障害福祉制度・サービス(40.0%)	個別(4件,66.7%)	5回未満(3件,50.0%)	0件,0.0%
	掃除・整理(33.3%)	個別(3件,60.0%)	11～50回(3件,60.0%)	5件,100.0%
	外出・余暇活動(33.3%)	個別(3件,60.0%)	11～50回・5～10回(2件,40.0%)	1件,20.0%
	支援の活用(33.3%)	個別(5件,100.0%)	5～10回・5回未満(2件,40.0%)	1件,20.0%
	食生活・栄養管理(26.7%)	個別(4件,100.0%)	5回未満～51～100回(各1件,25.0%)	1件,25.0%
	衣類の管理(26.7%)	個別(3件,75.0%)	11～50回(2件,50.0%)	3件,75.0%
	障害の理解(26.7%)	個別(3件,75.0%)	5回未満(3件,75.0%)	1件,25.0%
	住まい(20.0%)	個別(2件,66.7%)	5～10回(2件,66.7%)	2件,66.7%
	洗濯(20.0%)	個別(2件,66.7%)	11～50回(2件,66.7%)	3件,100.0%
	その他家事(20.0%)	個別(2件,66.7%)	11～50回(2件,66.7%)	2件,66.7%
	服薬管理(20.0%)	個別(2件,66.7%)	11～50回(2件,66.7%)	3件,100.0%
社会保障制度活用支援(13.3%)	個別(2件,100.0%)	11～50回・5回未満(1件,50.0%)	0件,0.0%	
一般就労に向けた訓練	職業前訓練(13.3%)	個別(2件,100.0%)	5～10回・5回未満(1件,50.0%)	0件,0.0%
その他の訓練	PCなどのICT活用(93.3%)	個別(12件,85.7%)	51～100回(7件,50.0%)	8件,66.7%
	スポーツ活動(33.3%)	集団(4件,80.0%)	11～50回(2件,40.0%)	3件,60.0%
	一般教養・教科学習(13.3%)	集団(2件,100.0%)	5～10回(1件,50.0%)	2件,100.0%
	その他(その他の訓練)(13.3%)	個別(2件,100.0%)	11～50回・5～10回(1件,50.0%)	1件,50.0%
地域移行・社会生活に向けた支援	サービス担当者会議(開催・参加・関係機関との調整)(60.0%)	個別(7件,77.8%)	5回未満(6件,66.7%)	2件,22.2%
	事業所見学同行(33.3%)	個別(3件,60.0%)	5回未満(5件,100.0%)	0件,0.0%
	地域生活の中でのレクリエーション・余暇活動支援(33.3%)	個別(4件,80.0%)	5回未満(4件,80.0%)	0件,0.0%
	各種制度の活用(33.3%)	個別(4件,80.0%)	5回未満(3件,60.0%)	0件,0.0%
	医療機関・事業所探し・選定支援(20.0%)	個別(3件,100.0%)	5回未満(2件,66.7%)	1件,33.3%
	住環境面の改善(13.3%)	個別(2件,100.0%)	5回未満(2件,100.0%)	1件,50.0%
	事業所利用体験実習支援(13.3%)	個別(2件,100.0%)	5回未満(2件,100.0%)	0件,0.0%
	職場との調整(13.3%)	個別(1件,50.0%)	5～10回(2件,100.0%)	0件,0.0%
職場・地域等周囲の理解促進(13.3%)	個別(1件,50.0%)	5回未満(2件,100.0%)	0件,0.0%	

※実施件数が1件だったものは割愛している。

表 29 知的障害者の支援プログラム等実施形式・総回数・評価指標の有無の状況

プログラム種別	プログラム名	実施形式	総回数	評価指標有
機能維持・向上訓練	*摂食・嚥下訓練(2.6%)	個別・集団(1件,50.0%)	101回以上(2件,100.0%)	0件,0.0%
	*代替え手段の活用(2.6%)	個別(2件,100.0%)	101回以上・51～100回(1件,50.0%)	2件,100.0%
	*言語訓練(1.3%)	集団(1件,100.0%)	101回以上(1件,100.0%)	0件,0.0%
ADL訓練	*屋内移動(2.6%)	個別・集団(2件,100.0%)	101回以上・51～100回(1件,50.0%)	2件,100.0%
IADL/社会生活活力訓練	外出・余暇活動(43.6%)	集団(27件,79.4%)	11～50回(10件,29.4%)	11件,32.4%
	服薬管理(17.9%)	個別(13件,92.9%)	101回以上(6件,42.9%)	8件,57.1%
	*社会保障制度活用支援(5.1%)	個別・集団(2件,50.0%)	5回未満(3件,75.0%)	2件,50.0%
	*自動車利用・運転(1.3%)	集団(1件,100.0%)	11～50回(1件,100.0%)	0件,0.0%
一般就労に向けた訓練	職場実習支援(9.0%)	個別(7件,100.0%)	5回未満(3件,42.9%)	4件,57.1%
	*その他(3.8%)	個別・集団(1件,33.3%)	51～100回(2件,66.7%)	3件,100.0%
	*資格取得のための訓練(2.6%)	集団(2件,100.0%)	5回未満(2件,100.0%)	2件,100.0%
その他の訓練	スポーツ活動(42.3%)	集団(31件,93.9%)	51～100回・11～50回(8件,24.2%)	11件,33.3%
	*模擬生活訓練(5.1%)	集団(3件,75.0%)	5回未満(3件,75.0%)	4件,100.0%
	*その他(2.6%)	個別・集団(1件,50.0%)	11～50回(2件,100.0%)	2件,100.0%
	*アニマルセラピー(1.3%)	個別(1件,100.0%)	5回未満(1件,100.0%)	1件,100.0%
地域移行・社会生活に向けた支援	事業所見学同行(28.2%)	個別(20件,90.9%)	5回未満(14件,63.6%)	5件,22.7%
	地域生活の中でのレクリエーション・余暇活動支援(26.9%)	集団(15件,71.4%)	5回未満(9件,42.9%)	5件,23.8%
	事業所利用体験実習支援(24.4%)	個別(18件,94.7%)	5回未満(10件,52.6%)	7件,36.8%
	医療機関・事業所探し・選定支援(23.1%)	個別(16件,88.9%)	5回未満(9件,50.0%)	5件,27.8%
	契約行為等の手続き(16.7%)	個別(11件,84.6%)	5回未満(13件,100.0%)	3件,23.1%
	職場見学同行(12.8%)	個別(8件,80.0%)	5回未満(7件,70.0%)	4件,40.0%
	職場体験実習同行(12.8%)	個別(9件,90.0%)	5回未満(5件,50.0%)	6件,60.0%
	職場との調整(11.5%)	個別(8件,88.9%)	5回未満(6件,66.7%)	3件,33.3%
	*就労中の職場との調整・生活支援(6.4%)	個別(4件,80.0%)	5回未満(2件,40.0%)	2件,40.0%
	*その他の同行支援(6.4%)	個別(4件,80.0%)	5回未満(4件,80.0%)	1件,20.0%
	*住まい探し(3.8%)	個別(3件,100.0%)	5回未満(3件,100.0%)	0件,0.0%
家族支援	相談対応(利用者に関して)(47.4%)	個別(34件,91.9%)	5回未満(11件,29.7%)	15件,40.5%
地域貢献活動	地域等に対するボランティア活動(11.5%)	集団(5件,55.6%)	5回未満(4件,44.4%)	1件,11.1%
	*利用者が(と共に)行う地域づくり活動(2.6%)	集団(15件,93.8%)	5回未満(9件,56.3%)	5件,31.3%

表 30 精神障害者の支援プログラム等実施形式・総回数・評価指標の有無の状況

プログラム種別	プログラム名	実施形式	総回数	評価指標有
ADL訓練	入浴(12.1%)	個別(9件,81.8%)	11～50回(5件,45.5%)	8件,72.7%
	*食事(9.9%)	集団(7件,77.8%)	101回以上(5件,55.6%)	6件,66.7%
IADL・社会生活 活力訓練	生活リズム(74.7%)	個別(48件,70.6%)	101回以上(34件,50.0%)	26件,38.2%
	服薬管理(56.0%)	個別(42件,82.4%)	101回以上(17件,33.3%)	20件,39.2%
	支援の活用(49.5%)	個別(34件,75.6%)	11～50回(16件,35.6%)	13件,28.9%
	住まい(27.5%)	個別(21件,84.0%)	11～50回(7件,28.0%)	8件,32.0%
	電話の使用(25.3%)	個別(19件,82.6%)	101回以上(6件,26.1%)	10件,43.5%
	地域生活・参加(24.2%)	集団(14件,63.6%)	5～10回(7件,31.8%)	8件,36.4%
	*自動車利用・運転(8.8%)	個別(7件,87.5%)	5回未満(4件,50.0%)	4件,50.0%
一般就労に向けた 訓練	職業訓練・復職訓練(17.6%)	個別(11件,68.8%)	101回以上(5件,31.3%)	9件,56.3%
	就職活動支援(13.2%)	個別(11件,91.7%)	51～100回・5回未満(4件,33.3%)	4件,33.3%
	*職場実習支援(9.9%)	個別(8件,88.9%)	5回未満(3件,33.3%)	2件,22.2%
	*その他(5.5%)	個別(4件,80.0%)	5回未満(3件,60.0%)	5件,100.0%
その他の訓練	PCなどの ICT 活用(29.7%)	個別(20件,74.1%)	11～50回(9件,33.3%)	13件,48.1%
	*その他(5.5%)	個別(2件,100.0%)	11～50回・5～10回(1件,50.0%)	1件,50.0%
地域移行・社会生活に向けた 支援	事業所見学同行(44.0%)	個別(38件,95.0%)	5回未満(25件,62.5%)	11件,27.5%
	医療機関・事業所探し・選定支援(40.7%)	個別(35件,94.6%)	5回未満(14件,37.8%)	12件,32.4%
	事業所利用体験実習支援(29.7%)	個別(27件,100.0%)	5回未満(17件,63.0%)	8件,29.6%
	その他の同行支援(26.4%)	個別(22件,91.7%)	5回未満(14件,58.3%)	7件,29.2%
	地域生活の中でのレクリエーション・余暇活動支援(26.4%)	集団(18件,75.0%)	11～50回(10件,41.7%)	8件,33.3%
	契約行為等の手続き(24.2%)	個別(22件,100.0%)	5回未満(11件,50.0%)	10件,45.5%
	職場との調整(18.7%)	個別(16件,94.1%)	5～10回(7件,41.2%)	8件,47.1%
	住まい探し(17.6%)	個別(16件,100.0%)	5回未満(6件,37.5%)	7件,43.8%
	就労中の職場との調整・生活支援(16.5%)	個別(14件,93.3%)	11～50回・5～10回(5件,33.3%)	7件,46.7%
	求職活動(職場探し・選定)の支援(13.2%)	個別(12件,100.0%)	5回未満～11～50回(各3件,25.0%)	4件,33.3%
	職場見学同行(12.1%)	個別(11件,100.0%)	5～10回・5回未満(4件,36.4%)	3件,27.3%
	*職場体験実習同行(9.9%)	個別(9件,100.0%)	5～10回(3件,33.3%)	3件,33.3%
	*住環境面の改善(3.3%)	個別(3件,100.0%)	5回未満(2件,66.7%)	1件,33.3%
地域貢献活動	*他の障害者等に対するピアサポート活動(8.8%)	個別・集団(5件,62.5%)	11～50回(4件,50.0%)	3件,37.5%

表 31 発達障害者の支援プログラム等実施形式・総回数・評価指標の有無の状況

プログラム種別	プログラム名	実施形式	総回数	評価指標有
機能維持・向上訓練	記憶・情緒の安定(25.0%)	集団(4件,80.0%)	51～100回(2件,40.0%)	3件,60.0%
	高次脳機能・認知訓練(10.0%)	個別・集団(2件,100.0%)	101回以上・51～100回(1件,50.0%)	1件,50.0%
ADL訓練	みだしなみ・整容(20.0%)	集団(3件,75.0%)	101回以上(3件,75.0%)	3件,75.0%
IADL・社会生活力訓練	生活リズム(95.0%)	個別(15件,78.9%)	51～100回(6件,31.6%)	11件,57.9%
	自己理解(75.0%)	個別(10件,66.7%)	101回以上(4件,26.7%)	8件,53.3%
	障害の理解(60.0%)	個別(7件,58.3%)	11～50回(3件,25.0%)	2件,16.7%
	疾病・健康管理(55.0%)	個別(6件,54.5%)	101回以上(3件,27.3%)	4件,36.4%
	掃除・整理(55.0%)	個別・集団(5件, 45.5%)	51～100回(4件,36.4%)	3件,27.3%
	人間関係(50.0%)	集団(7件,70.0%)	51～100回(3件,30.0%)	4件,40.0%
	セルフケア(45.0%)	個別・集団(5件, 55.6%)	51～100回・11～50回(3件,33.3%)	4件,44.4%
	安全・危機管理(45.0%)	集団(8件,88.9%)	5回未満(5件,55.6%)	2件,22.2%
	金銭・財産管理(45.0%)	個別(6件,66.7%)	51～100回(3件,33.3%)	4件,44.4%
	支援の活用(40.0%)	個別(6件,75.0%)	51～100回(3件,37.5%)	3件,37.5%
	障害福祉制度・サービス(35.0%)	個別(5件,71.4%)	5～10回・5回未満(2件,28.6%)	1件,14.3%
	住まい(30.0%)	個別(4件,66.7%)	51～100回(2件,33.3%)	2件,33.3%
	外出・余暇活動(30.0%)	集団(4件,66.7%)	5回未満(2件,33.3%)	1件,16.7%
	洗濯(25.0%)	個別(3件,60.0%)	11～50回(2件,40.0%)	1件,20.0%
	電話の使用(20.0%)	個別(3件,75.0%)	51～100回(2件,50.0%)	2件,50.0%
	公共交通機関の利用(20.0%)	個別(3件,75.0%)	5回未満～51～100回(各1件,25.0%)	2件,50.0%
自動車利用・運転(10.0%)	個別・集団(1件,50.0%)	51～100回(1件,50.0%)	1件,50.0%	
一般就労に向けた訓練	職業前訓練(40.0%)	個別・集団(5件, 62.5%)	51～100回(3件,37.5%)	5件,62.5%
	職業訓練・復職訓練(10.0%)	個別・集団(1件, 50.0%)	51～100回(2件,100.0%)	2件,100.0%
その他の訓練	スポーツ活動(40.0%)	集団(8件,100.0%)	11～50回(3件,37.5%)	2件,25.0%
	ソーシャルスキルトレーニング(40.0%)	集団(8件,100.0%)	51～100回・11～50回(2件,25.0%)	3件,37.5%
	模擬生活訓練(10.0%)	個別・集団(1件, 50.0%)	51～100回(1件,50.0%)	1件,50.0%
地域移行・社会生活に向けた支援	サービス担当者会議(開催・参加)・関係機関との調整(80.0%)	個別(14件,87.5%)	5～10回(9件,56.3%)	9件,56.3%
	医療機関・事業所探し・選定支援(30.0%)	個別(6件,100.0%)	5回未満(4件,66.7%)	1件,16.7%
	事業所見学同行(30.0%)	個別(6件,100.0%)	5回未満(4件,66.7%)	2件,33.3%
	地域生活の中でのレクリエーション・余暇活動支援(25.0%)	集団(4件,80.0%)	5回未満(2件,40.0%)	0件,0.0%
	各種制度の活用(25.0%)	個別(4件,80.0%)	5回未満(2件,40.0%)	1件,20.0%
	事業所利用体験実習支援(15.0%)	個別(3件, 100.0%)	51～100回・5回未満(1件,33.3%)	1件,33.3%
	その他の同行支援(10.0%)	個別(2件, 100.0%)	51～100回(1件,50.0%)	1件,50.0%
	職場・地域等周囲の理解促進(10.0%)	個別(2件,100.0%)	5回未満(2件,100.0%)	0件,0.0%
家族支援	相談対応(利用者に関して)(70.0%)	個別(13件,92.9%)	51～100回(3件,28.6%)	6件,42.9%
	サービス担当者会議(開催・参加)・関係機関との調整(55.0%)	個別(10件,90.9%)	5回未満(5件,45.4%)	4件,36.4%
	相談対応(家族に関して)(50.0%)	個別(10件,100.0%)	5～10回(3件,30.0%)	5件,50.0%
	障害理解促進(20.0%)	個別(4件,100.0%)	5～10回(2件,50.0%)	1件,25.0%
地域貢献活動	地域等に対するボランティア活動(20.0%)	集団(3件,75.0%)	51～100回・5回未満(2件,50.0%)	2件,50.0%
	他の障害者等に対するピアサポート活動(10.0%)	集団(2件,100.0%)	11～50回・5～10回(1件,50.0%)	0件,0.0%
	利用者が(と共に)行う地域交流活動(10.0%)	集団(2件, 100.0%)	101回以上・5回未満(1件,50.0%)	0件,0.0%

表 33 高次脳機能障害者の支援プログラム等実施形式・総回数・評価指標の有無の状況

プログラム種別	高次脳機能障害	実施形式	総回数	評価指標有
機能維持・向上訓練	身体機能の維持・向上訓練(64.3%)	集団(22件,81.5%)	101回以上(12件,44.4%)	20件,74.1%
	言語訓練(33.3%)	個別・集団(7件,50.0%)	51～100回(5件,35.7%)	7件,50.0%
ADL訓練	*移乗(4.8%)	個別・集団(1件,50.0%)	101回以上・51～100回(1件,50.0%)	0件,0.0%
IADL・社会生活力訓練	障害の理解(81.0%)	個別(26件,76.5%)	101回以上(9件,26.5%)	12件,35.3%
	自己理解(52.4%)	個別(18件,81.8%)	51～100回(7件,31.8%)	8件,36.4%
	就労生活(45.2%)	個別(12件,63.2%)	11～50回(5件,26.3%)	2件,10.5%
	障害福祉制度・サービス(45.2%)	個別(12件,63.2%)	5回未満(6件,3.6%)	1件,5.3%
	社会保障制度活用支援(31.0%)	個別(7件,53.8%)	5回未満(8件,61.5%)	1件,7.7%
	支援の活用(28.6%)	個別(7件,58.3%)	5回未満(5件,41.7%)	0件,0.0%
	自動車利用・運転(21.4%)	個別(8件,88.9%)	5～10回・5回未満(3件,33.3%)	6件,66.7%
	洗濯(19.0%)	個別(4件,50.0%)	51～100回(5件,62.5%)	2件,25.0%
	電話の使用(11.9%)	個別(3件,60.0%)	11～50回(3件,60.0%)	0件,0.0%
	*その他(7.1%)	個別(3件,100.0%)	101回以上・11～50回・5回未満(各1件,33.3%)	2件,66.7%
*地域生活・参加(4.8%)	個別(2件,100.0%)	5～10回・5回未満(1件,50.0%)	1件,50.0%	
一般就労に向けた訓練	職業前訓練(61.9%)	集団(15件,5.7%)	101回以上(8件,30.8%)	7件,26.9%
	職業訓練・復職訓練(45.2%)	個別(11件,57.9%)	101回以上(6件,31.6%)	7件,36.8%
	就職活動支援(28.6%)	個別(7件,58.3%)	5回未満(3件,25.0%)	1件,8.3%
	職場実習支援(23.8%)	個別(7件,70.0%)	5～10回(3件,30.0%)	4件,40.0%
	*その他(9.5%)	個別・集団(1件,100.0%)	51～100回(1件,100.0%)	0件,0.0%
その他の訓練	*家庭学習(4.8%)	個別(2件,100.0%)	11～50回・5回未満(1件,50.0%)	0件,0.0%
地域移行・社会生活に向けた支援	サービス担当者会議(開催・参加)・関係機関との調整(78.6%)	個別(30件,90.9%)	5～10回(12件,36.4%)	6件,18.2%
	職場との調整(42.9%)	個別(17件,94.4%)	5～10回(7件,38.9%)	2件,11.1%
	就労中の職場との調整・生活支援(35.7%)	個別(15件,100.0%)	5回未満(7件,46.7%)	2件,13.3%
	事業所見学同行(33.3%)	個別(10件,71.4%)	5回未満(9件,64.3%)	0件,0.0%
	各種制度の活用(28.6%)	個別(8件,66.7%)	5回未満(6件,50.0%)	0件,0.0%
	職場・地域等周囲の理解促進(19.0%)	個別(8件,100.0%)	5回未満(6件,75.0%)	1件,12.5%
	事業所利用体験実習支援(16.7%)	個別(7件,100.0%)	5回未満(4件,57.1%)	0件,0.0%
	職場見学同行(16.7%)	個別(7件,100.0%)	5回未満(5件,71.4%)	0件,0.0%
	求職活動(職場探し・選定)の支援(14.3%)	個別(6件,100.0%)	5～10回・5回未満(2件,33.3%)	0件,0.0%
	職場体験実習同行(11.9%)	個別(5件,100.0%)	5～10回・5回未満(2件,40.0%)	0件,0.0%
	*住まい探し(4.8%)	個別(2件,100.0%)	5回未満(2件,100.0%)	0件,0.0%
	*契約行為等の手続き(2.4%)	個別(1件,100.0%)	51～100回(1件,100.0%)	0件,0.0%
家族支援	相談対応(利用者に関して)(71.4%)	個別(30件,100.0%)	5～10回(10件,33.3%)	2件,6.7%
	サービス担当者会議(開催・参加)・関係機関との調整(59.5%)	個別(23件,92.0%)	5回未満(9件,36.0%)	2件,8.0%
	障害理解促進(54.8%)	個別(20件,87.0%)	5回未満(9件,39.1%)	2件,8.7%

D. 考察

1. 調査結果から

今回の障害種別で見ても実施率が高い支援プログラム等が必ずしも多くない結果から、各事業所で、多くの共通の支援プログラム等が提供されているというよりも、その提供内容は、障害種別で見てもかなりばらつきがあるのが現状であることがわかった。一方で、(職員・利用者)効果実感率でみると、目標達成に対し効果を感じられた支援プログラム等は多くあり、障害状況や目標、生活・就労状況に応じて、必要な支援プログラム等が組み込まれている様子がうかがえた。個別の支援プログラム等を見れば、効果的な支援プログラム等が提供されているのかもしれないが、各事業所の支援プログラム等の全体的な構成を見たときに、効果的・効率的な目標達成のために、必要な支援プログラム等がどの事業所においても、盛り込まれているかどうかは不明であり、障害種別や障害状況、生活状況などに応じた標準的な支援プログラム等の設定は必要であると考えらる。

今回は、(職員・利用者)効果実感率が高いものを軸に結果を分析することで、自立訓練の支援プログラム等の中でも、IADL/社会生活力訓練と地域移行・社会生活に向けた支援という、社会リハビリテーションの軸となる支援プログラム等は障害種別の枠を超えて、共通して効果実感率が高い支援プログラム等が多くなっていることや、機能維持・向上訓練、ADL訓練、一般就労に向けた訓練、地域貢献活動は、障害種別や障害状況や就労状況などにより、必要に応じて提供されていることなどが具体的な支援プログラム内容とともに明らかになった。また、障害種別ごとに各支援プログラム等がどのような実施形式、回数(頻度)で実施されている傾向にあるのかを整理することはできた。

ただ、標準的な支援プログラム等を提示するには、各支援プログラム等のマニュアルも必要であるが、今回はその収集まではできていない。また、支援プログラム等の有効性については、その効果を実証するための評価指標とセットで考える必要があるが、

今回は調査期間の関係上、評価指標と連動させて調査することができなかった。

以上のことから、今回の調査結果を踏まえつつ、まずは評価指標(SIM)との関連の中から、標準的支援プログラム等について抽出を試みる。

2. 評価指標(SIM)の要素による支援プログラム等の分類

令和2年度に行われた本研究により、社会リハビリテーション支援プログラムの評価指標としてSIM(Social Independence Measure)の開発を行い、社会リハビリテーションにおける13の要素(健康管理、金銭管理、身の回りの管理、買い物、調理、家事(調理を除く)、生活のセルフマネジメント、公共交通機関/自動車による移動、人間関係、仕事/学校、余暇活動、日中活動、制度・サービス活用)を示している。SIMの13要素に対し、関連する支援プログラム等を分類したうえで、障害別に実施率、効果実感率をもとに、各要素に共通して実施されている支援プログラム等や障害特有支援プログラム等について以下で明らかにすることを試みる。

1) 健康管理

ア 肢体不自由(脳血管)図22~37

実施率、効果実感率ともに「身体機能の維持・向上訓練」が70%を超えた。実施率は50%超だが、効果実感率が高かったのは、「服薬管理」「疾病・健康管理」「食生活・栄養管理」「スポーツ活動」「医療機関等選定支援」となっている。

イ 視覚障害 図38~45

「調理」のみ実施率が50%を超え、効果実感率も75%を超えていた。実施率は低いですが、効果実感率がどちらも70%を超えたものは、「身体機能の維持・向上訓練」「食事」「食生活・栄養管理」「服薬管理」「就労生活」「スポーツ活動」「医療機関等選定支援」であった。

ウ 知的障害 図46~55

「生活リズム」のみ実施率が50%を超え、効果実感率も70%を超えていた。実施率は低いですが、効果実感率がどちらも70%を超えたものは、「摂食・嚥

下訓練」「服薬管理」「スポーツ活動」「模擬生活訓練」「医療機関等選定支援」であった。

エ 精神障害 図 56～67

実施率、効果実感率ともに「生活リズム」が 70%を超えた。実施率が 50%、効果実感率が 70%を超えたものは「服薬管理」であった。実施率は低い、効果実感率が高いものは、「医療機関等選定支援」であった。「疾病・健康管理」「食生活・栄養管理」「調理」「就労生活」については、いずれの項目も 50%を超えた。

オ 発達障害 図 68～79

「生活リズム」のみ実施率、効果実感率がいずれも 70%を超えていた。実施率は 50%超だが、効果実感率がどちらも 70%を超えたものは、「疾病・健康管理」「食生活・栄養管理」があった。実施率は低い、効果実感率がどちらも高いものは「高次脳機能・認知訓練」「記憶・情緒の安定」「食事」「セルフケア」「模擬生活訓練」「医療機関等選定支援」であった。

カ 高次脳機能障害 図 80～87

「高次脳機能・認知訓練」のみ実施率が 70%を超えた。実施率は 50%だが、効果実感率がどちらも 70%を超えたものは、「身体機能の維持・向上訓練」であった。実施率は低い、効果実感率がどちらも高いものは、「服薬管理」「就労生活」「医療機関等選定支援」であった。

【健康管理プログラム】

各障害に共通した支援プログラム等は「医療機関等選定支援」であった。

「身体機能の維持・向上訓練」「スポーツ活動」「服薬管理」「食生活・栄養管理」が、肢体不自由（脳血管）と視覚障害で共通しており、身体障害者の健康管理の要素と考えられる。

「生活リズム」は知的障害・精神障害・発達障害でいずれも高い実施率と効果実感率の結果を得た。

全障害分野ではないが、「疾病・健康管理」「食生活・栄養管理」「服薬管理」も多くの障害で挙げられている。

以上のことから、健康管理プログラムとしては以下

を提案する。

- ・身体機能や体力などの維持・向上に関するプログラム

- ・食生活や服薬管理など生活リズムを整えるためのプログラム

- ・医療機関の制定など健康管理を支える体制づくりのプログラム

2) 金銭管理

ア 肢体不自由(脳血管) 図 22～37

実施率、効果実感率ともに 70%を超えたものはなかった。実施率は低い、効果実感率が高いプログラムは、「金銭・財産管理」「買い物」「支援の活用」「模擬生活訓練」であった。

イ 視覚障害 図 38～45

実施率、効果実感率ともに 70%を超えたものはなかった。実施率は低い、効果実感率がどちらも 75%を超えたものは、「金銭・財産管理」「買い物」「支援の活用」であった。

ウ 知的障害 図 46～55

実施率、効果実感率ともに 70%を超えたものはなかった。実施率は低い、効果実感率がともに 70%を超えたものは「模擬生活訓練」。効果実感率がどちらか 70%を超えたものは「買い物」「支援の活用」であった。

エ 精神障害 図 56～67

実施率、効果実感率ともに 70%を超えたものはなかった。実施率が 50%、効果実感率が 75%を超えたものは「買い物」「支援の活用」であった。実施率が 50%で職員実感率が 70%を超えたものは「金銭・財産管理」であった。

オ 発達障害 図 68～79

実施率、効果実感率ともに 70%を超えたものはなかった。実施率は低い、効果実感率がどちらも高かったものは「高次脳機能・認知訓練」「金銭・財産管理」「支援の活用」「模擬生活訓練」「消費者トラブル等危険回避」であった。

カ 高次脳機能障害 図 80～87

実施率、効果実感率ともに 70%を超えたものはなかった。「高次脳機能・認知訓練」のみ実施率が

70%を超えていた。実施率は低い、効果実感率がどちらも高かったのは、「支援の活用」であった。

【金銭管理プログラム】

各障害に共通した支援プログラム等は「支援の活用」であった。

また、「金銭・財産管理」「買い物」についてもほとんどの障害分野で高く取り組まれていた。実施形態としても集団で取り組まれているプログラムも多く、実地の訓練プログラムだけでなく、教育的な研修プログラムの必要性も示唆された。

以上のことから、金銭管理プログラムとしては以下を提案する。

- ・買い物や金銭の管理、銀行等の利用方法など実際の生活に反映できるプログラム
- ・消費者トラブルなど金銭・財産管理に関する研修的プログラム
- ・金銭管理を支える体制づくりのプログラム

3) 身の回りの管理

ア 肢体不自由(脳血管)図 22～37

実施率、効果実感率ともに 70%を超えたものは「身体機能の維持・向上訓練」であった。実施率が 50%で、効果実感率が高かったのは、「服薬管理」であった。また、実施率は低い、効果実感率がどちらも高いものは、「入浴」「みだしなみ・整容」「金銭・財産管理」「掃除・整理」「洗濯」「買い物」「調理」「支援の活用」であった。「疾病・健康管理」「食生活・栄養管理」「障害福祉制度・サービス」は実施率が高かった。

イ 視覚障害 図 38～45

実施率、効果実感率ともに 70%を超えたものは「点字」であった。実施率が 50%で、効果実感率がどちらも 70%を超えたものは、「調理」であった。実施率は低い、効果実感率がどちらも 75%を超えたものは、「食生活・栄養管理」「金銭・財産管理」「掃除・整理」「買い物」「服装」「障害福祉制度・サービス」「支援の活用」であった。

ウ 知的障害 図 46～55

実施率、効果実感率ともに 70%を超えたものは「掃除・整理」であった。実施率が 50%で、効果実

感率がともに 70%を超えたものは「生活リズム」であった。実施率は低い、効果実感率がどちらも 70%を超えたものは、「みだしなみ・整容」「洗濯」であった。「生活リズム」「買い物」「コミュニケーション」は実施率が 50%を超えていた。

エ 精神障害 図 56～67

実施率、効果実感率ともに 70%を超えたものは「生活リズム」であった。実施率が 50%で、効果実感率がともに 70%を超えたものは「買い物」「服薬管理」「支援の活用」。実施率は低い、効果実感率がどちらも 70%を超えたものは、「すまい」「その他の家事(ゴミ出し含む)」「障害福祉制度・サービス」であった。実施率が 50%をこえていたものは、「疾病・健康管理」「食生活・栄養管理」「金銭・財産管理」「掃除・整理」「調理」「コミュニケーション」であった。

オ 発達障害 図 68～79

実施率、効果実感率ともに 70%を超えたものは「生活リズム」であった。実施率が 50%で、効果実感率がともに 70%を超えたものは「疾病・健康管理」「食生活・栄養管理」「掃除・整理」。実施率は低いが効果実感率がどちらも高いものは「金銭・財産管理」「住まい」「洗濯」「障害福祉制度・サービス」「支援の活用」であった。

カ 高次脳機能障害 図 80～87

実施率、効果実感率ともに 70%を超えたものはなかった。実施率が 50%だが、効果実感率がどちらも 70%を超えたものは「身体機能の維持・向上訓練」であった。実施率は低い、効果実感率がどちらも 70%を超えたものは、「服薬管理」「障害福祉制度・サービス」「支援の活用」であった。

また、実施率が 50%を超えたものは「疾病・健康管理」「食生活・栄養管理」「生活リズム」「コミュニケーション」であった。

【身の回りプログラム】

各障害に共通した支援プログラム等はないが、多くの障害で実施されていたのは「みだしなみ・整容」「食生活・栄養管理」「生活リズム」「金銭・財産管理」「掃除・整理」「買い物」「調理」「服薬管理」「コミュニ

ケーション」「障害福祉制度・サービス」「支援の活用」であった。視覚障害では、ほかにも「点字」が多く実施されていた。

以上のことから、身の回りプログラムとしては以下を提案する。

- ・自分のできる範囲で自分のことを取り組む(援助依頼含む)ことを体験するプログラム
- ・障害福祉制度などについて学ぶ教育的プログラム
- ・支援者に相談や援助依頼をすることを体験するプログラム

4) 買い物

ア 肢体不自由(脳血管)図 22～37

実施率、効果実感率ともに 70%を超えたものは「屋外移動」。「買い物」も実施率は低いですが効果実感率は高くなっていました。

イ 視覚障害 図 38～45

実施率、効果実感率ともに 70%を超えたものは「点字」であった。「屋外移動」「買い物」も実施率は低いですが効果実感率はともに高くなっていました。

ウ 知的障害 図 46～55

エ 精神障害 図 56～67

オ 発達障害 図 68～79

カ 高次脳機能障害 図 80～87

上記障害で実施率、効果実感率ともに 70%を超えたものはなかった。「買い物」については、各障害で実施されていた。知的障害・精神障害・発達障害では、模擬生活体験の効果実感率が高かった。

【買い物プログラム】

「買い物」については、各障害で実施されていた。また、「模擬生活訓練」など実際に想定した支援プログラム等も実施されていることがわかった。「屋外移動」など買い物に伴う移動能力についても行われていた。

以上のことから、買い物プログラムとしては以下を提案する。

- ・買い物を体験するプログラム
- ・店舗までの移動や荷物をもつての移動を想定した移動プログラム(選択)

・決められた予算内で目的の買い物をするプログラム(選択)

5) 調理

ア 肢体不自由(脳血管)図 22～37

イ 視覚障害 図 38～45

ウ 知的障害 図 46～55

エ 精神障害 図 56～67

オ 発達障害 図 68～79

カ 高次脳機能障害 図 80～87

各障害で実施率、効果実感率ともに 70%を超えたものはなかった。調理については、それぞれの障害で実施されており、効果実感率も高かった。

【調理プログラム】

「調理」については、各障害で実施されていた。また、食事や模擬生活訓練など実際に想定した支援プログラム等も実施されていることがわかった。

以上のことから、調理プログラムとしては以下を提案する。

- ・自分で自分の食事を準備する体験のプログラム
- ・献立から買い物、調理、片付けまで一連の動作を体験する(選択)

6) 家事(調理を除く)

ア 肢体不自由(脳血管)図 22～37

実施率、効果実感率ともに 70%を超えたものは「屋内移動」。実施率が高いものは「障害福祉制度・サービス」また、実施率は低いですが、効果実感率がどちらも高いものは、「利き手交換」「みだしなみ・整容」「すまい」「掃除・整理」「洗濯」「支援の活用」であった。

イ 視覚障害 図 38～45

実施率、効果実感率ともに 70%を超えたものは「白杖操作」。実施率は低いですが、効果実感率がどちらも 70%を超えたものは、「屋内移動」「代替え手段の活用」「みだしなみ・整容」「服装」「掃除・整理」「洗濯」「支援の活用」であった。

ウ 知的障害 図 46～55

実施率、効果実感率ともに 70%を超えたものは「掃除・整理」であった。実施率が 50%で、効果実感率がともに 70%を超えたものは「生活リズム」。実

実施率は低い、効果実感率がどちらも 70%を超えたものは、「屋内移動」「みだしなみ・整容」「洗濯」「模擬生活訓練」であった。

エ 精神障害 図 56～67

実施率、効果実感率ともに 70%を超えたものは「生活リズム」であった。実施率が 50%で、効果実感率がどちらも 70%を超えたものは、「支援の活用」。実施率は低い、効果実感率がどちらも高いものは「すまい」「電話の使用」「その他の家事(ゴミ出し含む)」「障害福祉制度・サービス」であった。

オ 発達障害 図 68～79

実施率、効果実感率ともに 70%を超えたものは「生活リズム」である。実施率が 50%で、効果実感率がともに 70%を超えたものは「掃除・整理」。実施率は低い、効果実感率がどちらも高いものは「みだしなみ・整容」「セルフケア」「すまい」「電話の使用」「洗濯」「障害福祉制度・サービス」「模擬生活訓練」であった。

カ 高次脳機能障害 図 80～87

実施率、効果実感率ともに 70%を超えたものはなかった。実施率は低い、効果実感率がどちらも 75%を超えたものは、「電話の使用」「洗濯」「障害福祉制度・サービス」であった。

【家事(調理を除く)プログラム】

各障害に共通したプログラムは、「掃除・整理」であった。ほかにも「みだしなみ・整容」「洗濯」「障害福祉制度・サービス」「電話の使用」が多く実施されていた。「生活リズム」は、精神障害・知的障害・発達障害で実施率・効果実感率ともに高い。肢体不自由(脳血管)では「屋内移動」、視覚障害では「白杖操作」が実施率・効果実感率ともに高かった。

以上のことから、家事(調理を除く)プログラムとしては以下を提案する。

・掃除や整理、洗濯など家事の体験や訓練のプログラム

・自分の得手不得手や傾向等を認識し、制度の理解・活用を促進するプログラム

7) 生活のセルフマネジメント

ア 肢体不自由(脳血管)図 22～37

実施率、効果実感率ともに 70%を超えたものは「屋内移動」「屋外移動」であった。実施率が 50%で、効果実感率が高かったのは、「障害の理解」であった。また、実施率は低い、効果実感率がどちらも高いものは、「起居訓練」「車椅子操作」「入浴」「みだしなみ・整容」「掃除・整理」「洗濯」「調理」「障害理解促進」であった。

イ 視覚障害 図 38～45

実施率、効果実感率ともに 70%を超えたものは「白杖操作」であった。実施率が 50%で、効果実感率がどちらも 70%を超えたものは、「調理」であった。実施率は低い、効果実感率がどちらも 70%を超えたものは、「屋内移動」「屋外移動」「掃除・整理」「服装」「障害の理解」であった。

ウ 知的障害 図 46～55

実施率、効果実感率ともに 70%を超えたものは「掃除・整理」であった。実施率が 50%で、効果実感率がともに 70%を超えたものは「生活リズム」。実施率は低い、効果実感率がどちらも 70%を超えたものは、「みだしなみ・整容」「安全・危機管理」「洗濯」「調理」であった。

エ 精神障害 図 56～67

実施率、効果実感率ともに 70%を超えたものは「生活リズム」であった。実施率は低い、効果実感率がどちらも 70%を超えたものは、「住まい」「その他の家事(ゴミ出し含む)」であった。利用者交換実感率が低い、実施率が 50%を超えていたものは、「掃除・整理」「調理」「自己理解」「障害の理解」であった。

オ 発達障害 図 68～79

実施率、効果実感率ともに 70%を超えたものは「生活リズム」「自己理解」であった。実施率が 50%で、効果実感率がともに 70%を超えたものは「掃除・整理」「障害の理解」であった。実施率は低い、効果実感率がどちらも高かったのは「セルフケア」「安全・危機管理」「すまい」「洗濯」であった。

カ 高次脳機能障害 図 80～87

実施率、効果実感率ともに 70%を超えたものは「障害の理解」であった。実施率と職員効果実感率

が70%を超えたものは「高次脳機能・認知訓練」であった。実施率が50%だが、効果実感率がどちらも70%を超えたものは「自己理解」「障害理解の促進」であった。

実施率は低い、効果実感率がどちらも70%を超えたものは、「言語訓練」であった。

【セルフマネジメントプログラム】

各障害に共通した支援プログラム等は、「掃除・整理」であった。ほかにも「洗濯」「調理」が多く実施されていた。

また、「障害理解促進」「障害の理解」「自己理解」も実施率、効果実感率とも高い障害が多い。

以上のことから、セルフマネジメントプログラムとしては以下を提案する。

- ・掃除や整理、調理、洗濯など家事の体験や訓練のプログラム
- ・自分の得手不得手や傾向等を認識する自己理解を促進するプログラム
- ・模擬生活体験プログラム(選択)

8) 公共交通機関/自動車による移動

ア 肢体不自由(脳血管)図 22～37

実施率、効果実感率ともに70%を超えたものは「身体機能の維持・向上訓練」「屋内移動」「屋外移動」であった。実施率が50%で、効果実感率が高かったのは「公共交通機関の利用」であった。また、実施率は低い、効果実感率がどちらも高いものは、「起居訓練」「車椅子操作」「外出・余暇活動」であった。

イ 視覚障害 図 38～45

実施率、効果実感率ともに70%を超えたものは「白杖操作」「点字」であった。実施率が50%で、効果実感率がどちらも70%を超えたものは、「公共交通機関の利用」であった。実施率は低い、効果実感率がどちらも70%を超えたものは、「屋内移動」「屋外移動」「外出・余暇活動」であった。

ウ 知的障害 図 46～55

実施率、効果実感率ともに70%を超えたものはなかった。実施率は低い、効果実感率がどちらも70%を超えたものは、「外出・余暇活動」であった。

エ 精神障害 図 56～67

実施率、効果実感率ともに70%を超えたものはなかった。実施率が50%で、効果実感率がどちらも70%を超えたものは、「外出・余暇活動」であった。実施率は低い、効果実感率がどちらも70%を超えたものは、「公共交通機関の利用」であった。

オ 発達障害 図 68～79

実施率、効果実感率ともに70%を超えたものはなかった。実施率が50%で、効果実感率がともに70%を超えたものもなかった。実施率は低い、効果実感率がどちらも高いものは「外出・余暇活動」であった。

カ 高次脳機能障害 図 80～87

実施率、効果実感率ともに70%を超えたものはなかった。実施率が50%だが、効果実感率がどちらも70%を超えたものは「身体機能の維持・向上訓練」であった。

実施率は低い、効果実感率がどちらも70%を超えたものは、「外出・余暇活動」「職業訓練・復職訓練」であった。

【公共交通機関/自動車による移動プログラム】

各障害に共通した支援プログラム等は、「外出・余暇活動」「公共交通機関の利用」であった。肢体不自由(脳血管)、視覚障害、高次脳機能障害では、「身体機能の維持」「屋外移動」「屋内移動」「車椅子操作」「白杖操作」「点字」といった障害特有のプログラムが実施されていた。

以上のことから、移動プログラムとしては以下を提案する。

- ・事業所外での余暇活動など外出を伴うプログラム
- ・公共交通機関の利用体験プログラム
- ・移動機能を支える身体機能、認知機能の訓練プログラム

9) 人間関係

ア 肢体不自由(脳血管)図 22～37

実施率、効果実感率ともに70%を超えたものはなかった。実施率が50%で、効果実感率が高かったのは、「障害の理解」「相談対応(本人)」であった。また、実施率は低い、効果実感率がどちらも高か

ったのは、「みだしなみ・整容」「就労生活」「障害理解促進」であった。「高次脳機能・認知訓練」「記憶・情緒の安定」「代替手段の活用」「相談対応(家族)」は実施率が高かった。

イ 視覚障害 図 38～45

実施率、効果実感率ともに 70%を超えたものは「点字」であった。実施率が 50%で、効果実感率がどちらも 70%を超えたものは、「電話の使用」であった。実施率は低い、効果実感率がどちらも 70%を超えたものは、「代替手段の活用」「障害の理解」であった。

ウ 知的障害 図 46～55

実施率、効果実感率ともに 70%を超えたものはなかった。実施率が 50%で、効果実感率がともに 70%を超えたものは「相談対応(本人)」。実施率は低い、効果実感率がどちらも 70%を超えたものは、「みだしなみ」「ソーシャルスキルトレーニング」「相談対応(家族)」であった。

エ 精神障害 図 56～67

実施率、効果実感率ともに 70%を超えたものはなかった。実施率は低い、効果実感率がどちらも 70%を超えたものは、「電話の使用」「ソーシャルスキルトレーニング」であった。利用者交換実感率が低い、実施率が 50%を超えていたものは、「自己理解」「障害の理解」「人間関係」「相談対応(本人)」であった。

オ 発達障害 図 68～79

実施率、効果実感率ともに 70%を超えたものは「自己理解」「相談対応(本人)」である。実施率が 50%で、効果実感率がともに 70%を超えたものは「障害の理解」「人間関係」「相談対応(家族)」。実施率は低い、効果実感率がどちらも高いものは「記憶・情緒の安定」「電話の使用」「ソーシャルスキルトレーニング」であった。

カ 高次脳機能障害 図 80～87

実施率、効果実感率ともに 70%を超えたものは「障害の理解」「相談対応(本人)」であった。実施率と職員効果実感率が 70%を超えたものは「高次脳機能・認知訓練」であった。実施率が 50%だが、

効果実感率がどちらも 70%を超えたものは「自己理解」「障害理解の促進」「相談対応(家族)」であった。

実施率は低い、効果実感率がどちらも 70%を超えたものは、「言語訓練」であった。

【人間関係プログラム】

各障害に共通した支援プログラム等はないが、多くの障害で実施されているプログラムは「代替手段の活用」「自己理解」「障害の理解」「ソーシャルスキルトレーニング」「相談対応(本人)」「相談対応(家族)」であった。視覚障害では、ほかにも「点字」「電話の使用」が多く実施されていた。

以上のことから、人間関係プログラムとしては以下を提案する。

- ・本人・家族各々に対する相談支援
- ・自分の得手不得手や傾向等を認識する自己理解を促進するプログラム
- ・電話や点字、手話、メモリーノートなどのコミュニケーション訓練プログラム

10) 仕事・学校

ア 肢体不自由(脳血管)図 22～37

実施率、効果実感率ともに 70%を超えたものは「屋外移動」。実施率が 50%で、効果実感率が高いプログラムは、「PC などの ICT 活用」であった。また、実施率は低い、効果実感率がどちらも高いものは、「車椅子操作」「就労生活」「職業前訓練」「事業所見学同行」であった。

イ 視覚障害 図 38～45

実施率、効果実感率ともに 70%を超えたものは「点字」「PC などの ICT 活用」であった。実施率が 50%で、効果実感率がどちらも 70%を超えたものは、「電話の使用」であった。実施率は低い、効果実感率がどちらも 70%を超えたものは、「代替手段の活用」「屋外移動」「事業所見学同行」であった。

ウ 知的障害 図 46～55

実施率、効果実感率ともに 70%を超えたものはなかった。実施率は低い、効果実感率がともに 70%を超えたものは「職業前訓練」「事業所見学同行」「事業余利用体験実習支援」であった。

エ 精神障害 図 56～67

実施率、効果実感率ともに 70%を超えたものはなかった。実施率は低い、効果実感率がどちらも 70%を超えたものは、「電話の使用」「職業前訓練」「PC などの ICT 活用」「事業所利用体験実習」「事業所見学同行」であった。

オ 発達障害 図 68～79

実施率、効果実感率ともに 70%を超えたものはなかった。実施率は低い、効果実感率がどちらも高かったのは「記憶・情緒の安定」「電話の使用」「就労生活」「職業前訓練」「事業所見学同行」であった。

カ 高次脳機能障害 図 80～87

実施率、効果実感率ともに 70%を超えたものはなかった。実施率と職員効果実感率が 70%を超えたものは「高次脳機能・認知訓練」であった。実施率が 50%だが、効果実感率がどちらも 50%を超えたものは「職業前訓練」であった。

実施率は低い、効果実感率がどちらも 70%を超えたものは、「言語訓練」「就労生活」「職業訓練・復職訓練」「就職活動支援」「職場実習支援」「事業所見学同行」「職場との調整」「就労中の職場との調整・生活支援」であった。

【仕事・学校プログラム】

各障害に共通した支援プログラム等は、「事業所見学同行」であった。ほかにも「職業前訓練」が多く実施されていた。

以上のことから、仕事・学校プログラムとしては以下を提案する。

- ・作業や創作活動などの作業体験プログラム
- ・幅広い就労に向けた準備としての実習・見学等の就労体験プログラム
- ・記憶や情緒の安定、屋外移動、点字など就労を支えるスキルトレーニングプログラム
- ・就職や復職に向けた支援(選択)

11) 余暇活動

ア) 肢体不自由(脳血管)図 22～37

実施率、効果実感率ともに 70%を超えたものは「屋外移動」。実施率が 50%で、効果実感率が高

いプログラムは、「PC などの ICT 活用」となっている。また、実施率は低い、効果実感率がどちらも高いものは、「車椅子操作」「外出・余暇活動」「地域に対するボランティア活動」であった。

イ) 視覚障害 図 38～45

実施率、効果実感率ともに 70%を超えたものは「点字」「PC などの ICT 訓練」。実施率が 50%で、効果実感率がどちらも 70%を超えたものは、「電話の使用」であった。実施率は低い、効果実感率がどちらも 70%を超えたものは、「屋外移動」「外出・余暇活動」「スポーツ活動」「一般教養・強化学習」「職場・地域等周囲の理解促進」であった。

ウ) 知的障害 図 46～55

実施率、効果実感率ともに 70%を超えたものはない。実施率は低い、効果実感率がともに 70%を超えたものは「屋外移動」「外出・余暇活動」「スポーツ活動」「ソーシャルスキルトレーニング」「同行支援」「職場・地域等周囲の理解促進」「地域生活のなかでのレクリエーション・余暇活動」であった。

エ) 精神障害 図 56～67

実施率、効果実感率ともに 70%を超えたものはない。実施率が 50%、効果実感率が 70%を超えたものは「外出・余暇活動」であった。実施率が 50%で職員実感率が 70%を超えたものは「スポーツ活動」であった。実施率は低い、効果実感率がどちらも 70%を超えたものは、「電話の使用」「地域生活・参加」「PC などの ICT 活動」「ソーシャルスキルトレーニング」「同行支援」「地域生活のなかでのレクリエーション・余暇活動」「ピアサポート活動」であった。

オ) 発達障害 図 68～79

実施率、効果実感率ともに 70%を超えたものはない。実施率は低い、効果実感率がどちらも高いものは「記憶・情緒の安定」「電話の使用」「外出・余暇活動」「ソーシャルスキルトレーニング」「同行支援」「職場・地域等周囲の理解促進」「地域生活のなかでのレクリエーション・余暇活動」「地域に対するボランティア活動」「ピアサポート活動」「地域交流活動」であった。

カ) 高次脳機能障害 図 80～87

実施率、効果実感率ともに 70%を超えたものはない。実施率は低い、効果実感率がどちらも高いものは、「電話の使用」「外出・余暇活動」「職場・地域等周囲の理解促進」であった。実施率が 50%で職員効果実感率が 70%を超えたものは、「屋外移動」「スポーツ活動」「PCなどの ICT 訓練」であった。

【余暇活動プログラム】

各障害に共通したプログラムは「外出・余暇活動」であった。余暇活動そのものについては、各事業所で積極的に取り組まれている。今後、地域生活を継続していく中での余暇活動の獲得を目的にプログラムを検討する。そのため、社会に対しての啓発活動も必要な要素と考えられる。

また、「屋外移動」「スポーツ活動」「PCなどの ICT 訓練」「地域生活のなかでのレクリエーション・余暇活動」についてもほとんどの障害分野で高く取り組まれていた。

以上のことから、余暇・日中活動プログラムとしては以下を提案する。

- ・利用者が主体的に選択して取り組める活動を提供するプログラム
- ・地域生活の中での活動の提供や情報、体験の機会の提供を支援するプログラム
- ・外出や余暇、スポーツ活動等事業所外で体験ができるプログラム

12) 日中活動

ア 肢体不自由(脳血管) 図 22～37

実施率、効果実感率ともに 75%を超えたものは「屋外移動」。実施率が 50%で、効果実感率が高いプログラムは、「PC などの ICT 活用」「事業所等選定支援」となっていた。また、実施率は低い、効果実感率がどちらも高かったのは、「車椅子操作」「外出・余暇活動」「事業所見学同行」「事業所利用体験実習支援」「地位に対するボランティア活動」であった。

イ 視覚障害 図 38～45

実施率、効果実感率ともに 75%を超えたものは「点字」「PC などの ICT 訓練」。実施率が 50%で、効果実感率がどちらも 75%を超えたものは、「電話

の使用」であった。実施率は低い、効果実感率がどちらも 75%を超えたものは、「屋外移動」「外出・余暇活動」「地域生活・参加」「スポーツ活動」「一般教養・教科学習」「事業所等選定支援」「事業所見学同行」「事業所利用体験」「職場・地域の理解促進」「地域生活のなかでのレクリエーション・余暇活動」であった。

ウ 知的障害 図 46～55

実施率、効果実感率ともに 75%を超えたものはなかった。実施率は低い、効果実感率がともに 75%を超えたものは「屋外移動」「外出・余暇活動」「スポーツ活動」「ソーシャルスキルトレーニング」「事業所等選定支援」「事業所見学同行」「事業所利用体験実習支援」「同行支援」「職場・地域の理解促進」「地域生活のなかでのレクリエーション・余暇活動」「地位期待するボランティア活動」であった。

エ 精神障害 図 56～67

実施率、効果実感率ともに 75%を超えたものはなかった。実施率が 50%、効果実感率が 75%を超えたものは「外出・余暇活動」であった。実施率が 50%で職員実感率が 75%を超えたものは「スポーツ活動」であった。実施率は低い、効果実感率がどちらも 75%を超えたものは、「電話の使用」「地域生活・参加」「PC などの ICT 活動」「ソーシャルスキルトレーニング」「事業所等選定支援」「事業所利用体験実習支援」「同行支援」「地域生活のなかでのレクリエーション・余暇活動」であった。

オ 発達障害 図 68～79

実施率、効果実感率ともに 75%を超えたものはなかった。実施率は低い、効果実感率がどちらも高いものは「記憶・情緒の安定」「電話の使用」「外出・余暇活動」「ソーシャルスキルトレーニング」「事業所等選定支援」「事業所見学同行」「事業所利用体験実習」「同行支援」「職場・地域の理解促進」「地域生活のなかでのレクリエーション・余暇活動」「地域に対するボランティア活動」「地域交流活動」であった。

カ 高次脳機能障害 図 80～87

実施率、効果実感率ともに 75%を超えたものは

なかった。実施率は低い、効果実感率がどちらも高かったのは、「電話の使用」「外出・余暇活動」「事業所等選定支援」「事業所見学同行」「事業所利用体験」「職場・地域の理解促進」であった。実施率が 50%で職員効果実感率が 75%を超えたものは、「屋外移動」「スポーツ活動」「PC などの ICT 訓練」であった。

【日中活動プログラム】

各障害に共通した支援プログラム等は「外出・余暇活動」「事業所見学同行」であった。

また、「屋外移動」「スポーツ活動」「PC などの ICT 活用」「事業所等選定支援」「事業所利用体験実習支援」「職場・地域の理解促進」「地域生活のなかでのレクリエーション・余暇活動」についてもほとんどの障害分野で高く取り組まれていた。ICT 訓練や地域生活に関わるプログラムは集団での取り組みがみられた。

以上のことから、日中活動プログラムとしては以下を提案する。

- ・外出や余暇、スポーツ活動等事業所外で体験ができるプログラム
- ・他事業所の見学や実習等地域生活を想定した活動の体験とそれを支えるスキルトレーニングプログラム
- ・他事業所への移行を支える体制づくりのプログラム
- ・職場や地域等周囲に対する障害理解促進

13) 制度活用

ア 肢体不自由(脳血管)図 22～37

実施率、効果実感率ともに 70%を超えたものはなかった。実施率が 70%を超えたものは、「サービス担当者会議などの開催・調整」であった。実施率が 50%で、効果実感率が高かったのは、「事業所等選定支援」であった。また、実施率は低い、効果実感率がどちらも高かったのは、「金銭・財産管理」「社会保障制度活用支援」「支援の活用」「障害理解促進」であった。

イ 視覚障害 図 38～45

実施率、効果実感率ともに 70%を超えたものは

「点字」であった。実施率が 50%で、効果実感率がどちらも 70%を超えたものは、「電話の使用」「サービス担当者会議などの開催・調整」であった。実施率は低い、効果実感率がどちらも 70%を超えたものは、「金銭・在残管理」「社会福祉制度・サービス」「支援の活用」「事業所見学同行」「地域生活のなかでのレクリエーション・余暇活動」「各種制度の活用」であった。

ウ 知的障害 図 46～55

実施率、効果実感率ともに 70%を超えたものはなかった。実施率と職員効果実感率が 70%を超えたものは、「サービス担当者会議などの開催・調整」であった。実施率は低い、効果実感率がともに 70%を超えたものは「事業所等選定支援」「事業所見学同行」「事業所利用体験実習支援」「地域生活のなかでのレクリエーション・余暇活動」であった。

エ 精神障害 図 56～67

実施率、効果実感率いずれも 70%を超えたものはなかった。実施率と職員効果実感率が 70%を超えたものは、「サービス担当者会議などの開催・調整」であった。実施率は 50%超だが、効果実感率がどちらも 70%を超えたものは「支援の活用」であった。実施率は低い、効果実感率がどちらも 70%を超えたものは、「安全・危機管理」「金銭・財産管理」「電話の使用」「障害福祉制度・サービス」「事業所等選定支援」「同行支援」「契約行為等の手続き」「地域生活のなかでのレクリエーション・余暇活動」であった。

オ 発達障害 図 68～79

実施率、効果実感率ともに 70%を超えたものは「サービス担当者会議などの開催・調整」。実施率は低い、効果実感率がどちらも高いものは「安全・危機管理」「金銭・財産管理」「電話の使用」「障制度活用支援」「支援の活用」「事業所等選定支援」「事業所見学同行」「地域生活のなかでのレクリエーション・余暇活動」「各種制度の活用」であった。

カ 高次脳機能障害 図 80～87

実施率、効果実感率ともに 70%を超えたものは「サービス担当者会議などの開催・調整」。実施率

は 50%超だが、効果実感率がどちらも 70%を超えたものは「障害理解の促進」であった。実施率は低いが効果実感率がどちらも高いものは「言語訓練」「安全・危機管理」「社会保障制度活用支援」「社会福祉制度・サービス」「支援の活用」「事業所等選定支援」「事業所見学同行」「地域生活のなかでのレクリエーション・余暇活動」であった。

【制度活用プログラム】

各障害に共通した支援プログラム等は、「サービス担当者会議などの開催・関係機関との調整」であった。他にも「障害福祉制度」「支援の活用」「事業所など選定支援」「事業所見学同行」など制度を実際に活用するための支援プログラム等が挙げられている。また、「安全・危機管理」「金銭・財産管理」「社会保障制度活用支援」は、集団で実施されており、教育的な研修プログラムの効果がうかがわれる。

以上のことから、制度活用プログラムとしては以下を提案する。

- ・障害福祉制度、社会保障制度など諸制度や生活を守るための制度や知識の研修プログラム
- ・サービス担当者会議の開催や参加による関係機関との調整
- ・事業移行を支える体制づくりのプログラム

3. SIM 要素により提案した支援プログラム等の整理

SIM の 13 要素からそれぞれ提案した大枠の支援プログラム等は全部で 39 個となった。その中で、重複した支援プログラム等を削除し、似た要素の支援プログラムをまとめることで、以下の 10 の要素からなる標準支援プログラム案にまとめたものが表 36 である。

標準支援プログラム案に、今回の調査で結果や考察において示された実施率や効果実感率が高かった支援プログラム等をあてはめたのが、表 37 である。障害特有の支援プログラム等については()内にその障害名を略して入れている。

実施率が高い支援プログラム等が少ない現状に

おいては、詳細な支援プログラム等で標準支援プログラムを構成するよりも、枠組みを示し(表 37 の左側(標準支援プログラム案))、利用者の障害状況や目標、生活状況などを考慮し、標準支援プログラム案の中に含まれるいずれかの支援プログラムを実施すればよいという提案が現実的であると考えられる。

E. まとめ

本調査においては、6 つの障害別に結果を実施率と効果実感率の集計を行い、さらに SIM の要素による集計を行い標準的プログラム等の抽出を検討した。

本調査で得られた回答から、自立訓練(機能訓練・生活訓練)を利用し、目標を達成するために効果を実感している支援プログラム等が多く実施されていたことがわかった。また、実施率と効果実感率をもとに、標準的プログラム等の類型化を目標に検討した。

令和 2 年度の本研究で開発された評価指標(SIM)の要素毎に取り組みされている支援プログラム等を分類し、8 分野からなる調査項目のプログラムを SIM の 13 要素に整理を行った。SIM は、社会生活力の自立度の評価に用いるために開発されたため、身体機能や精神面の変化は評価から除いたものである。

しかし、自立訓練(機能訓練・生活訓練)事業では社会生活力を高める訓練を提供することが目的であるため、標準的プログラム等を検討するにあっても社会生活力を高める項目を整理の指標に用いることにした。

また、SIMの 13 要素への分類については、筆者らの経験による判断も多く、事業所によってはほかの構成要素があると疑問をもたれることもあると推測する。

結果的に障害種別をあまり問わずに提案できる支援プログラム等が提案され(以下、プログラム群とする)、13 の SIM 要素による分類から 10 のプログラム群が抽出できた。このプログラム群は、標準的

プログラム等を構成する枠組みであるといえる。

本研究では、標準的プログラム等の構成要素を示すことまでしか至らなかった。

今後、標準的プログラム等の構成要素から具体的な支援プログラム等を例示したうえで、特定のニーズ・障害に応じた支援メニューを作成し、モデル事業所での実施検証と SIM による効果測定を行うなどの検討を進めていく必要がある。

標準的プログラム等を用いることで、利用者のニーズに沿ったメニューの選択を効果的に行うことができる。また、評価指標(エビデンス)による成果と選択されたメニューの構成により報酬等に成果が反映できる仕組みづくりについて引き続き検討が望まれる。

表 33 SIM による支援プログラム等分類(その1)

	健康 管理	金銭 管理	身の回りの 管理	買い物	調理	家事（調理以 外）	生活のセルフマ ネジメント	自動 車による移 動	公共交通機関・ 自動車による移 動	人間 関係	仕事・学 校	余 暇活 動	日 中活 動	制 度・サ ー ビス 活 用
身体機能の維持・向上訓練	○		○					○						
利き手交換訓練			○		○	○								
高次脳機能・認知訓練	○	○					○		○	○				○
言語訓練							○		○	○				○
摂食・嚥下訓練	○						○							
記憶・情緒の安定	○								○	○	○	○		
代替え手段の活用（手話、文字盤、メモリーノート、 意思伝達装置の活用など）						○			○	○				
起居訓練							○	○						
転倒訓練							○	○						
移乗							○	○						
屋内移動						○	○	○						
屋外移動				○			○	○		○	○	○		
車いす操作							○	○		○	○	○		
食事	○		○		○		○							
更衣			○			○	○							
排せつ			○				○							
入浴			○				○							
みだしなみ・整容			○			○	○		○					
白杖操作							○	○						
点字			○	○		○		○	○	○	○	○	○	○
疾病・健康管理	○		○											
食生活・栄養管理	○		○											
セルフケア	○					○	○							
生活リズム	○		○			○	○							
安全・危機管理（災害時の対応方法含む）							○							○
金銭・財産管理（管理に関すること、銀行・役所の利用 含む）		○	○											○
すまい			○			○	○							
電話の使用						○			○	○	○	○	○	○
掃除・整理			○			○	○							
洗濯			○			○	○							
買い物		○	○	○										
調理	○		○		○		○							
その他家事（ゴミだし含む）			○			○	○							

表 34 SIM による支援プログラム等分類(その2)

	健康管理	金銭管理	身の回りの管理	買い物	調理	家事(調理以外)	生活のセルフマネジメント	自動車による移動	公共交通機関・人間関係	仕事・学校	余暇活動	日中活動	制度・サービス活用
服薬管理	○		○										
服装			○			○	○						
自己理解							○		○				
障害の理解							○		○				
人間関係(親の介護、近隣の方との付き合い方含む)									○				
コミュニケーション(対人面、発生・発語練習は「1機能維持・向上訓練」でチェック)			○						○				
教育と学習										○			
就労生活	○								○	○			
恋愛・結婚・子育て(性についても含む)													
外出・余暇活動(通勤訓練は除く)								○			○	○	
公共交通機関の利用								○					
自動車利用・運転								○					
地域生活・参加											○	○	○
社会保障制度活用支援													○
障害福祉制度・サービス			○			○							○
介護保険制度・サービス			○			○							○
支援の活用(相談の仕方、生活資源活用含む)	○	○	○			○							○
権利の行使と擁護													○
職業前訓練(就労移行支援、就労継続支援A型の利用の見極めのための作業・創作活動含む)										○			
職業訓練・復職訓練(通勤訓練含む)								○		○			
就職活動支援(履歴書の書き方・面接練習など)										○			
職場実習支援									○	○			
資格取得のための訓練										○			
スポーツ活動	○										○	○	
PCなどのICT活用										○	○	○	
一般教養・教科学習											○	○	
ソーシャルスキルトレーニング(手法であるため、既にチェックした小項目の再計となります)									○		○	○	
音楽療法													
園芸療法													
アニマルセラピー													

表 35 SIM による支援プログラム等分類(その3)

	健康 管理	金銭 管理	身の回りの 管理	買い物	調理	家事 (調理以 外)	生活のセルフマ ネジメント	自動 車による移 動	公共交通機関・ 自動車	人間 関係	仕事・学校	余暇 活動	日中 活動	制度・サ ービス活 用
模擬生活訓練	○	○	○	○	○	○	○	○						○
家庭実習			○											
サービス担当者会議（開催・参加）・関係機関との調整														○
住環境面の改善（住宅改造、福祉用具の購入など）			○			○	○							○
医療機関・事業所探し・選定支援（相談支援・ケアマネ・日中活動）	○												○	○
事業所見学同行											○		○	○
事業所利用体験実習支援（グループホーム、入所施設含む）											○		○	○
求職活動（職場探し・選定）の支援											○			
職場見学同行											○			
職場体験実習同行											○			
職場との調整											○			
就労中の職場との調整・生活支援											○			
その他の同行支援												○	○	○
住まい探し（不動産屋等仲介業者への同行、物件の見学同行など、サ高住等含む）														○
契約行為等の手続き														○
消費者トラブルなど危険回避		○												○
職場・地域等周囲の理解促進										○	○	○	○	○
地域生活の中でのレクリエーション・余暇活動支援（機会や場の提供も含む）												○	○	○
各種制度の活用														○
サービス担当者会議（開催・参加）・関係機関との調整														○
障害理解促進（個別対応・学習・講座含む）							○			○				○
相談対応（利用者に関して）										○				
相談対応（家族に関して）										○				
地域等に対するボランティア活動										○		○	○	
他の障害者等に対するピアサポート活動										○		○		
利用者が（と共に）行う地域交流活動										○		○	○	
利用者が（と共に）行う地域づくり活動										○		○		

表 36 SIM 要素をもとにした標準支援プログラム案

SIM 要素から提案した支援プログラム等	標準支援プログラム案
<ul style="list-style-type: none"> ・身体機能や体力などの維持・向上に関するプログラム ・店舗までの移動や荷物をもつての移動を想定した移動プログラム ・移動機能を支える身体機能、認知機能の訓練プログラム 	<p>①身体機能を高めるプログラム</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・買い物を体験するプログラム ・決められた予算内で目的の買い物をするプログラム ・自分で自分の食事を準備する体験のプログラム ・献立から買い物、調理、片付けまで一連の動作を体験するプログラム ・掃除や整理、調理、洗濯など家事の体験や訓練のプログラム ・模擬生活体験プログラム 	<p>②調理や買い物など家事や生活に関連するプログラム</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・食生活や服薬管理など生活リズムを整えるためのプログラム ・医療機関の選定など健康管理を支える体制づくりのプログラム ・模擬生活体験プログラム(再掲) 	<p>③医療機関や服薬管理など健康管理に関連するプログラム</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・買い物や金銭の管理、銀行等の利用方法など実際の生活に反映できるプログラム ・消費者トラブルなど金銭・財産管理に関する研修的プログラム ・金銭管理を支える体制づくりのプログラム ・模擬生活体験プログラム(選択) 	<p>④金銭管理など生活管理に関連するプログラム</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・事業所外での余暇活動など外出を伴うプログラム ・公共交通機関の利用体験プログラム ・地域生活の中での活動の提供や情報、体験の機会の提供を支援するプログラム ・外出や余暇、スポーツ活動等事業所外で体験ができるプログラム ・他事業所の見学や実習等地域生活を想定した活動の体験とそれを支えるスキルトレーニングプログラム ・事業移行を支える体制づくりのプログラム ・職場・地域等の周囲に対する障害理解促進 	<p>⑤余暇活動や他事業所の見学など事業所外や事業移行に関連するプログラム</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・障害福祉制度などについて学ぶ教育的プログラム ・障害福祉制度、社会保障制度など諸制度や生活を守るための制度や知識の研修プログラム 	<p>⑥障害福祉制度など制度に関する教育的プログラム</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・自分のできる範囲で自分のことに取り組む(援助依頼含む)ことを体験するプログラム ・支援者に相談や援助依頼をすることを体験するプログラム ・自分の得手不得手や傾向等を認識し、制度の理解・活用を促進するプログラム 	<p>⑦自己の得手不得手を理解するなど自己理解に関連するプログラム</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者が主体的に選択して取り組める活動を提供するプログラム ・電話や点字、手話、メモリーノートなどの代替手段を含むコミュニケーション訓練プログラム 	<p>⑧主体的に選択、行動できる自己決定に関連するプログラム</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・サービス担当者会議の開催や参加による関係機関との調整 	<p>⑨サービス担当者会議の開催など支援を受けることに関連するプログラム</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・作業や創作活動などの作業体験プログラム ・幅広い就労に向けた準備としての実習・見学等の就労体験プログラム ・記憶や情緒の安定、屋外移動、点字など就労を支えるスキルトレーニングプログラム ・就職や復職に向けた支援 	<p>⑩就労に関するプログラム</p>

表 37 標準支援プログラム案とその具体的なプログラム

標準支援プログラム案	具体的な支援プログラム内容(例)
①身体機能を高めるプログラム	<ul style="list-style-type: none"> ・身体機能の維持・向上訓練 ・屋内移動・屋外移動 ・スポーツ活動 ・利き手交換訓練(肢体) ・車いす操作(肢体) ・白杖操作(視覚)
②調理や買い物など家事や生活に関連するプログラム	<ul style="list-style-type: none"> ・調理 ・買い物 ・掃除・整理 ・洗濯 ・電話の使用 ・生活リズム ・公共交通機関の利用 ・PC などの ICT 活用 ・模擬生活訓練
③医療機関や服薬管理など健康管理に関連するプログラム	<ul style="list-style-type: none"> ・医療機関等選定支援 ・服薬管理 ・食生活・栄養管理 ・疾病・健康管理 ・記憶・情緒の安定(発達)
④金銭管理など生活管理に関連するプログラム	<ul style="list-style-type: none"> ・金銭・財産管理 ・安全・危機管理 ・消費者トラブルなど危機回避 ・社会保障制度活用支援 ・模擬生活訓練(再掲)
⑤余暇活動や他事業所の見学など事業所外や事業移行に関連するプログラム	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所見学同行 ・事業所利用・体験実習支援 ・事業所などの選定支援 ・地域の中でのレクリエーション・余暇活動支援
⑥障害福祉制度など制度に関する教育的プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ・障害福祉制度・サービス ・社会保障制度活用支援(再掲) ・支援の活用
⑦自己の得手不得手を理解するなど自己理解に関連するプログラム	<ul style="list-style-type: none"> ・障害の理解 ・自己理解 ・代替手段の獲得 ・疾病・健康管理(肢体・精神)(再掲) ・記憶・情緒の安定(発達) ・高次脳機能・認知訓練(高次脳)
⑧主体的に選択、行動できる自己決定に関するプログラム	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション ・ソーシャルスキルトレーニング

	<ul style="list-style-type: none"> ・模擬生活訓練(再掲) ・住環境面の改善(肢体・精神) ・利用者が(共に)行う地域づくり活動(精神・発達) ・ピアサポート活動(精神・発達) ・相談対応(本人に対して)
⑨サービス担当者会議の開催など支援を受けること に関連するプログラム	<ul style="list-style-type: none"> ・支援の活用(再掲) ・サービス担当者会議の開催・関係機関との調整
⑩就労に関するプログラム	<ul style="list-style-type: none"> ・職業前訓練 ・職業訓練・復職訓練 ・職場実習支援 ・就職活動支援 ・PCなどのICT活用(再掲)